地質学雑誌　第118巻　第7号（通巻1402号）付録　平成24年7月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.15 No.7 July 2012

大阪府立大学創基 130 年記念事業

日本地質学会第 119 年学術大会　市民講演会

地震・津波・地盤災害
～知ること、伝えること～

日時：2012 年 9 月 16 日（日）　14：30 -17：00（開場 13：30）
会場：大阪府立大学なかもずキャンパス　U ホール白鷺
主催：一般社団法人日本地質学会・公立大学法人大阪府立大学

「将来の地震津波災害にどう備えるか
～過去の巨大地震大津波からの教訓～」
金田義行氏（海洋研究開発機構）
「内陸地震はどうして起こるのか？」
飯尾能久氏（京都大学）
「近畿の地盤特性と地震時の挙動」
三田村宗樹氏（大阪市立大学）

＊市民講演会の前後各 1 時間に会場エントランスホールにおいて
「市民向けポスター展示説明会」を行います。

大地震両川口津波記石碑（大阪市浪速区　大正橋東詰）
安政南海地震（1854 年）では、大阪市内の川に沿って津波が遡上し、甚大な被害を受けた。それを後世に伝えるために翌年建立された。

■参加費無料。どなたでもご参加いただけます。申込不要。
■お問い合わせ：
email：ishii@p.s.osakafu-u.ac.jp　電話：072-254-9279（石井和彦）
http://www.osakafu-u.ac.jp/event/2012/20120916.html

■会場へのアクセス
◎南海高野線「中百舌鳥」駅および地下鉄御堂筋線「なかもず」駅（5 番出口）より南東へ、約 1000 m。
◎南海高野線「白鷺」駅より南西へ、約 500 m。
◎南海本線堺駅、JR 阪和線三国ケ丘駅から南海バス（北野田駅前行 31、32 系統、堺駅から約 24 分、三国ケ丘駅から約 14 分）に乗車し、府立大学前下車。
※駐車場はありませんので、電車・バス等をご利用ください。

後援：大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府、大阪市、堺市、NHK 大阪放送局、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、朝日新聞社、一般社団法人全国地質調査業協会連合会、関西地質調査業協会

関連行事
地質情報展 2012 おおさか「過去から学ぼう　大地のしくみ」
期間：9 月 15 日（土）～17 日（月）
会場：大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター
詳しくは、http://www.gsj.jp/HomePageJP.html

「市民講演会」は、平成 24 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

日本地質学会*News*

Vol.15 No.7 July 2012

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　内藤一樹
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

大阪大会巡検参加申込受付中！ ……2

一般社団法人日本地質学会2012年度総会記事 ……3
総会議事録／2011年度事業経過報告／決算書類／予算書類／2012年度事業計画方針／2012年度名誉会員推薦文／2012年度50年会員顕彰者／2012年度各賞受賞理由

ご案内 ……22
第21回市民セミナー「大震災後の水環境－何が起こったのか，どう備えるか」／第15回日本水環境学会シンポジウム／第６回地殻応力国際シンポジウム

公募 ……22
鳴門教育大学教員公募／滋賀理科教育講座（地質鉱物学）教員公募

各賞・研究助成 ……23
2012年度「朝日賞」候補者推薦／平成24年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦／第２回「海のフロンティアを開く岡村健二賞」候補者公募／第34回（平成24年）沖縄研究奨励賞推薦応募／2013年度「猿橋賞」受賞候補者募集

紹介 ……24
Structural Geology　Haakon Fossen著（山路　敦）／四国中央部三波川変成帯の地質　遅沢壮一著（高橋治郎）／要説地質年代：The Concise Geologic Time Scale　Ogg, H. G., Ogg, G. & Gradstein, F. M. 著　鈴木寿志訳（新妻信明）

博物館だより ……26
福井県立恐竜博物館：平成24年度特別展　翼竜の謎－恐竜が見あげた「竜」

2012年度地質調査研修参加者募集のご案内 ……27

地質の日イベント報告： ……29
本部イベント：街中ジオ散歩in Tokyo「身近な地層や岩石を知ろう」／中部支部：サイエンスフェスティバルat 新潟大学／北海道支部：記念展示「私たちの生活を支える金属鉱床―札幌周辺の鉱山を例に―」／三浦半島活断層調査会：観察会「深海から生まれた城ヶ島」

院生コーナー ……33
World Conference on Paleontology and Stratigraphy 2011参加報告（半田直人）

学会記事 ……35
一般社団法人日本地質学会2011年度第４回理事会議事録／一般社団法人日本地質学会2012年度第１回理事会議事録／2011年度第10回執行理事会議事録／2011年度第11回執行理事会議事録

表紙紹介 ……39

CALENDAR ……39

会員特別割引販売：日本の地質構造100選

大阪大会関連ニュース

「都市から発信する地質学」
会場：大阪府立大学　中百舌鳥（なかもず）キャンパス
2012年９月15日（土）～17日（月・祝）

■参加申込受付中

WEBからの申込：８月17日（金）18：00締切（郵送：８/10必着）

■できるだけ堺市内に宿泊して下さい

大会参加者の堺市内宿泊施設の延べ宿泊数によって堺市からの助成金が決まりますので，宿泊予定の方は，できるだけ堺市内に宿泊していただきますようお願いします．市内の宿泊予約・関連情報は大会HPをご参照ください．

■講演内容等のプレス発表を予定しています

７月末：講演者・世話人からプレス発表希望募集
８月20日頃までに広報・行事委員会で選定
９月上旬：プレス発表

■緊急展示の申込について

本年も災害報告や社会的に影響のある新技術紹介などの「緊急展示コーナー」を設けます．ポスター展示を希望する方は，**８月31日（金）まで**に実行委員会にご連絡ください．
詳しくは，大会HPをご覧下さい．

大阪大会の関連情報は，大会HPをご参照ください．
〈http://www.geosociety.jp/osaka/content0001.html〉

事務局営業カレンダー　お休み ＊印は振替休日

7月 July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月 August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8/13-15：夏期休業

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12

2012大阪大会

大阪大会巡検参加申込受付中！

第119年学術大会（2012年・大阪）巡検の参加申込を受付中です．
今年は近畿の地質の理解を深めるために企画された興味深い巡検コースが目白押しです．多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしています．GISのワークショップや地学教育関連の半日巡検もあります．是非ご参加下さい．
各巡検コースの詳細は，大阪大会のホームページ（http://www.geosociety.jp/osaka/content0001.html）をご覧下さい．

巡検準備委員会　**奥平敬元**

【巡検・ワークショップ一覧】

A班　山陰海岸におけるジオパーク活動－大地と暮らしのかかわり－
日程：9/18（火）～9/19（水）←1泊2日
案内者：先山　徹・松原典孝（兵庫県立大）・三田村宗樹（大阪市立大）
費用概算：25,000円

B班　兵庫県南東部，川西－猪名川地域の超丹波帯と丹波帯
日程：9/14（金）←プレ巡検
案内者：菅森義晃・小泉奈緒子（大阪市立大）・竹村静夫（兵庫教育大）
費用概算：6,000円

C班　和泉山脈西端部：和泉層群と中央構造線
日程：9/18（火）
案内者：宮田隆夫・安　鉉善・猪川千晶（神戸大）
費用概算：6,000円

D班　中新世の室生火砕流堆積物
日程：9/18（火）
案内者：佐藤隆春・中条武司（大阪市立自然史博）・和田穣隆（奈良教育大）・鈴木桂子（神戸大）
費用概算：6,000円

E班　古琵琶湖層群における新・旧鮮新－更新統の境界
日程：9/18（火）
案内者：里口保文・山川千代美・高橋啓一（滋賀県立琵琶湖博）
費用概算：5,000円

F班　領家帯青山高原地域の変成岩類および花崗岩類
日程：9/14（金）←プレ巡検
案内者：河上哲生（京都大）・西岡芳晴（産総研）
費用概算：6,500円

G班　紀伊半島西部の秩父帯・黒瀬川帯
日程：9/18（火）～9/19（水）←1泊2日
案内者：八尾　昭（大阪市大）
費用概算：13,000円

H班　紀州白亜系四万十帯美山層のメランジュ変形構造と温度圧力履歴
日程：9/18（火）
案内者：橋本善孝（高知大）
費用概算：5,500円

I班　GISをつかってみよう←大阪市大でのワークショップ
日程：9/18（火）
講師：升本眞二・根本達也（大阪市大）
費用概算：800円（テキスト代）

J班　大阪の津波碑と地盤沈下対策←地学教育半日巡検
日程：9/17（月）
案内者：三田村宗樹（大阪市大）
費用概算：150円（保険代，別途電車代必要）

大会参加申込(巡検参加含む)締切：８月17日(金)（郵送８月10日締切）

一般社団法人日本地質学会2012年度総会記事

2012年度総会議事録

以下のとおり，2012定時社員総会を開催した．

日時　2012年５月19日（土）14：00～16：05
会場　北とぴあ　第２研修室（東京都北区王子１－１）

総会開始にあたり，議長･副議長，書記として本日出席代議員から以下の方々を選出し，議長及び副議長を議事録署名人とした．
議長：緒方信一；副議長：荒井晃作；
書記：橋本善孝・柴田伊廣

代議員（＝社員）総数　125名
議決権総数　125個
出席者数（委任状，議決権行使者含む）
89名　　この議決権総数　89個
〈第３号議案より出席者変更〉
出席者数（委任状，議決権行使者含む）
91名　　この議決権総数　91個
＊特定委任者の出席により，委任状も有効とした．

出席役員　理事（31名）代表理事（＝会長）：宮下純夫，理事：久田健一郎（副会長）渡部芳夫（副会長）天野一男　安藤寿男　石渡　明　伊藤谷生　井龍康文　上砂正一　永広昌之　北原哲郎　紺谷吉弘　斎藤　眞　坂口有人　佐々木和彦　柴　正博　高木秀雄　高橋正樹　竹内誠　田村嘉之　内藤一樹　西　弘嗣　楡井　久　平田大二　福富幹男　藤林紀枝　藤本光一郎　星　博幸　保柳康一　向山栄　山口耕生　脇田浩二
監事：青野道夫　山本正司　以上
理事32名，監事２名
総会定足数63名をこえる出席者があるので成立している旨議長が宣言し，議事に入った．

１号議案　2011年度理事会報告

藤本常務理事から資料にもとづき2011年度の理事会報告があり，中でも重要と思われることについては説明が付された．
また，2011年度内および総会開催の本日までに逝去された会員12名（うち名誉会員２名）に対し，黙祷を捧げた．

本議案についての質疑応答は以下のようであった．
会員の減少傾向についての分析・検討の必要性，地質学の必要性を社会に広める努力が足りないのではないかなどの意見がでた．これに対し宮下会長より，2011年の３.11に対する学会の対応や，科学技術・学術審議会の測地学文科会から「地震および火山噴火予知のための観測研究計画の見直し」に対する意見要請については，過去の地質学的な成果，周期性などが現実の防災対策に生かされなかったこと，地質学の重要性，地質学・地形学等の広範な分野の研究が国の防災計画に反映されるような制度を望むことなどをコメントしたことが説明された．また，地質学の地位向上，一般への普及活動としては広報誌“ジオルジュ“の発行・“ネット地学部チーとも“の開設など最大限の努力をしていることが説明された．その他１，２の質疑があったが，賛成多数で本議案は承認された．

２号議案　2011年度事業・決算報告

会計担当の向山執行理事から報告と説明があった．会費収入は予算どおり，会員の減少は予測したよりもやや遅れているが，団塊世代の定年の延長等が間もなく終わりになるのでいずれ会員も会費収入も予測どおり減少すること，2011年度において初めて法人として受託事業収入があったこと，法人税の対応などいくつかの要点が説明された．
続いて，山本監事より，2011年度の会計については，適切に処理されていることを確認した旨の会計監査報告があった．
本議案についてはとくに質疑応答はなく，賛成多数で本議案は承認された．

３号議案　定款改正

藤本常務理事より，２点の定款改正の趣旨説明ならびに関連する諸規則の変更点が報告として説明された．

１．定款第33条第２項の改正．
改正理由＞総会で会長以下の役員選任をすることに関し，総会と理事会の開催について，法的手続きの矛盾を解消する．
第５章　役員等
（選任等）
第33条　理事および監事は，総会の決議により別途定める選挙規則に基づき，代議員の選挙により選任する．
２　理事会は，理事会規則により会長１名，副会長２名，常務理事１名，副常務理事１名および執行理事を選任し，代議員に報告する．（改正前：総会はこれを決議する．）

２．定款第54条に第２項（１）～（３）号を追加改正．
改正理由＞一般社団法人の非営利型法人徹底の明確化（２項（１）），ならびに今後の公益法人化に必要な財産の管理運用上の禁止事項（２項（２），（３））を付け加える．
第７章　財産および会計
（財産の管理・運用）
第54条　この学会の財産の管理・運用は会長が行うものとし，その方法は理事会の決議により別に定める財産管理運用規則によるものとする．
２　以下の各号を財産の管理・運用上の禁止事項として定める．
（１）剰余金を分配すること．
（２）会員，役員もしくは使用人，基金の拠出者ならびにこれらの親族に対し，特別の利益を与えること．
（３）株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人もしくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し，寄附その他の特別の利益を与える行為を行うこと．ただし，公益法人に対し，当該公益法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は，この限りでない．

本議案については以下の質疑応答があった後，賛成多数で承認された．
会長以下の選出を総会で行わないということは，法人化によるトップダウンでの選任となるのでは，との意見があった．それに対し藤本常務理事から，代議員選挙の際の会長，副会長への立候補意思表示者への，会員による意向投票を尊重することを，理事会規則に追加，明記することで対応した旨の答があった．

４号議案　役員辞任

藤本常務理事より，青野監事から2011年９月付けで任期を１年残して2011年度末に辞任する旨の辞任届が提出されたとの報告があった．監事の任期は定款で４年と定められ，定数２名を同時に改選することが選挙規則第５条で定められている．法人化以前からの選出時期を引きずり，現在２名の監事の任期がずれている．任期を揃え，改選時期を統一して規則に適ったものとするために，青野監事には形式的に2011年度末で辞任の手続きをしていただいと説明があった．
陪席の一般会員より，辞任に際しては，残り任期の扱いを決めておく必要があるのではとの質問があった．これに対し，渡部副会長より，通常の辞任により補欠が選出される場合は補欠者が残任期間を引き継ぐが，今回の辞任は規則に合わせる経過的措置であり，任期を残さないことを前提として新たに４年任期の監事２名を同時に選出する選挙としたと答えた．

以上の質疑応答があった後，本議案は賛成多数で承認された．

5号議案　代議員及び理事・監事選挙報告

兼子選挙管理委員長から，会員による代議員選挙，代議員による理事および監事の選挙結果が報告され，選出された代議員は133名，理事50名，監事2名．

とくに，支部代議員の最上位得票者からなる支部代表理事の選出において，中部支部から同数上位者が出た扱いについて，現在の選挙規則には取り決めがないため，理事会に対応を求め，その結果，2名の代議員によるくじ引きで決定したことが報告された．

本議案についてはとくに質疑応答はなく，賛成多数で本議案は承認された．

＊新理事，監事名簿は巻末に添付

6号議案　2012年度事業計画

2012年度の事業計画について，藤本常務理事から説明があった．本議案の質疑応答は以下のとおりであった．

地層処分に関する研究は高レベルだけではなく低レベルについても積極的にやるべき，大学入試科目に地学を取り上げている大学が少ない，入試科目への拡大を図る努力をすること，幼稚園や小学校レベルの子供を扱う先生たちを，防災教育の立場から地学教育の対象とすべきではないか，学生層の学会離れに対する取り組みや，それら会員の制度を見直す必要性，などの意見が出た．

藤本常務理事より，地層処分についてはリーフレットを発行した，若手，学生層の学会離れについては，課題として認識しているとの答えがあった．

上記の質疑応答があった後，本議案は賛成多数で承認された．

7号議案　2012年度予算

会計担当の向山執行理事から，2012年度の予算案について詳細な説明があった．とくに収入については，会費以外の収入をふやす努力が必要なことから，受託事業，地質調査研修事業への期待があること，年会事業の収支相殺，人件費，事務所費などをはじめとする管理費については，昨年並みとし，引当金取り崩しをふくめて，収支相殺の予算案としたことが説明された．学会として研修事業を実施することを疑問視する意見も出されたが，本予算案は賛成多数で承認された．

8号議案　名誉会員の選出

名誉会員推薦委員会久田委員長より，名誉会員候補者として2名の会員が推薦され，委員会はこの2会員について検討した結果，名誉会員候補者として理事会に提案し，総会に推挙することなった説明があり，推薦文により候補者の業績等の紹介があった．

大八木規夫会員，蟹沢聰史会員を名誉会員とすることを賛成多数で承認した．

2012年5月19日

以上，決議を明確にするためこの議事録を作成し，議長，副議長および出席理事がこれに記名，押印する．

一般社団法人日本地質学会2012年度総会
総会議長　緒方　信一
総会副議長　荒井　晃作
代表理事　宮下　純夫
理　事　藤本光一郎

2012年度監事（任期4年）
青野　道夫（就任）山本　正司（重任）
以上2名

2012年度理事（任期2年）
天野　一男（重任）　安藤　寿男（重任）
石渡　明（重任）　伊藤　谷生（重任）
伊藤　慎（新任）　井龍　康文（重任）
市川八洲夫（新任）　ウォリス　サイモン（新任）
永広　昌之（重任）　太田　泰弘（重任）
大津　直（新任）　小山内康人（重任）
狩野　彰宏（重任）　笠間　友博（新任）
川端　清司（新任）　川辺　文久（新任）
清川　昌一（新任）　小嶋　智（重任）
斎藤　眞（重任）　坂口　有人（重任）
佐々木和彦（重任）　柴　正博（重任）
芝川　明義（重任）　高木　秀雄（重任）
高橋　正樹（重任）　竹内　誠（重任）
竹下　徹（重任）　田村　嘉之（重任）
内藤　一樹（重任）　中澤　努（新任）
西　弘嗣（新任）　久田健一郎（重任）
平田　大二（新任）　藤林　紀枝（重任）
藤本光一郎（重任）　星　博幸（重任）
保柳　康一（重任）　松田　達生（新任）
松田　博貴（重任）　宮下　純夫（重任）
宮田　隆夫（新任）　向山　栄（重任）
村田　明広（新任）　山口　耕生（重任）
矢島　道子（重任）　山路　敦（新任）
山田　泰広（重任）　山本　高司（新任）
脇田　浩二（重任）　渡部　芳夫（重任）
以上50名

定款の改正について

1．定款第33条第二項の改正

改正理由----------

法人化後の地質学会の会長・副会長選出の仕組みは，任意団体時代の「会長は会員選挙で選出する」という精神を，法人法による「理事長は理事会が選任する」という制約の中でどのように取り入れるかを考慮してつくられた．具体的には，会員による会長・副会長候補者への意向調査を実施し，それを参考にして理事会が会長以下の執行部を選任し，総会が決議するという方法をとっている．また，執行理事や理事についても，選挙広報に各自の抱負などを明記し会員に広く知らせるなど，選挙の透明性にも配慮をしてきた．法人化後2回の選挙を経て，この制度もある程度なじんできつつある．

一方で法務局からも指摘され，2011年度の総会でも議論したように，総会半ばで新理事会を開き，再開した総会で新旧代議員の交代，理事長以下役員の選出を決議する，また，それらを法的に適うものとするための総会議事録の二重性などが問題となっていた．

役員選考過程を含む総会の運営について，理事会で議論を重ねた結果，現在行われている代議員・役員選挙が透明性に配慮し，全会員の意向を反映しているということを確認し，定款第33条第2項を変更することとした．これによって，法的にも矛盾のない，総会運営・理事会運営を実行することができるようになるものと考える．

定款第5章　役員等
（選任等）
第33条　理事および監事は，総会の決議により別途定める選挙規則に基づき，代議員の選挙により選任する．
2　理事会は，理事会規則により会長1名，副会長2名，常務理事1名，副常務理事1名および執行理事を選任し，**代議員に報告する．**

＜変更前＞
2　理事会は，理事会規則により会長1名，副会長2名，常務理事1名，副常務理事1名および執行理事を選任し，総会はこれを決議する．

2．定款第54条に第2項（1）～（3）号を追加．

改正理由----------

一般社団法人の非営利型法人は税制の優遇が得られる．非営利型法人とは，以下の参考にある，1．非営利が徹底された法人，2．共益的活動を目的とする法人のどちらかの条件を全て満たすこととされている．地質学会の場合は，1の（2）「剰余金を分配しない」ことが定款に明記されていないために非営利型が徹底された法人とは判断されず，運営細則等の補助的資料も提示して，2の共益的活動を目的としている法人と判断されて非営利方法人の税制優遇を受けた．ただし，これは所轄の税務署の判断によるもので，認定書等の書類が交付されるようなことではない．非営利徹底の明確化と今後の公益法人化をにらみ，財産の管理運用について述べている定款第54条に，公益法人化に必要な他の禁止事項とともに，1の（2）に相当する文言を加えることとした．

定款第7章　財産および会計
（財産の管理・運用）
第54条　この学会の財産の管理・運用は会長が行うものとし，その方法は理事会の決議により別に定める財産管理運用規則によるものとする．
2　以下の各号を財産の管理・運用上の禁止事項として定める．

(1) 剰余金を分配すること．
(2) 会員，役員もしくは使用人，基金の拠出者ならびにこれらの親族に対し，特別の利益を与えること．
(3) 株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人もしくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し，寄附その他の特別の利益を与える行為を行うこと．ただし，公益法人に対し，当該公益法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は，この限りでない．

＜参考＞

1．非営利が徹底された法人の条件

(1) 主たる事業として収益事業を行わないこと
(2) 剰余金を分配しない旨の定めが定款にあること
(3) 解散時の残余財産を国もしくは地方公共団体又は公益社団法人等に帰属する定めを定款に置くこと
(4) 理事に，三親等以内の親族が３分の１を超えて含まれてはいけないという理事の親族制限に違反しないこと
(5) 過去に定款違反がないこと

2．共益的活動を目的とする法人の条件

(1) 会員に共通する利益を図る活動を行うことを主たる目的としていること
(2) 主たる事業として収益事業を行わないこと
(3) 定款等に会員が負担すべき金銭の額（会費）の定めがあること
(4) 定款に特定の個人や団体に，剰余金の分配を受ける権利を与える旨の定めがないこと
(5) 定款に解散時の残余財産を特定の個人や団体に帰属する定めがないこと
(6) 解散時の残余財産を国もしくは地方公共団体又は公益社団法人等に帰属する定めを定款に置くこと
(7) 理事に，三親等以内の親族が３分の１を超えて含まれてはいけないという理事の親族制限に違反しないこと
(8) 特定の個人又は団体に特別の利益を与えた事がないこと

参考報告資料：その他関係規則等の改正

(1) 理事会規則の改正

1．理事会規則第３条第１項ならびに第３項の変更

改正理由----------

定款第33条変更に伴い，理事会規則３条１項に意向投票尊重の文言を加え，３項を「総会報告」から「代議員に報告」に変更した．

理事会規則第２章　役員の選任
（会長，副会長，執行理事の選任）
第３条　理事会は，役員改選後の第１回理事会において，会長および副会長を選任する．**なお，選任にあたっては，会員の意向投票を尊重する．**
2　理事会は，理事の互選により，執行理事を選任し，執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ１名選任する．
3　理事会は，前項により選任された会長，副会長，常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を，定款第33条に基づき**代議員**に報告する．
4　執行理事に欠員が生じた場合には，理事会の互選により補充する．補充執行理事の任期は前任者残任期間とする．

＜変更前＞
第３条　理事会は，役員改選後の第１回理事会において，会長および副会長候補者を選任する．
2　理事会は，理事の互選により，執行理事を選任し，執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ１名選任する．
3　理事会は，前項により選任された会長，副会長，常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を，定款第33条に基づき総会に報告する．
4　執行理事に欠員が生じた場合には，理事会の互選により補充する．補充執行理事の任期は前任者残任期間とする．

(2) 運営規則の改正

1．地質見学旅行の名称変更に伴い，運営規則12条，13条ならびに地質学雑誌編集出版規則の改正

改正理由----------

見学旅行は，その「旅行」という名称から，物見遊山的な旅行をイメージされ，誤解により出張命令を受けにくい，研究費での参加が難しいなどの事例もある．そのため，行事委員会，理事会で検討し，「地質見学旅行」の名称を地学や地理学で日常的に使用される「巡検」に変更することとした．

1）運営規則第12条および13条中の「地質見学旅行」の文言を「巡検」とする．

第５章　学会誌その他の刊行物
第12条　学会は以下の刊行物を出版する．
(1) 地質学雑誌
(2) 地質学会News
(3) **巡検**案内書（CD-ROM版および印刷版）
（以下略）
第13条　本学会の刊行物の発行にあたっては，理事会規則で定められる以下の体制で行う．
(1) 地質学雑誌：地質学雑誌編集出版規則に従って，地質学雑誌編集委員会が編集する．
(2) 地質学会News：ニュース誌編集規則に従って，広報委員会が編集する．
(3) 巡検案内書：地質学雑誌編集出版規則に従って，地質学雑誌編集委員会が編集する．
（以下略）

2）地質学雑誌編集出版規則中の「地質見学旅行」の文言を「巡検」とする．

A．原稿の提出と受付および保管の原稿の届け先
（略）
2）郵送
必要事項を記入した所定の投稿原稿整理カードと必要な署名をした保証書を添えて投稿原稿のコピー（図・表を含む）３部を提出する．
（以下　略）
〒101-0032
東京都千代田区岩本町２-８-15 井桁ビル内
日本地質学会地質学雑誌編集委員会
巡検案内書については**巡検**案内書編集委員会宛とする．
（略）
B．地質学雑誌の内容
（略）
3．その他：上にあげたもののほかに，地質学雑誌補遺（**巡検**案内書）および編集委員会が適当と認めた事項．
（略）
Ⅰ．印　刷　原　稿
（略）
5．**巡検**案内書の刷り上がり制限ページに関しては別途定める．
（略）

2．ポスター発表の表彰に関する運営規則16条の改正

改正理由----------

優秀ポスター賞の選考，決定，表彰について，現状に合わせて部分的に規則を変更する．
文言の削除
第７章　表彰
第16条　本学会は地質学に関する優秀な研究業績を修めた者，並びに地質学の発展・普及による社会貢献の著しい者を顕彰するとともに
2　(1)～(10)　略
3　**前項の(1)～(7)および(9)，(10)の**表彰は，別途定める規則に従い，各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行い理事会が候補者を決定し，総会の承認を経て行う．
前項の**(8)の表彰は別途定める規則に従い，各賞選考委員会が候補者を選考・決定し，会長の承認を経て行う．**

3．関係して各賞選考規則第８項の改正

改正理由----------

小藤文次郎賞の受賞対象について，運営規則では会員，各賞選考規則では論文というよ

うに齟齬があったため賞の内容に鑑み，対象は会員とし，各賞選考規則を変更することとした．

8．日本地質学会小藤文次郎賞の受賞対象は次のとおりとする．
1）募集開始年9月までの過去2年間に**会員が発表した**，重要な発見または独創的な発想を含む論文を**発表した会員．**

2011年度事業経過報告

1．報告事項

1）会員の動静

2012年4月末現在の会員は，賛助会員26社，名誉会員71名，正会員3887名（うち院生割引100名，学部割引4名），会員総数3984名，2011年4月末と比べて64名の減少であり，その内訳は次のとおりである．

入会者144（賛助　0社，正会員 144名〔うち院生割引84名，学部割引15名〕）
退会者120（賛助　0社，正会員 120名〔うち院生割引 7名，学部割引 0名〕）
除籍者76（正会員　76名）
逝去者12（名誉会員 2名，正会員10名）
名誉会員：斎藤林次（2006/3/27）山岸猪久馬（2011/8/23）
正会員：西上原　航（2009/2/11），藤沢信一（2010/3/18），山田　純（2011/5/19），降旗和夫（6/18），長岡信治（7/10），安間　恵（7/15），宮地直道（10/30），佐藤世章（12/16），打矢貞子（2012/2/20），吉田　義（3/2）

2）学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

＜2011年度定時総会＞
日時：2011年5月21日　14：00～15：30
会場：総評会館　201会議室
議決権のある当法人社員総数　125名（定足数：63名）
総社員の議決権の数　125個　出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）84名，
議決権の総数　84個，出席理事　31名，出席監事　2名
審議事項：1）2010年度理事会報告，2）2010年度事業・決算報告，3）2011年度事業計画，4）2011年度予算案，5）名誉会員の選出
いずれの議案も賛成多数で承認．

＜理事会等の開催＞
・理事会（4回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載
・執行理事会（11回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載
・その他委員会（メールによる会議を含め，随時開催）

3）行事の開催

1．日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会
（日本鉱物科学会，茨城大学との共催）
会期：2011年9月9日～11日
会場：茨城大学
参加者：1131名（会員1017名，非会員114名）
・一般発表：780件：口頭466件（うち地質学会308件），ポスター314件（うち地質学会207件）
・シンポジウム：3件（26講演）
・優秀ポスター賞の授与：13件（ポスター発表のみ）
・見学旅行：実施10コース
・ランチョン：専門部会を中心に11件
・夜間小集会：11件
・就職支援プログラム：2011年9月10日
参加企業・団体：5社・1団体

＜日本地質学会各賞の授与式・日本鉱物科学会との合同受賞記念講演会＞
日時：9月9日（金）
会場：茨城大学講堂
・来賓挨拶　池田幸雄氏（茨城大学学長）
・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ
黒田潤一郎会員（海洋研究開発機構）
「白い時代の黒い石～白亜紀黒色頁岩の魅力と，白黒つかない問題～」
・日本地質学会柵山雅則賞受賞スピーチ
河野義生会員（HPCAT）
「弾性波速度を観察して」
・日本地質学会国際賞受賞記念講演　Dr. J. Casey Moore（米国カリフォルニア大学サンタクルズ校名誉教授）
「The Shimanto Complex and Ocean Drilling : Linking Across the Pacific」
・日本地質学会賞受賞記念講演　岩森　光会員（東京工業大学）
「地球内部の地質学」

＜年会関連行事＞
・地質情報展2011みと―未来に活かそう大地の鳴動―　2011年9月9日～11日
参加者：926名
・市民講演会「東日本大震災と地震・津波・原発」2010年9月11日，参加者：170名，講師：都司嘉宣，澤井祐紀，石橋克彦
・特別講演会「日本のジオパーク―列島の大地に学ぶ―」
講師：尾池和夫
・東日本大震災関連ポスター展示：2011年9月10日～11日，展示ポスター23編，38枚．
・茨城大学特別企画ポスター展示：茨城大学東日本大震災調査団のポスター展示10件．
・市民向けポスター展示：ポスター展示4件．
・地学教育委員会
小さなEarth Scientistのつどい～第9回小・中・高校生徒地学研究発表会：2011年9月11日，参加校9校，11件，うち3件に優秀賞を授与．4件の発表に対し奨励賞を授与．
第10回理科教員対象見学旅行：2011年9月10日，「J班：地層を見る・はぎ取る・作る」
案内者：伊藤孝，植木岳雪，中野英之，小尾　靖，牧野泰彦
2．地質の日　本部イベント（神奈川県立生命の星・地球博物館との共催）
・第2回惑星地球フォトコンテスト，表彰式
・講演会「微生物はいかにして地球環境を変えてきたか？～石から探る地球環境の進化史」（講師：山口耕生会員），5月14日，神奈川県立生命の星・地球博物館

4）出版物の刊行

＜地質学雑誌＞
・117巻4号（2011年4月）～118巻3号（2012年3月）を刊行した．総ページ数は699ページ．
・地質学雑誌補遺：水戸大会見学旅行案内書冊子版およびCD-ROM版

＜日本地質学会ニュース＞
・14巻4号（2011年4月）～15巻3号（2012年3月）を発行した．総ページ数は392ページ．

＜Island Arc＞
・Island Arc 編集委員会の編集により，Wiley-Blackwell社よりVol.20，Issue 2～Issue 4，Vol.21，Issue 1を刊行した．総ページ数は472ページ．

＜リーフレット＞
・たんけんシリーズ3「城ケ島たんけんマップ」2012年3月増刷

5）関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて，これまでに引き続きそれぞれの活動，関連学会の発展と連携に協力した．

日本地球惑星科学連合：評議員（宮下純夫），連絡委員（向山栄），プログラム委員（七山太，大坪誠），キャリアパス支援小委員会委員（佐々木和彦），環境・災害対応委員会-災害の委員（横山俊治），環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井衛），学術出版委員会委員（井龍康文），教育問題検討委員会（矢島道子，芝川明義，中井睦美，渡邉正人），国際委員会（副委員長　公文富士夫），地質科学関連学協会連合（天野一男），自然史学会連合（斎木健一），地理関連学会連合（藤本光一郎），土質・地質技術者生涯学習協議会（CPD，吉田孝紀），日本技術者教育認定機構（JABEE，天野一男），地質の日事業推進委員会（委員，藤林紀枝），原子力総合シンポジウム（運営委員，高橋正樹），アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員，山口耕生），富士学会：富士山科学看板設置調整委員会（専門委員，高橋正樹），日本ジオパーク委員会（委員　高木秀雄），国際地学オリンピック日本大会組織委員会（委員，宮下純夫），産総研地質調査総合センターJIS委員会（学会委員，斎藤靖二），第5回ジオパーク国際ユネスコ会議組織委員会

（顧問　宮下純夫），（NPO）地学オリンピック日本委員会広報小委員会（坂口有人），大学評価・学位授与機構の専門委員など．

6）その他報告事項（主なもの，そのほかはNews誌，HPに掲載の執行理事会議事録，理事会議事録参照）

＜特に他学協会との共催・後援，協賛行事，開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの＞

・筑波大学学校教育局　朝永振一郎記念第6回「科学の芽」賞の後援．
・土壌環境センター・フジサンケイビジネスアイほか主催「2011地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展」（2011年8/31-9/2日）の協賛．
・「地質の日フィールドワーク～紀の松島クルージングセミナー」：環境省近畿地方環境事務所（2011年5月14日）の後援．
・大阪市立自然史博物館第42回特別展「来て！見て！感激！大化石展」（2011年7/2-8/28日）の後援．
・日本粘土学会「第55回日本粘土科学討論会」（2011年9/14-16日）の後援．
・「地質情報展2011みと」：産総研との共催．
・青少年のための科学の祭典2011：日本科学技術振興財団（2011年5/14-2012/3/31）の後援．
・日本地球化学会2011年度年会（2011年9/14-16日）の共催．
・朝日新聞社主催「第九回高校生“科学技術チャレンジ”ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ～JSEC2011～」の後援．
・新潟大学理学部から2件の企画展示（会期：2011年7/9-8/31）への後援．
　「糸魚川ジオパークの化石展」新潟大学駅南キャンパス　ときめいと
　「佐渡の大地と海」新潟大学旭町学術資料展示館
・地質学雑誌の貸出：TBSテレビ関係の道具会社（有）オルフ（代表若山博氏）より，地質学雑誌等の借用の打診があり，確認の上貸出を了承．
・東レ科学振興会，第61回科学講演会「科学技術と知の文化」（2011年9/16日，朝日ホール）の後援．
・ゼオライト学会，「ZMPC2012 International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals」（2012年7/28日-8/1日，広島）の協賛．
・21世紀の地学教育を考えるフォーラム実行委員会「第12回子供のためのジオ・カーニバル」（2011年11/5-6日，大阪市立科学館）の後援．
・野尻湖発掘50周年記念式典およびシンポジウム（2011年10/1-2日，信濃町総合会館）の後援．
・第2回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会（2011年9/29日-10/1日，洞爺湖文化センター）の後援．
・いわて三陸ジオパーク震災復興シンポジウム（11/25，盛岡市アイーナホール）の後援．
・公益社団法人計測自動制御学会，「第37回リモートセンシングシンポジウム」（2011年10/31日）の協賛．
・むかわ町穂別博物館，「モササウルス国際シンポジウム」（2011年12/3日）の後援．
・産総研地質調査総合センター，「第1回アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策ワークショップ」（2012年2/22-25日，つくば）の後援
・地質汚染－医療地質－社会地質学会主催「第21回環境地質学シンポジウム」（2012年1/24-25日，早稲田大学国際会議場）に対し，環境地質部会が共催．
・香川大学“讃岐ジオパークに向けたガイド資料の作成と地域連携の推進”研究グループ主催「讃岐ジオパークをめざすシンポジウム」（2012年3/3-4日，香川大学）に対し，四国支部が後援．
・TECHNO-OCEAN2012（2012年11/18-20日，神戸国際会議場）への協賛．
・東海大学自然史博物館主催「第2回フォトコンテスト入賞作品の展示」（4月28日～5月13日）へ共催．
・光記念館主催　企画展「飛騨地方の活断層と地震」（2012年2/22-12/11）の後援．

7）支部の活動

＜北海道支部＞

1．2011年度「地質の日」記念展示（2011年3月8日～5月29日）
　北海道大学総合博物館企画展示「豊平川と私たち―その生いたちと自然―」．
　　北海道大学総合博物館主催，北海道立総合研究機構地質研究所，札幌市博物館活動センター，北海道地質調査業協会，日本地質学会北海道支部共催．
　地質見学ツアー「札幌軟石ウオッチング」（5月21日）札幌建築鑑賞会，札幌軟石文化を語る会，北海道立総合研究機構地質研究所との共催，参加者33名．
2．野外巡検および講演会「白滝ジオパーク地質見学会・講演会」（2011年6月25日～6月26日）．白滝ジオパーク巡検（6月25日～26日，案内：和田恵治，加藤孝幸，岡孝雄，米島真由子），参加者28名．講演会「ジオパークとは何だ!?―遠軽の大地の遺産―」（6月25日）於遠軽町（和田恵治，廣瀬亘，田近淳），参加者70名．
3．北海道支部総会・個人講演会・地質災害討論会（2012年2月11日）於北海道大学
　・総　会（9:30-10:20）参加者23名
　・個人講演会（10:30-12:45）発表8件，参加者43名
　・地質災害討論会2012（14:00-17:00）出席者44名．東日本大震災の現地報告，防災教育の現状などについて5件の話題提供をもとに質疑応答，討論を行った．
4．北海道地質百選検討
　公開済みジオサイト数は324カ所（2012年2月1日現在）に達した．豊平川，札幌西方の山々，積丹，礼文島，支笏カルデラの5ヶ所のオンライン北海道ジオパーク（OHG）を公開中．

＜東北支部＞

1．震災により，3/13日に予定していた支部総会等が中止，12月17日～18日の総会まで実質活動停止．
2．2011年12月17日～18日に2011年度総会，個人後援会，2013年仙台大会にむけての話し合い等をおこない，支部幹事県は山形大学に移行した．

＜関東支部＞

1．地質技術伝承講演会（4月24日　会場：大田区産業プラザ）
　「トンネル事前調査の課題と物理探査」（講師　三木　茂　基礎地盤コンサルタンツ（株））
　共催：関東地質調査業協会　参加者：61名
2．秩父ジオパーク活動への協力「秩父札所巡りジオウォーキング」
　第3回（10月30日）参加者50名，第4回（12月11日）参加者50名
　主催：秩父まるごとジオパーク推進協議会，後援：日本地質学会関東支部
3．地質見学会
・城ヶ島見学会（11月19日）参加者：50名
　案内者：蟹江康光，山本由弦・柴田健一郎，三浦半島活断層調査会
・霞ヶ浦見学会（11月26日）参加者：32名
　案内者：岡崎浩子，中里裕臣，霞ヶ浦導水路事務所，共催：日本応用地質学会
4．水戸大会準備・担当
・広報（支部会員メール配信・NEWS誌・ジオフラッシュ）
・見学会コース準備（10コース），案内書編集委員
・シンポジウム「関東盆地の地質・地殻構造とその形成史」共催：東大地震研
・トピックスセッション「関東平野の更新統層序とテクトニクス」共催：日本第四紀学会
・東日本大震災関連ポスター（23編，38枚）
・夜間小集会　大震災関連
5．震災関連対応
・臨時特別委員会設置の要望
・作業部会開催（4月29日）
・東日本大震災作業部会報告（5月21日）NEWS誌，HP
・いわき活断層調査（7月9～10日）
6．支部活動
・支部総会（4月8日　会場：北とぴあ）
　支部幹事改選，活動報告，会計報告，活動計画，支部規約改正
・支部功労賞授与（3個人・団体）
　かわさき宙（そら）と緑の科学館（川崎市青少年科学館），茨城大学地質情報プロジェクト，府川宗雄氏
・幹事会　10回開催（1回/月程度）
・長期方針会議（3月20日　会場：箱根）

＜中部支部＞
1．地質の日イベント
・サイエンスファスティバル，新潟大学，参加者335名
2．中部支部総会（6月11日，名古屋大学東山キャンパス，参加者27名，委任状64名）
3．シンポジウム「濃尾平野の形成とテクトニクス」（6月11日，名古屋大学東山キャンパス，参加者約30名）
4．地質見学会「天正地震によるせき止め湖堆積物と足助剪断帯シュードタキライト」（6月12日，参加者17名）
＜近畿支部＞
1．2011年度支部体制
支部長：宮田隆夫（神戸大学），代表幹事：奥平敬元（大阪市大），行事：小林文夫（兵庫県立人と自然の博物館），会計：大串健一（神戸大学），庶務：竹村静夫（兵庫教育大学），幹事：里口保文（滋賀県立博物館），和田穣隆（奈良教育大学），田中里志（京都教育大学），三田村宗樹（大阪市大），此松昌彦（和歌山大学）
2．行事報告
・地質の日イベント
第28回地球科学講演会「はやぶさ探査と小惑星の起源」（2011年5月15日（日），場所：大阪市立自然史博物館講堂，講師：中村昭子氏〔神戸大学大学院理学研究科准教授〕）主催：地学団体研究会大阪支部・日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館
・山陰海岸ジオパークイベント：「山陰海岸ジオパーク研究会」（2011年5月28日（土），場所：鳥取市とりぎん文化会館第2会議室，口頭発表6件，ポスター発表11件，参加者40名）主催：日本地質学会近畿支部（協力：山陰海岸ジオパーク推進協議会）
・総会・シンポジウム：「紀伊半島の地質特性と台風12号による斜面災害」（2011年12月4日（日），場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス）
＜四国支部＞
1．2011年度支部体制　支部長：臼井　朗，幹事：榊原正幸（事務局長），村田明広，西山賢一，寺林　優，近藤康生，奈良正和，佐野　栄
2．行事報告
・第11回日本地質学会四国支部総会・講演会（2011年12月23日（金）），場所：徳島大学総合科学部3号館1階スタジオ，講演件数：口頭発表10件，ポスター発表7件
＜西日本支部＞
1．2011年度の支部体制　支部長：宮本隆実，幹事：小山内康人・早坂康隆・山本啓司・松田博貴・酒井哲弥・永尾隆志・石原与四郎・太田泰弘・木戸道男・福田泰英・宮本知治（庶務），監事：中野伸彦
2．行事報告
・地質学会西日本支部・九州考古学会合同大会（兼：第161回西日本支部例会）
「考古学と地球科学の融合研究の最前線」
日時：平成23年7月9日（土）・10日（日），場所：九州大学西新プラザ（10日（日）は巡検），
一般講演：基調発表　5件（うち，西日本支部会員　3件），ポスター発表　9件（うち，西日本支部会員　3件）
・第162回西日本支部例会・2011年度総会
日時：平成24年2月11日（土），場所：鹿児島大学理学部
講演件数：口頭講演　24件（うち，特別講演1件），ポスター発表15件
・後援行事等『「地質の日」くまもと』企画，日時：平成23年5月4日（水・祝）・7日（土）

2．執行理事会および理事会議決・承認事項
1）理事会議長・副議長の選出．
議長：竹内　誠，副議長：榊原正幸
2）各賞選考規則の変更と各賞選考委員の任期：各賞選考委員の任期について各賞選考委員会規則を変更し，委員の任期を2年とする．具体的には規則2項2）の改正で，以下のとおりとなる．
＜各賞選考委員会規則＞（抜粋）
2．各賞選考委員会（以下選考委員会という）は，理事会が推薦する10名の委員と前・現地質学雑誌編集委員長および前・現副委員長，Island Arc前・現編集委員長で構成する．
1）理事会推薦委員の10名は，専門を考慮して理事の互選により選出し，委員長はこの委員間の互選とする．
2）理事会推薦委員の任期は<u>2年とする．</u>
これに伴い，前年度第1回の理事会において選出された選考委員全員の任期の継続も承認．
<u>理事の互選（10名）</u>：天野一男，安藤寿男，上砂正一，永広昌之，狩野彰宏，榊原正幸（委員長），竹下　徹，松田博貴，村田明広，山田泰広，
<u>役職指定委員（8名）</u>：久田健一郎，岩森光，小嶋　智，山路　敦，石渡　明，Wallis Simon，井龍康文，前川寛和．
3）選挙管理委員会委員の選出：2012年度代議員および役員選挙管理委員の承認．委員長は互選．
委員氏名：氏家恒太郎，兼子尚知（委員長），高橋　聡，守屋和佳，和仁良二
4）受託業務に係る受託研究取扱規則案，受託研究国内旅費細則・受託研究謝金細則が提案され承認．
5）地質学雑誌編集出版規則の制定：①最近の投稿・編集・出版事情に即した変更，②短報の廃止による変更，③文献例を規則からはずし細則とする，④特集号の申込書から“前文”を削除，⑤数式の書式に関する細則を新たに追加．“編集規則”を廃止し，“地質学雑誌編集出版規則”を設けることを承認．
6）東日本大震災対応作業部会の設置と対応について：執行理事会のもとに「東日本大震災対応作業部会」が設置された．5月21日付で作業部会告書が提出された．
作業部会委員：池田安隆・伊藤谷生・佐藤比呂志・重松紀生・宍倉正展・中山俊雄・平田　直（非会員）・藤井敏嗣・藤本光一郎（幹事）・山本高司（幹事）
7）特集号の論文の早期公開の実施について，「早期」公開はHP上の会員ページで行う．要旨はフリーで公開する．
8）小藤文次郎賞の短報枠：小藤賞の対象となる短報が残っているうちは，小藤文次郎賞とは別に短報を対象とする小藤賞が並立して存在することを確認．
9）部会・支部の連絡ツールとしてSNS（Social Networking Service）を導入することを了承．
10）2013年以降の年会開催地について．
2013東北・北海道ブロック：東北大学（2013年9月13日～15日）
2014西日本支部：鹿児島大学
2015中部支部：信州大学
11）地質災害委員会：斎藤眞副常務理事を委員長に選出し，以下のとおり委員会を組織した．
・支部委員：川村信人（北），越谷　信（東北），本田尚正（東），野沢竜二郎（中），三田村宗樹（近），榊原正幸（四），奥村晃史（西）
・専門部会委員：安藤　伸（応用），黒田登美雄（四紀），木村克己（地域地質），三浦大助（火山），上砂正一（環境地質）
・支部長：竹下　徹（北），竹谷陽二郎（東北），伊藤谷生（東），原山　智（中），宮田隆夫（近），臼井　朗（四），宮本隆実（西）
12）山田科学振興財団助成金への推薦：推薦希望者2名，地質学会として推薦を了承．
13）行動規範の策定について:理事会の策定要請を受け，「一般社団法人日本地質学会行動規範」（案）が提案され，承認．
14）総会の運営およびそれにともなう役員の選出過程について：法務局からの指摘を受け，総会の運営および役員の選出過程について，定款に抵触する箇所は今後修正を検討することとし，総会運営の変更案を承認．
・5月定時総会は現在（改選前）の代議員，役員による総会とし，代議員および理事，監事の選挙結果の承認，次期予算や事業計画などを議決する．
・いったん休憩を入れてその間に新年度理事による第1回理事会を開催し，代表理事，執行理事等を決定する．
・休憩後の総会で，先に行われた第1回理事会決定事項を承認する．
15）寄付取扱規則の策定について：寄付取扱規則策定の提案と規則案を承認．支部における寄付の取り扱いも本規則によることを確認．

16）委員会の設置申請について：理事会規則第16条に基づき，環境地質部会から委員会設置の申請があり，検討の結果再提出を要請し，委員会の内容を自然放射線量に関する調査・研究とすること，委員会の名称は「放射線測定・調査研究委員会」，設置期間：2011年10月１日～2013年９月30日の２年間として承認した．

17）野外調査安全指針の策定について承認．本指針は“年会における見学旅行（支部も）”も対象とすることを付記．

18）環境地質部会から東日本大震災に関連して，①学会で行われた放射性廃棄物に関する過去の公開討論会の内容の再検討，②津波の想定や活断層の予測等に関する他学会との公開討論会の開催の必要性，③プレートテクトニクスと日本列島の形成に関する公開討論会の必要性に関して，意見と提案がなされたが，理事会内で議論した結果，これら３つの提案を否決．

19）国際賞受賞者のMoore教授から震災関係の研究に対し，国際賞の賞金10万円を寄付したいとの申し入れがあり，寄付取扱規則に基づいて，ご厚志を受けることとした．

20）東レ科学技術研究助成候補者推薦の応募について：推薦希望者１名，地質学会として推薦を了承．

21）笹川科学技術研究助成/実践研究部門への推薦：推薦希望者１名，地質学会として推薦を了承．

22）震災復興事業として事業プランを募集した結果８件の応募があった．そのうち，下記の６件を採択した．

榊原正幸・佐野栄：放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション

高橋正則：微生物による放射性物質の除染

永広昌之・佐々木理：歌津魚竜館大型標本レスキュー事業

大石雅之：陸前高田市立博物館標本救済事業

卜部厚志：関東平野内陸部の住宅地での盛土材質の相違による液状化要因の解明

上砂正一：福島第一原発周辺の放射線量の測定方法と地質学的除染方法の検討

23）地質技術者教育委員会の設立について：技術者継続教育委員会ならびにJABEE委員会を廃止し，「地質技術者教育委員会」の新設を承認．

24）名誉会員推薦委員会委員の選出：委員長；久田健一郎副会長

・階層別委員：大学；佐野弘好（九州大学），官公庁；栗本史雄（産総研），小中高；田中義洋（学芸大学附属高，会社；須藤　宏（応用地質㈱）

・職責委員：支部長；竹下　徹，竹谷陽二郎，伊藤谷生，原山　智，宮田隆夫，臼井　朗，宮本隆実

・理事会推薦委員：永広昌之理事

25）2012年度の総会は，５月19日（土）に開催することを承認．

26）理事会推薦監事候補者について：社外監事候補者として，現監事の山本正司氏を決定．

27）地質調査研修事業について：地学情報サービス（株）の解散に伴い，同社が実施してきた，産総研の認定研修制度を利用した地質調査研修事業の継承依頼について検討し，引き継ぐことを承認．2012年度はモデルケースとして執行理事会・社会貢献部会が関東支部の協力のもとに実質的な運営を行う．

28）広報誌の編集その他のために会員等からサイエンスライターを募集，次の通り決めた．

会員：遠藤大介・川端訓代・北村有迅・笹沢教一・正木裕香・土屋　健

非会員：岡山悠子（日本科学未来館）

29）2012年度の選挙のための立会人として，次の２名を選出した．その後，選挙管理委員会の要請により，選挙立会人の代理人を追加選出した．

巌谷敏光会員（産総研），山本由弦会員（JAMSTEC），立会人代理：田中伸明会員（東京学芸大学・院生）

30）学会HPに「地質学者に答えてもらおう」コーナーを開設．常務陣をキーパーソンとして，運用開始．

31）SNSによる友の会を新学期に合わせて本格開始する方針を承認．

32）北中康文ほか著による「列島自然めぐり日本の地形・地質－見てみたい台地の風景116」(2012年３月中旬出版，文一総合出版）について，学会推薦名義使用の申請を承認．

33）各賞選考検討委員会を設置し，地質学会賞・小澤賞の選考を諮問した．

・指定委員：宮下純夫・石渡明・鳥海光弘・岩森光・小嶋智・久田健一郎・井龍康文・前川寛和・Simon Wallis（委員長），執行理事会の推薦者：松本良会員，大友幸子会員．

・Island Arc賞については，Island Arc編集委員会に選考を諮問した．

34）山田科学振興財団研究助成への推薦希望者１名，承認．

35）支部の代議員選挙で同数トップ当選者が出たため，支部の代表理事を選出するにあたり，どちらを選出するかその方法について，選挙管理委員会からの要請があった．理事会のメール審議で検討し，当該当選者の郵送によるくじ引きとすることを決めた．選挙管理委員会に対し，郵送によるくじ引きを実施するよう要請．

36）広報誌ジオルジュ創刊号の発行を決めた．部数：創刊号は宣伝用も含め，１万部，５月10日発行，２回発行/年．

37）SNS友の会の名称は，「ネット地学部“ちーとも”」とする（メルマガ：４月創刊．６回配信/年）．

38）広報関係規則類を策定：ジオルジュ編集委員会細則，ネット地学部“ちーとも”運営細則・ネット地学部“ちーとも”利用規則の３規則を承認．

39）2012年地質の日行事について

・応用地質学会との合同行事「街中ジオ散歩　in Tokyo」（５月13日）を実施．

・第３回フォトコンテストを実施，表彰式は５月19日の総会直前に行う．入賞作品の展示は（４月21日～６月３日）千葉県立中央博物館で，地質学会主催，千葉県立中央博物館共催により行うこととした．

40）年会見学旅行の実施方法：従来の実施方法が旅行業法に抵触する可能性とのことで，弁護士や旅行業者の意見も聞きながら検討を進め，既に準備が進んでいる大阪大会は従来通りの方法で実施することを確認．

41）大阪大会の参加登録費等：会員・非会員全ての参加登録費について水戸大会の設定を踏襲する．

42）韓国地質学会の新会長 Yu, Kang Min 教授（兪剛民，延世大学校）を大阪大会に招待する．

43）国立国会図書館より：インターネット資料の収集等に係わる許諾について承諾．

44）第３回フォトコン審査結果について：最優秀賞１件，優秀賞３件，入賞12件を選考した．

45）「年会の回り持ち順変更に関する申し合わせ」の修正案を了承．回り持ち変更の要件ならびに決定手続きは以下のとおり．

変更要件：「予定されている大会開催を延期したい場合」・「予定されている大会開催が困難・不可能な状況になった場合」・「回り持ち順に割って入るように大会開催を希望する場合」

決定手続き：支部長と開催校代表者が行事委員会に連絡すること，それを受けて行事委員会が各方面と調整し，順番変更の決定は理事会が行う．

46）「見学旅行」の名称を「巡検」と変更することが提案され，承認した．

47）定款の変更：非営利型法人の重要条件として，定款上に，剰余金の分配をしないことを明記することとし，定款第54条に２項１号～３号を追加することとした．理事会審議およびメール補足審議（審議期間：2012年４/26～５/７）を経て以下のように承認した．【３号議案】

第54条　この学会の財産の管理・運用は・・・・・財産管理運用規則によるものとする．

２．以下の各号を財産の管理・運用上の禁止事項として定める．

(1) 剰余金を分配すること．

(2) 会員，役員もしくは使用人，基金の拠出者ならびにこれらの親族に対し，特別の利益を与えること．

(3) 株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人もしくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し，寄附その他の特別の利益を与える行為を行うこと．ただし，公益法人に対し，当該公益法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は，この限りでない．

48）総会の運営およびそれにともなう役員の選出過程について修正案を再提案（第４回理事会）：これに関しては，第３回の理事会で定款の修正が承認されたが，さらに検討し，修正再提案された．定款第33条の理事，監事の選任については「総会決議」から，「総会への報告」に改正したが，修正提案の「代議員への報告」とすることを承認した．それにあわせ，運営規則のいくつかの条文の微修正（現組織等に合致したもの）についての提案があり，これを承認．総会では，選挙結果の承認（理事の選任）を行い，総会後，第１回目の理事会で代表理事以下を選任する．理事会終了後，速やかに代議員に報告を行う．

２　理事会は，理事会規則により会長１名，副会長２名，常務理事１名，副常務理事１名および執行理事を選任し，**総会に報告する．**

49）規則類の変更

１）各賞選考規則第８項１）の小藤文次郎賞の受賞対象について，「論文」となっているのを「論文を発表した会員」と修正する提案がされ承認した．

８．日本地質学会小藤文次郎賞の受賞対象は次のとおりとする．

１）応募開始年９月までの過去２年間に~~会員が発表した~~，重要な発見または独創的な発想を含む論文を**発表した会員．**

２）運営規則第16条第３項の各賞の表彰に関して，優秀ポスター賞の表彰実態に合わせ，３項の文言の修正が提案され，了承した．

（表彰）第16条　本学会は地質学に関する優秀な研究業績を修めた者，ならびに・・・・・永年会員顕彰を授与する．

３　**前項の（1）～（7）および（9），（10）**の表彰は，別途定める規則に従い，各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行い理事会が候補者を決定し，総会の承認を経て行う．**前項の（8）の表彰は別途定める規則に従い，各賞選考委員会が候補者を選考・決定し，会長の承認を経て行う．**

３）“46)”を受けて，運営規則及び地質学雑誌編集出版規則の数カ所にある「見学旅行」をすべて「巡検」に変更する提案を了承した．

４）**理事会規則第３条第１項ならびに第３項**について，定款第33条第２項の変更に伴い以下のように変更することを承認．

第３条　理事会は，役員改選後の第１回理事会において，**会長および副会長を選任する．なお，選任にあたっては，会員の意向投票を尊重する．**

２　理事会は，理事の互選により，執行理事を選任し，執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ１名選任する．

３　理事会は，前項により選任された会長，副会長，常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を，定款第33条に基づき**代議員**に報告する．

４　執行理事に欠員が生じた場合には，理事会の互選により補充する．補充執行理事の任期は前任者残任期間とする．

50）2011年度事業報告を承認した．【１号議案】

51）2011年度決算案を承認した．【２号議案】

52）次の19名の会員を50年会員として顕彰することとした．

浅地良樹　荒木英夫　有坂正一　池田宜弘　大塚裕之　菅野重也　熊井久雄　酒井潤一　渋谷　紘　高橋　豊　徳岡隆夫　西村祐二郎　服部陸男　林　等　原田正史　福冨幹男　松尾征二　的場保望　宮沢忠治

53）2012年度事業計画基本方針および2012年度予算案を承認した．【６号議案，７号議案】

54）名誉会員推薦委員会から提案された下記の２名の会員を総会に推挙することとした．【８号議案】

大八木規夫会員，蟹沢聰史会員

55）各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した．（推薦文は１号議案資料２　参照）

・日本地質学会賞（１件）

木村　学（東京大学大学院理学系研究科）

対象研究テーマ：テクトニクス，付加体地質学，沈み込みプレート境界地震発生帯物質科学

・日本地質学会小澤儀明賞（１件）

山本伸次（東京大学大学院総合文化研究科）

対象研究テーマ：造山運動論

・日本地質学会 Island Arc賞（１件）

授賞論文：Barber, A. J. and Crow, M. J., 2009. Structure of Sumatra and its implications for the tectonic assembly of Southeast Asia and the destruction of Paleotethys, Island Arc, 18, 3-20.

・日本地質学会論文賞（２件）

Yoshimoto, M., Fujii, T., Kaneko, T., Yasuda, A., Nakada, S. and Matsumoto, A., 2010. Evolution of Mount Fuji, Japan: Inference from drilling into the subaerial oldest volcano, pre-Komitake. Island Arc, 19, 470-488.

Uchino, T. and Kawamura, M., 2010. Tectonics of an Early Carboniferous forearc inferred from a high-P/T schist-bearing conglomerate in the Nedamo Terrane, Northeast Japan. Island Arc, 19, 177-191.

・日本地質学会小藤賞（１件）

佐藤峰南・尾上哲治，2010. 中部日本，美濃帯の上部トリアス系チャートから発見したNiに富むスピネル粒子．地質学雑誌，116，575-578.

・日本地質学会小藤文次郎賞（１件）

坂口有人（海洋研究開発機構）

Sakaguchi, A., Chester, F., Curewitz, D., Fabbri, O., Goldsby, D., Kimura, G., Li, C.-F., Masaki, Y., Screaton, E. J., Tsutsumi, A., Ujiie, K. and Yamaguchi, A., 2011. Seismic slip propagation to the updip end of plate boundary subduction interface faults: Vitrinite reflectance geothermometry on Integrated Ocean Drilling Program NanTroSEIZE cores. Geology published online, doi: 10.1130/G31642.1.

・日本地質学会研究奨励賞（３件）

増渕佳子（富山市科学博物館）

対象論文：増渕佳子・石崎泰男，2011，噴出物の構成物組成と本質物質の全岩および鉱物組成から見た沼沢火山のBC3400カルデラ形成噴火（沼沢湖噴火）のマグマ供給系．地質学雑誌，117，357-376.

針金由美子（産業技術総合研究所）

対象論文：Harigane, Y., Michibayashi, K. and Ohara Y., 2010. Amphibolitization within the lower crust in the termination area of the Godzilla Megamullion, an oceanic core complex in the Parece Vela Basin. Island Arc, 19, 718-730.

森宏（名古屋大学大学院環境学研究科）

対象論文：Mori, H. and Wallis, S. R., 2010. Large-scale folding in the Asemi-gawa region of the Sanbagawa Belt, southwest Japan. Island Arc, 19, 357-370.

・日本地質学会表彰（２件）

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）

表彰業績：自然・環境保全活動および地質学の教育・普及への貢献

狩野謙一（静岡大学理学部）・村田明広（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

表彰業績：教科書発行と構造地質学普及への貢献

56）５月19日開催予定の総会議案を承認．

一般社団法人日本地質学会2011年度収支決算

2011年4月1日～ 2012年3月31日

科　目	2011年度予算案	2011年度決算	差　異
Ⅰ事業活動収入の部			
1.事業活動収入			
1)基本財産運用収入	20,000	11,218	8,782
基本財産利息収入	20,000	11,218	8,782
2)特定資産運用収入	0		0
3)会費収入 1)	45,000,000	45,156,850	△ 156,850
正会員会費収入	41,770,000	41,885,000	△ 115,000
正会員院生割引	1,600,000	1,431,850	168,150
正会員学生割引	130,000	65,000	65,000
賛助会員会費収入	1,500,000	1,775,000	△ 275,000
4)事業収入	28,480,000	28,434,559	45,441
①出版事業収入	9,600,000	10,564,605	△ 964,605
雑誌販売収入	3,000,000	3,111,760	△ 111,760
雑誌印刷負担金収入	2,000,000	1,796,800	203,200
別刷収入	1,000,000	948,385	51,615
論集収入	200,000	209,575	△ 9,575
リーフレット販売収入	700,000	709,910	△ 9,910
バックナンバー等売上	100,000	166,220	△ 66,220
広告料収入	300,000	846,200	△ 546,200
アイランドアーク編集収入	2,300,000	2,285,979	14,021
雑収入	0	489,776	△ 489,776
②年会開催事業収入 2)	9,900,000	10,447,093	△ 547,093
参加登録費収入	5,100,000	5,773,200	△ 673,200
懇親会参加費収入	1,000,000	889,000	111,000
地質見学旅行参加費収入	2,000,000	2,201,900	△ 201,900
資料等販売収入(講演要旨)	300,000	242,000	58,000
同　見学旅行案内書	700,000	708,400	△ 8,400
展示収入	700,000	408,765	291,235
広告収入		136,500	△ 136,500
雑収入	100,000	87,328	12,672
③普及事業収入	400,000	242,500	157,500
普及資料等販売収入	400,000	242,500	157,500
④支部・部会等活動事業収入	260,000	136,000	124,000
イベント参加費収入	200,000	136,000	64,000
資料等販売収入	40,000		40,000
雑収入	20,000		20,000
⑤受託事業収入		975,282	△ 975,282
受託調査・研究		975,282	△ 975,282
⑥補助金・寄付金等収入 3)	1,400,000	1,991,830	△ 591,830
出版事業に係る補助金・寄付金	0	488,472	△ 488,472
広報・普及事業に係る補助金・寄付金	1,400,000	1,384,718	15,282
その他助成金	0	118,640	△ 118,640
⑦雑収入	380,000	517,249	△ 137,249
受け取り利息	20,000	5,935	14,065
引当金受取利息	60,000	11,017	48,983
その他の収入	300,000	500,297	△ 200,297
⑧他会計からの繰入金収入 4)	6,540,000	3,560,000	2,980,000
事業準備金からの繰入金収入	3,200,000	2,700,000	500,000
年会開催引当金からの繰入金収入	1,000,000	0	1,000,000
普及書出版引当金からの繰入金収入	1,200,000	0	1,200,000
研究奨励費引当金からの繰入金収入	200,000	700,000	△ 500,000
構造部会引当金からの繰入金収入	940,000	160,000	780,000
【事業活動収入計】	73,500,000	73,602,627	△ 102,627
【前年度繰越金】	25,091,657	25,091,657	0
【収入合計】	98,591,657	98,694,284	△ 102,627

科　目	2011年度予算案	2011年度決算	差　異
Ⅱ. 事業活動支出の部			
1)事業費支出 5)	59,864,000	57,242,495	2,621,505
①出版事業	34,536,000	34,880,322	△ 344,322
a 給料手当支出	5,000,000	4,846,392	153,608
b 賞与支給支出	800,000	1,053,284	△ 253,284
c 退職金支出	96,000	96,000	0
d 法定福利費支出	800,000	765,385	34,615
e 会議費支出	100,000	52,275	47,725
f 旅費交通費支出	120,000	189,702	△ 69,702
g 通信運搬費支出	4,700,000	4,472,313	227,687
h 消耗什器備品費支出	720,000	563,239	156,761
I 消耗品費支出	400,000	420,674	△ 20,674
k 光熱水料費支出	300,000	263,485	36,515
l 貸借料支出	2,650,000	2,629,220	20,780
印刷製本費支出	14,500,000	15,287,646	△ 787,646
出版編集費	500,000	317,403	182,597
負担金支出	0	252,016	△ 252,016
委託費支出 6)	3,800,000	3,642,030	157,970
m雑支出	50,000	29,258	20,742
②年会開催事業 7)	11,994,000	12,111,618	△ 117,618
a 給料手当支出	1,250,000	1,211,598	38,402
b 賞与支給支出	200,000	263,321	△ 63,321
c 退職金支出	24,000	24,000	0
d 法定福利費支出	200,000	191,348	8,652
臨時雇賃金支出＊	800,000	648,180	151,820
旅費交通費支出	200,000	106,908	93,092
通信運搬費支出＊	100,000	108,095	△ 8,095
機器賃借料支出＊	1,200,000	1,910,632	△ 710,632
消耗品費支出＊	50,000	126,715	△ 76,715
印刷製本費支出＊	1,150,000	845,317	304,683
会場貸借料支出＊	1,000,000	1,468,051	△ 468,051
懇親会実施支出＊	1,000,000	732,980	267,020
保険料支出＊	20,000	8,648	11,352
委託費支出＊	1,100,000	1,315,207	△ 215,207
雑支出＊	500,000	473,363	26,637
見学旅行案内書印刷費	700,000	635,250	64,750
見学旅行実施支出	2,500,000	2,042,005	457,995
③普及事業 8)	5,034,000	4,923,561	110,439
a 給料手当支出	1,250,000	1,211,598	38,402
b 賞与支給支出	200,000	263,321	△ 63,321
c 退職金支出	24,000	24,000	0
d 法定福利費支出	200,000	191,348	8,652
e 会議費支出	50,000	30,551	19,449
f 旅費交通費支出	200,000	178,592	21,408
g 通信運搬費支出	550,000	397,554	152,446
h 消耗什器備品費支出	160,000	416,851	△ 256,851
I 消耗品費支出	250,000	233,525	16,475
j 印刷製本費支出	400,000	366,258	33,742
臨時雇賃金支出	0	308,600	△ 308,600
会場貸借料支出	750,000	526,460	223,540
諸謝金支出	150,000	111,110	38,890
負担金支出	300,000	450,000	△ 150,000
委託費支出	400,000	0	400,000
m 雑支出	150,000	213,793	△ 63,793
④支部・部会等活動事業 9)	5,000,000	790,474	4,209,526
旅費交通費支出	600,000	363,530	236,470
通信運搬費支出	150,000	32,372	117,628
機器賃借料支出	350,000		350,000
消耗品費支出	80,000	20,565	59,435
印刷製本費支出	1,400,000	34,530	1,365,470
会場貸借料支出	200,000	82,236	117,764
保険料支出	20,000	2,300	17,700
諸謝金支出	150,000	222,622	△ 72,622

科　目	2011年度予算案	2011年度決算	差　異
Ⅱ. 事業活動支出の部			
負担金支出	850,000		850,000
雑支出	1,200,000	32,319	1,167,681
⑤受託事業費	**0**	**706,030**	**△ 706,030**
謝金支出		548,000	△ 548,000
旅費交通費		158,030	△ 158,030
⑥研究奨励事業 10)	**1,300,000**	**2,060,620**	**△ 760,620**
賞授与支出	600,000	662,120	△ 62,120
雑支出	700,000	1,398,500	△ 698,500
⑦特別事業費	**2,000,000**	**1,769,870**	**230,130**
震災関連事業	2,000,000	1,769,870	230,130
2)管理費支出 11)	**15,596,000**	**15,096,290**	**499,710**
a 給料手当支出	5,000,000	4,846,392	153,608
b 賞与支給支出	800,000	1,053,283	△ 253,283
c 退職金支出	96,000	96,000	0
d 法定福利費支出	800,000	764,379	35,621
e 会議費支出	350,000	224,479	125,521
f 旅費交通費支出	1,000,000	774,836	225,164
g 通信運搬費支出	1,000,000	1,307,239	△ 307,239
h 消耗什器備品費支出	720,000	760,841	△ 40,841
I 消耗品費支出	450,000	232,121	217,879
j 印刷製本費支出	300,000	415,713	△ 115,713
k 光熱水料費支出	300,000	263,476	36,524
l 貸借料支出	2,650,000	2,629,220	20,780
諸謝金支出	500,000	591,920	△ 91,920
租税公課支出	30,000	1,400	28,600
負担金支出	200,000	652,658	△ 452,658
m 雑支出	1,400,000	482,333	917,667
3)法人税等支出	**70,000**	**70,000**	**0**
4)法人税等追徴金支出	**0**	**0**	**0**
5)他会計への繰出金支出	**0**	**495,271**	**△ 495,271**
退職金引当金への繰出金支出	0	3,122	△ 3,122
年会開催準備引当金への繰出金支出	0	1,467	△ 1,467
研究奨励費引当金への繰出金支出	0	881	△ 881
普及書出版引当金への繰出金支出	0	489,106	△ 489,106
総目録印刷引当金への繰出金支出	0	695	△ 695
【事業活動支出計】	**75,530,000**	**72,904,056**	**2,625,944**
【事業活動収支差額】	**△ 2,030,000**	**698,571**	**△ 2,728,571**
次期繰越収支差額	**23,061,657**	**25,790,228**	**△ 2,728,571**

＜注＞

1) 会員の減少傾向は続いている.
2) 年会費用は収支相殺を基本とする.
3) 情報展および市民講演会の科研費交付.
4) 震災による災害特別事業, 会員名簿刊行のため各引当金を取崩す. 研究奨励引当金取り崩し額の増は、メダル、バッチ、ケースなどの不足補充作成費としてあてた。
5) ①～③各事業費支出の管理費(a～m)は管理費支出との案分比例.
6) 職員の産休、育休により、編集業務の外注費.
7) 合同大会のため、*印の費用は案分比例にて双方が負担した。参加者数は、地質学会3、鉱物科学会1の割合、地質学会の収支はわずかにプラスとなった.
8) 地質情報展、市民講演会は科研費にて実施。
9) 支部, 部会の事業はやや低調。
10) メダル, バッチ、ケース等の追加作製費等でやや支出増となった。
11) 管理費全体としては予算どおり、事務局整備費分が支出少なく残となった.

計算書類に対する注記（2011年度）

1．重要な会計方針

1）引当金の計上について

・事業準備引当金：将来的な事業，前年度未完事業，会員名簿出版，大規模災害調査・研究などのために引当.
・年会開催補助費引当金：年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当.
・退職手当引当金：期末要支給額を見込んで引当.
・普及書出版引当金：地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の普及書出版に備え引当.
・総目録刊行費引当金：目録刊行取りやめのため，使用方針が決まるまで据え置き.
・研究奨励引当金：会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当.
・構造地質部会特別引当金：旧構造地質研究会の残余金を暫定的に引当.

2）資金の範囲について

資金の範囲には現金，預金，未収金，立替金，仮払金，預り金，未払金，前受金を含める.

なお，期末残高は下記に示すとおりである.

2．基本財産の残高状況は次のとおりである.

科　目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
預　金	30,000,000	0	0	30,000,000
合計（基本財産）	30,000,000	0	0	30,000,000

3．次期繰り越し収支差額の内容は，次のとおりである.

科　目	前期末残高	当期末残高
現金（切手残高含）	49,323	153,909
預　金	59,184,507	56,711,246
未収金	126,000	2,436,303
立替金	94,182	1,750
仮払金	0	327,653
合　計	59,454,012	59,630,861
預り金	1,623,855	1,453,228
未払金	0	564,265
前受金	32,738,500	31,823,140
合　計	34,362,355	33,840,633
次期繰越収支差額	25,091,657	25,790,228

正味財産増減計算書

（自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月 31日）

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減	備考
Ⅰ.一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用収入	11,218	17,549	△ 6,331	
特定資産運用収入	11,017	0	11,017	
会費収入	45,156,850	46,903,825	△ 1,746,975	
事業収入				
出版事業収入	10,564,605	10,637,533	△ 72,928	
年会開催事業収入	10,447,093	9,799,995	647,098	
普及事業収入	242,500	442,200	△ 199,700	
支部・部会等活動事業収入	136,000	792,450	792,450	
受託事業収入	975,282			
事業収入計	22,365,480	21,672,178	693,302	
補助金・寄付金等収入	1,991,830	3,587,984	△ 1,596,154	
雑収入	506,232	331,873	174,359	
経常収益計	70,042,627	72,513,409	△ 2,470,782	
(2)経常費用				
事業費				
出版事業費	19,499,095	14,383,153	5,115,942	
年会開催事業費	10,421,351	10,905,263	△ 483,912	
普及事業費	1,396,170	1,160,126	236,044	
支部・部会等活動事業費	790,474	3,554,727	△ 2,764,253	
研究奨励事業費	2,060,620	653,757	1,406,863	
特別事業費	1,769,870			
受託事業費	706,030			
事業管理費	20,598,885	23,124,412	△ 23,124,412	(注1)
事業費計	57,242,495	53,781,438	3,461,057	
管理費				
人件費	6,760,054	8,341,959	△ 1,581,905	
旅費交通費	774,836	820,124	△ 45,288	
事務所賃借料	2,629,220	2,487,864	141,356	
事務諸費	4,519,847	3,110,050	1,409,797	
雑費	482,333	400,912	81,421	
管理費計	15,166,290	15,160,909	5,381	
経常費用計	72,408,785	68,942,347	3,466,438	
当期経常増減額	△ 2,366,158	3,571,062	△ 5,937,220	
2.経常外増減の部				
(1)経常外収益				
事業準備引当金取崩額	2,700,000	0	2,700,000	
研究奨励引当金取崩額	700,000	500,000	200,000	
構造地質部会特別引当金取崩額	160,000	2,270,000	△ 2,110,000	
経常外収益計	3,560,000	2,770,000	790,000	
(2)経常外費用				
退職手当引当金繰入額	3,122	11,591	△ 8,469	
年会開催補助費引当金繰入額	1,467	13,222	△ 11,755	
普及書出版引当金繰入額	489,353	824,209	△ 334,856	
総目録印刷費引当金繰入額	634	2,663	△ 2,029	
研究奨励引当金繰入額	695	13,856	△ 13,161	
経常外費用計	495,271	865,541	△ 370,270	
当期経常外増減額	3,064,729	1,904,459	1,160,270	
当期一般正味財産増減額	698,571	5,475,521	△ 4,776,950	
一般正味財産期首残高	57,091,657	39,248	57,052,409	
承継正味財産額	0	51,576,888	△ 51,576,888	(注2)
一般正味財産期末残高	57,790,228	57,091,657	698,571	(注3)

科目	当年度	前年度	増減	備考
Ⅱ.指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
Ⅲ.正味財産期末残高	57,790,228	57,091,657	698,571	

（注） 1～3 前年度の数字は任意団体承継財産を含む。

貸　借　対　照　表

2012年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現　金	153,909	49,323	104,586
預　金	56,711,246	59,184,507	△ 2,473,261
未収金	2,436,303	126,000	2,310,303
立替金	1,750	94,182	△ 92,432
仮払金	327,653	0	327,653
流動資産合計	59,630,861	59,454,012	176,849
2．固定資産			
（1）基本財産			
預　金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) その他の固定資産			
敷金・保証金	2,000,000	2,000,000	0
特定資産	(32,607,526)	(35,672,255)	△(3,064,729)
事業準備引当預金	7,600,000	10,300,000	△ 2,700,000
退職手当引当預金	8,665,842	8,662,720	3,122
年会開催補助費引当預金	6,111,274	6,109,807	1,467
普及書出版引当預金	4,965,226	4,475,873	489,353
総目録刊行引当預金	2,640,041	2,639,407	634
研究奨励引当預金	1,845,143	2,544,448	△ 699,305
構造地質部会特別引当預金	780,000	940,000	△ 160,000
その他の固定資産合計	34,607,526	37,672,255	△ 3,064,729
固定資産合計	64,607,526	67,672,255	△ 3,064,729
資産合計	124,238,387	127,126,267	△ 2,887,880
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
預り金	1,453,228	1,623,855	△ 170,627
未払金	564,265	0	564,265
前受金	31,823,140	32,738,500	△ 915,360
流動負債合計	33,840,633	34,362,355	521,722
2．固定負債			
引当金			
事業準備引当金	7,600,000	10,300,000	△ 2,700,000
退職手当引当金	8,665,842	8,662,720	3,122
年会開催補助費引当金	6,111,274	6,109,807	1,467
普及書出版引当金	4,965,226	4,475,873	489,353
総目録刊行引当金	2,640,041	2,639,407	634
研究奨励引当金	1,845,143	2,544,448	△ 699,305
構造地質部会特別引当金	780,000	940,000	△ 160,000
固定負債合計	32,607,526	35,672,255	△ 3,064,729
負債合計	66,448,159	70,034,610	△ 3,586,451
Ⅲ　正味財産の部			
1.　指定正味財産	0	0	0
2.　一般正味財産	57,790,228	57,091,657	698,571
正味財産合計	57,790,228	57,091,657	698,571
負債及び正味財産合計	124,238,387	127,126,267	△ 2,887,880

財　産　目　録

2012年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	金　額		
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金（現金及び切手手元有高）	153,909		
預貯金(別表のとおり)	56,711,246		
未収金	2,436,303		
立替金	1,750		
仮払金	327,653		
流動資産合計		59,630,861	
2．固定資産			
（1）基本財産			
預　金	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
敷金・保証金(井桁ビル預け)	2,000,000		
特定資産	(32,607,526)		
事業準備引当預金	7,600,000		
退職手当引当預金	8,665,842		
年会開催補助費引当預金	6,111,274		
普及書出版引当預金	4,965,226		
総目録刊行引当預金	2,640,041		
研究奨励引当預金	1,845,143		
構造地質部会特別引当預金	780,000		
その他の固定資産合計	34,607,526		
固定資産合計		64,607,526	
資産合計			124,238,387
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
預り金（ｱｲﾗﾝﾄﾞｱｰｸ購読料，社保料他）	1,453,228		
未払金	564,265		
前受金（2011年4月以降の会費）	31,823,140		
流動負債合計		33,840,633	
2．固定負債			
引当金	(32,607,526)		
事業準備引当金	7,600,000		
退職手当引当金	8,665,842		
年会開催補助費引当金	6,111,274		
普及書出版引当金	4,965,226		
総目録刊行引当金	2,640,041		
研究奨励引当金	1,845,143		
構造地質部会特別引当金	780,000		
固定負債合計		32,607,526	
負債合計			66,448,159
正味財産			57,790,228

2012年5月11日

一般社団法人日本地質学会
会長　宮下　純夫　殿

一般社団法人日本地質学会会計監査
山本　正司
青野　道夫

2011年度(平成23年度)会計監査報告

2011年度（平成23年度）の財務諸表，並びにそれらに関連した書類，預金通帳などを監査した結果，これらはすべて正確であり，かつ適正に会計処理されたものであることを認めます．

以上

一般社団法人日本地質学会2012年度収支予算

2012年4月1日～2013年3月31日

科　目	2012年度予算	2011年度予算	増　減
Ⅰ事業活動収入の部			
1.事業活動収入			
1)基本財産運用収入	20,000	20,000	0
基本財産利息収入	20,000	20,000	0
2)特定資産運用収入	0	0	0
特定資産運用収入	0	0	0
3)会費収入 1)	43,970,000	45,000,000	△ 1,030,000
正会員会費収入	41,000,000	41,770,000	△ 770,000
正会員院生割引	1,350,000	1,600,000	△ 250,000
正会員学生割引	70,000	130,000	△ 60,000
賛助会員会費収入	1,550,000	1,500,000	50,000
4)事業収入	27,375,000	28,480,000	△ 1,105,000
①出版事業収入	9,130,000	9,600,000	△ 470,000
雑誌販売収入	2,500,000	3,000,000	△ 500,000
雑誌印刷負担金収入	1,500,000	2,000,000	△ 500,000
別刷収入	1,000,000	1,000,000	0
広報誌販売収入	250,000		250,000
論集収入	100,000	200,000	△ 100,000
リーフレット販売収入	730,000	700,000	30,000
バックナンバー等売上	150,000	100,000	50,000
広告料収入	800,000	300,000	500,000
広報誌企画料	100,000		100,000
アイランドアーク編集収入	2,000,000	2,300,000	△ 300,000
②年会開催事業収入 2)	9,835,000	9,900,000	△ 65,000
参加登録費収入	5,800,000	5,100,000	700,000
懇親会参加費収入	900,000	1,000,000	△ 100,000
地質見学旅行参加費収入	2,100,000	2,000,000	100,000
資料等販売収入(講演要旨)	300,000	300,000	0
同　見学旅行案内書	0	700,000	△ 700,000
展示収入	500,000	700,000	△ 200,000
広告収入	135,000		135,000
雑収入	100,000	100,000	0
③普及事業収入	200,000	400,000	△ 200,000
普及資料等販売収入	200,000	400,000	△ 200,000
④支部・部会等活動事業収入	270,000	260,000	10,000
イベント参加費収入	200,000	200,000	0
資料等販売収入	50,000	40,000	10,000
雑収入	20,000	20,000	0
⑤受託事業収入 3)	1,000,000	0	1,000,000
受託調査・研究	1,000,000	0	1,000,000
⑥地質調査研修事業収入 4)	780,000	0	780,000
研修参加費	780,000	0	780,000
⑦補助金・寄付金等収入 5)	1,300,000	1,400,000	△ 100,000
広報・普及事業に係る補助金・寄付金	1,300,000	1,400,000	△ 100,000
⑧雑収入	380,000	380,000	0
受け取り利息	6,000	20,000	△ 14,000
引当金受取利息	14,000	60,000	△ 46,000
その他の収入	360,000	300,000	60,000
⑨他会計からの繰入金収入 6)	4,480,000	6,540,000	△ 2,060,000
事業準備金からの繰入金収入	1,500,000	3,200,000	△ 1,700,000
年会開催引当金からの繰入金収入	1,000,000	1,000,000	0
普及書出版引当金からの繰入金収入	1,200,000	1,200,000	0
研究奨励費引当金からの繰入金収入		200,000	△ 200,000
構造部会引当金からの繰入金収入	780,000	940,000	△ 160,000
【事業活動収入計】	71,365,000	73,500,000	△ 2,135,000
【前年度繰越金】	25,790,228	25,091,657	698,571
【収入合計】	97,155,228	98,591,657	△ 1,436,429

科　目	2012年度予算案	2011年度予算	増　減
Ⅱ．事業活動支出の部			
1)事業費支出 7)	54,239,000	59,864,000	△ 5,625,000
①出版事業	33,056,000	34,536,000	△ 1,480,000
a 給料手当支出	6,120,000	5,000,000	1,120,000
b 賞与支給支出	1,280,000	800,000	480,000
c 退職金支出	96,000	96,000	0
d 法定福利費支出	1,000,000	800,000	200,000
e 会議費支出	100,000	100,000	0
f 旅費交通費支出	450,000	120,000	330,000
g 通信運搬費支出	4,000,000	4,700,000	△ 700,000
h 消耗什器備品費支出	500,000	720,000	△ 220,000
I 消耗品費支出	450,000	400,000	50,000
k 光熱水料費支出	260,000	300,000	△ 40,000
l 貸借料支出	2,500,000	2,650,000	△ 150,000
印刷製本費支出	15,000,000	14,500,000	500,000
出版編集費	1,000,000	500,000	500,000
委託費支出	250,000	3,800,000	△ 3,550,000
m雑支出	50,000	50,000	0
②年会開催事業 8)	11,509,000	11,994,000	△ 485,000
a 給料手当支出	1,530,000	1,250,000	280,000
b 賞与支給支出	320,000	200,000	120,000
c 退職金支出	24,000	24,000	0
d 法定福利費支出	250,000	200,000	50,000
臨時雇賃金支出	800,000	800,000	0
旅費交通費支出	250,000	200,000	50,000
通信運搬費支出	100,000	100,000	0
機器賃借料支出	1,500,000	1,200,000	300,000
消耗品費支出	50,000	50,000	0
印刷製本費支出	900,000	1,150,000	△ 250,000
会場貸借料支出	1,600,000	1,000,000	600,000
懇親会実施支出	900,000	1,000,000	△ 100,000
保険料支出	10,000	20,000	△ 10,000
委託費支出	1,100,000	1,100,000	0
雑支出	75,000	500,000	△ 425,000
見学旅行案内書印刷費	0	700,000	△ 700,000
見学旅行実施支出	2,100,000	2,500,000	△ 400,000
③普及事業	4,844,000	5,034,000	△ 190,000
a 給料手当支出	1,530,000	1,250,000	280,000
b 賞与支給支出	320,000	200,000	120,000
c 退職金支出	24,000	24,000	0
d 法定福利費支出	250,000	200,000	50,000
e 会議費支出	50,000	50,000	0
f 旅費交通費支出	130,000	200,000	△ 70,000
g 通信運搬費支出	350,000	550,000	△ 200,000
h 消耗什器備品費支出	100,000	160,000	△ 60,000
I 消耗品費支出	150,000	250,000	△ 100,000
j 印刷製本費支出	350,000	400,000	△ 50,000
臨時雇賃金支出	350,000	0	350,000
会場貸借料支出	360,000	750,000	△ 390,000
諸謝金支出	130,000	150,000	△ 20,000
負担金支出	500,000	300,000	200,000
委託費支出		400,000	△ 400,000
m 雑支出	250,000	150,000	100,000
④支部・部会等活動事業 9)	1,900,000	5,000,000	△ 3,100,000
旅費交通費支出	500,000	600,000	△ 100,000
通信運搬費支出	150,000	150,000	0
機器賃借料支出	50,000	350,000	△ 300,000
消耗品費支出	40,000	80,000	△ 40,000
印刷製本費支出	60,000	1,400,000	△ 1,340,000
会場貸借料支出	200,000	200,000	0
保険料支出	0	20,000	△ 20,000
諸謝金支出	400,000	150,000	250,000

科　目	2012年度予算案	2011年度予算	増　減
Ⅱ．事業活動支出の部			
負担金支出		850,000	△ 850,000
雑支出	500,000	1,200,000	△ 700,000
⑤受託事業費	710,000	0	710,000
謝金支出	550,000	0	550,000
旅費交通費	160,000	0	160,000
雑支出	0	0	0
⑥地質調査研修事業支出	670,000	0	670,000
諸謝金支出	250,000	0	250,000
旅費交通費支出	130,000	0	130,000
資料作成費	96,000	0	96,000
雑	194,000	0	194,000
⑦研究奨励事業	550,000	1,300,000	△ 750,000
賞授与支出	400,000	600,000	△ 200,000
雑支出	150,000	700,000	△ 550,000
⑧特別事業費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
震災関連事業	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
2)管理費支出 10)	17,056,000	15,596,000	1,460,000
a 給料手当支出	6,120,000	5,000,000	1,120,000
b 賞与支給支出	1,280,000	800,000	480,000
c 退職金支出	96,000	96,000	0
d 法定福利費支出	1,000,000	800,000	200,000
e 会議費支出	350,000	350,000	0
f 旅費交通費支出	960,000	1,000,000	△ 40,000
g 通信運搬費支出	1,140,000	1,000,000	140,000
h 消耗什器備品費支出	500,000	720,000	△ 220,000
I 消耗品費支出	450,000	450,000	0
j 印刷製本費支出	720,000	300,000	420,000
k 光熱水料費支出	260,000	300,000	△ 40,000
l 貸借料支出	2,500,000	2,650,000	△ 150,000
諸謝金支出	600,000	500,000	100,000
租税公課支出	130,000	30,000	100,000
負担金支出	200,000	200,000	0
m 雑支出	750,000	1,400,000	△ 650,000
3)法人税等支出	70,000	70,000	0
4)法人税等追徴金支出		0	0
5)他会計への繰出金支出		0	0
【事業活動支出計】	71,365,000	75,530,000	△ 4,165,000
【事業活動収支差額】	0	△ 2,030,000	2,030,000
次期繰越収支差額	25,790,228	23,061,657	2,728,571

＜注＞

1) 会員の増加が期待できず，やや減額.
2) 年会費用は収支相殺を基本とする.
3) 受託の予定はないが昨年実績に沿って予算化
4) 需要を見込んで実施準備を開始する.
5) 情報展および市民講演会の科研費交付内定.
6) 震災による災害特別事業新規等，ジオルジュ創刊号のためにを引当金取崩し.
7) ①～③各事業費支出の管理費(a～m)は管理費支出との案分比例.
8) 富山大会並み+開催地に立地を考慮.
9) 各支部，部会の事業予算を勘案
10) 管理費全体としては前年実績，給料手当て支出は、育休終了につき編集業務外注終了で増額.

2012年度事業計画基本方針

2011年３月11日に発生した東日本大震災は日本社会に深刻な影響を与えた.そのために,昨年度の重要課題として上げられていた地学オリンピックつくば大会が中止されるなど,本学会の事業内容も大きく影響を受けた．しかし，支部や部会，委員会などの努力により，以下に要約するように成果をあげることができた．

東日本大震災に関しては，日本地質学会からの提言や震災対応作業部会による総括を行なうとともに，2011年度事業計画に震災復興にかかわる事業費を計上し，被災地域の博物館や研究機関への支援や震災に関する研究の促進に取り組んだ．さらに，台風12号による紀伊半島における地盤災害について，初めての取組みとして他学会との合同調査団を派遣した．

水戸での学術大会は，様々な困難を乗り越えて日本鉱物科学会・茨城大学との共同開催という形で開催された．東日本大震災や惑星探査に関する両学会共催の一般公開シンポジウム，地震や津波などをテーマにした市民講演会，市民に向けた震災関連ポスター展示など，社会的関心に応えるとともに地質学の意義や役割を提起する場ともなった．

Island Arc，地質学雑誌は，多彩な特集号や総説が続々と掲載されており，ほぼ順調に発行されている．

ジオパーク運動も着実に前進し，世界ジオパークとして室戸が新たに認定された．国内ジオパークも世界ジオパーク５地域を含めて20地域となり，着実に増加しつつある．地学オリンピックも参加者が着実に増加しており，世界大会での金メダル獲得という快挙もあった．リーフレットでは一昨年の城ケ島たんけんマップや地層処分に引き続き，三浦半島の地質図や超年代表などの新しい企画も，着実に進行している．また，地質の日の取り組みや惑星地球フォトコンテストの定着，「友の会」や若手に加えて支部や専門部会をも対象とした情報交換サービスの構築も進められている．

また，学会への外部からの依頼や委託などに関して対応できる体制を確立するとともに，その最初の取り組みが開始されている．地学教育に関しては今年度からの新指導要領実施に伴い,地学教員採用が増加しつつある．

2012年度は以上の成果を踏まえて，特に以下に力点をおく．

１．東日本大震災を踏まえた防災・減災に対する取り組み

１）地質学的観点からの調査・研究の推進

２）災害に関する地質学的知識や情報の提供・発信

３）自然災害に関する地学教育の推進

２．大阪における学術大会を成功させるとともに，大規模自然災害や地学教育・アウトリーチなど，関連学協会との連携・協力を促進する場とする．

３．日本地質学の成果を世界に向けて効果的に発信するための書籍の刊行と英語ホームページの充実．東アジアなどの各国の学会との連携・交流強化等を図る．

４．現在進行中の地質学用語・記号の日本標準規格（JIS）ならびに国際標準の整備に対応して，それらの普及と日本語の地質学用語標準の整備を図る．

５．地学教員および地学の科目を設置する学校の大幅増を目指し，関係機関への要望活動をおこなうとともに，地学教材の提供など，地学教員への支援を強化する．また，地学オリンピックへの支援を強める．さらに，日本学術会議等が検討している大学における地球科学教育の参照基準の策定に，積極的に関与する．

６．社会の地学リテラシー向上のための取り組み，ホームページ（HP）やソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS），広報誌，リーフレット，講演会などを通じた社会への情報発信を強化する．また，ジオパーク運動への支援強化に取り組む．

７．JABEEを含めた地質技術者教育の充実に向けて，関連学会と協力・共同した取組を強化する，本年度には，支部や他学会・機関と連携し，国内での地質技術者にむけた研修事業等を企画，実施する．

８．学会の全般的組織活動強化．支部や専門部会の活動の活発化，理事会の役割の強化，会員サービスの強化（就職支援，地質技術者の継続的な専門教育（CPD）など）を図る．若手の人材育成とシニア人材の活躍の場を広げる．

2012年度
名誉会員候補者推薦文

一般社団法人日本地質学会
名誉会員推薦委員会　委員長　久田健一郎

2012年度名誉会員候補者として，大八木則夫会員・蟹澤聰史会員の２名を選出いたしました．推薦理由は以下のとおりです．

大八木則夫会員（1932年３月５日生まれ，80歳）

大八木規夫会員は，1958年に広島大学理学部地学科を卒業後，同大学院に進学され，1964年３月に広島大学より理学博士の学位を授与された．同年（1964年）４月に，初代所長の和達清夫さんに強く招かれて，設立間もない科学技術庁国立防災科学技術センター（1991年に防災科学技術研究所に改組）に入所された．1975年には地表変動防災研究室長，1986年には研究部長を歴任された．1992年３月に防災科学技術研究所を定年退職された後は，財団法人深田地質研究所（現：公益財団法人深田地質研究所）理事に就任された．現在，深田地質研究所と防災科学技術研究所の客員研究員として研究活動を続けられている．

大八木会員は，対策工の検討が中心で，土質力学と安定解析に関する研究に重点が置かれていた時代に，地すべり・斜面災害の研究における地形・地質学研究の重要性にいち早く気付かれ,精力的に研究を推進されてきた．その研究スタイルは，オーソドックスな地質学的方法を基礎に地すべりを理解しようとするもので，地形学・地質学分野出身の地すべり・斜面災害の研究者・技術者に大きな影響を与え地質学の応用分野を拡大してきた．

大八木会員の地質学分野における最大の業績は地すべり構造論の提唱であり，2002年には「地すべり構造の研究」により日本地すべり学会論文賞を授賞している．また，「地すべりに関する地形地質用語委員会」の委員長として，地すべり構造論に関する様々な課題の検討を指導され，その集大成として「地すべり：地形地質的認識と用語」（日本地すべり学会発行，2004年）に纏め上げられた．本書は斜面防災を扱う地質技術者・防災研究者の必携の書となっている．また，大八木会員が始められた「50,000分の１地すべり地形分布図」（防災科学技術研究所）の企画と刊行の事業は，その後30年以上にわたって継続され，あと数年で全国が完成予定である．そして，地すべり構造論の立場から多数の地すべり地形判読の実例に基づいて要点を取り纏めた著書「地すべり地形の判読法」を2007年に刊行された．

大八木会員は，研究を進めるにあたって，

地盤工学など工学分野の研究者や実務技術者とも幅広く交流を深められ，実務技術者への自然災害の理解とその防止における地質学分野からの貢献にも尽力されてきた．そして，研究で得られた知識・経験の伝承にも尽力され，若手技術者の研修指導や学生の指導にも積極的に取り組んでこられた．

以上の功績により，長年にわたって地質学をとおして社会に貢献されてきた大八木規夫会員を日本地質学会の名誉会員に推薦する．

蟹澤聰史会員（1936年11月30日生まれ，75歳）

蟹澤聰史会員は1955年に長野県立伊那北高等学校を卒業後，東北大学理学部地学科に入学，1959年卒業後同大学院修士課程に進学され，1964年に博士課程を修了，理学博士の学位を得授与された．同年東北大学教養部助手に採用され，後年助教授，教授に昇任された．1993年から理学部・理学研究科教授を務め，2000年に停年退官された．その後は山形大学理学部教授を務め，2002年に停年退官後も数年間にわたり東北大学，山形大学で講師を務められた．

蟹澤会員は，学生時代の長野県高遠地方の領家帯変成岩・深成岩についての岩鉱論文，南部北上山地の変成岩に関する紀要論文（学位論文）を始めとして，主に東北地方の変成岩や火成岩に関する多数の研究論文を公表され，日本列島の基盤地質の解明に多大な貢献をされてきた．特に先シルル紀基盤岩や白亜紀花崗岩の研究，東北地方の火成活動史の総括などで顕著な業績を挙げられた．なかでも，異なる系列の花崗岩における鉱物化学組成の違いについての論文、花崗岩中のフッ素の挙動に関する論文、北上山地のアダカイト質花崗岩についての論文、北上山地の構造発達史に関する論文、そして中国やエジプトの花崗岩に関する論文などは国際誌に公表され、よく引用されている．さらに，国際地質対比計画IGCP-315「ラパキビ花崗岩と関連岩石」の日本代表，万国地質学会議IGC京都大会（1992）の「花崗岩の時間的空間的比較研究」コンビーナー，IGC北京大会（1996）の「大陸プレート内と受動的大陸縁のマグマ活動」コンビーナーなども務められた．また，仙台付近の火山灰層の研究により安達火山を発見されたことや旧石器時代遺跡の年代決定に貢献されたことも特筆される．

一方，蟹澤会員は「現代の地球科学ー基礎編」などの教科書や「文学を旅する地質学」，「石と人間の歴史」などの普及書を出版され，地学の教育と普及に貢献されてきた．理系・文系の幅広い分野にわたる深い教養と多年の教育経験に裏打ちされたこれらの優れた普及書は，今後も多くの読者に読み継がれて行くに違いない．

蟹澤会員は，学会や社会においても，日本岩石鉱物鉱床学会（現鉱物科学会）会長，日本学術会議の地質学研究連絡委員会委員，金属工業事業団の調査委員，国際協力事業団の派遣専門家，大学入試センター委員，宮城県自然環境保全審議会委員を務めるなど各方面で活躍し，東北大学でも評議員を２期務めるなど要職を歴任された．

このような長年にわたる地質学の研究，教育，普及への顕著な貢献に鑑み，蟹澤聰史会員を日本地質学会名誉会員に推薦する．

以上　２名

2012年度50年会員顕彰者（19名）

1962年入会

淺地良樹会員　荒木英夫会員　池田宜弘会員

菅野重也会員　熊井久雄会員　渋谷　紘会員

高橋　豊会員　徳岡隆夫会員　西村祐二郎会員

服部陸男会員　林　等会員　原田正史会員

福冨幹男会員　松尾征二会員　大塚裕之会員

有坂正一会員　酒井潤一会員　的場保望会員
宮沢忠治会員　（お写真の掲載なし）

2012年度
日本地質学会各賞受賞理由

一般社団法人日本地質学会
各賞選考委員会　委員長　榊原正幸

2012年度各賞に関して，授賞者と受賞理由を報告致します．

日本地質学会賞（１件）

受賞者：木村　学（東京大学大学院理学系研究科）
対象研究テーマ：テクトニクス，付加体地質学，沈み込みプレート境界地震発生帯物質科学

木村学氏は，北海道大学での博士号取得後，香川大学・大阪府立大学・東京大学においてテクトニクスの研究・教育に携わってきた．その研究歴の初期においては，北海道をフィールドに，プレート斜め沈み込みに伴う千島前弧スリバーの衝突を提唱した．この研究はその後，島弧会合部のテクトニクスおよび東アジア全体のテクトニクスとして拡充・一般化された．また，旧ソ連サハリン，カナダ，米国西海岸，オーストラリア等の調査に基づき，世界各地の造山帯における付加作用および大陸成長過程の解明を試みた．さらに，四万十帯中のメランジュの構造地質学的解析から沈み込みプレート境界浅部の変形過程を詳細に示した．

1990年代後半から，木村氏の主導する四万十帯の研究は沈み込み帯地震発生帯物質科学へと発展し，陸上付加体におけるシュードタキライトの認定や断層への流体圧の影響など，海溝型地震の震源域から破壊伝播域にかけての物性や滑り特性を天然から定量的に解明しつつある．同時に木村氏は海洋付加体の掘削研究も推し進め，統合国際深海掘削計画（IODP）における南海トラフ地震発生帯掘削計画をリードした．また，ODP第170次航海，IODP第316次航海では共同主席研究者として乗船し，コスタリカ沖中米海溝の造構性浸食作用，熊野沖南海トラフの断層運動史の解明・浅部断層の摩擦発熱の解明など多くの成果を示した．現在では新学術領域研究「超深度海溝掘削」の研究代表者として，沈み込みプレート境界に関わる幅広い研究分野の融合を具現化している．

学界活動においては，長年にわたって地質学会評議員を務め，地質学会会長時には学会の法人化を進めるなど，その発展に大きく貢献した．また，日本地球惑星科学連合の初代会長として，地球惑星科学全体の国内および国際的地位の向上に尽力した．教育面においても，プレート収束帯や付加体に関わる教科書を上梓するとともに第一線で活躍する若手研究者を数多く養成している．

木村氏の得意とするのは，その幅広い視野のもと根源的な問題を抽出し，丁寧な地質学的観察と学際的共同研究からそれを解きほぐしていく研究スタイルで，常に第一線に立ってインパクトのある成果を出し続けている．また，社会的活動にも積極的に関わり，地質学会および地球惑星科学界の発展と地位の向上に大きく貢献している．木村氏は日本地質学会賞にふさわしい優秀な業績をおさめており，ここに推薦するものである．

日本地質学会小澤儀明賞（１件）

受賞者：山本伸次（東京大学大学院総合文化研究科）
対象研究テーマ：造山運動論

山本伸次氏は，地球史的観点に立って固体地球変動の解読を目指す立場から，野外地質調査を軸とした岩石学・鉱物学の研究を進めている．彼は，東京工業大学の博士課程在学中，南チベットのオフィオライト岩体について鉱物学的な研究を行い，そのかんらん岩体中のクロミタイトが深部マントル由来であることを示す直接的な（*in situ*の）証拠を初めて見出した．それは，透過型電子顕微鏡による分析の結果明らかになったクロマイト中の微細な珪酸塩鉱物，すなわちコーサイトと単斜輝石の離溶相である．これは，珪酸塩を離溶する以前の前駆相がクロマイトの高圧多形（$CaFe_2O_4$型；圧力＞12.5GPa，深さ＞380 km）であった可能性を示す．そして，このかんらん岩体をマントル浅部にもたらした上昇流が，マントル遷移層の深さに由来することが示唆される．この研究結果は，天然の超高圧岩石の研究におけるナノ鉱物学探査の重要性をよく示しており，2009年の国際学術誌に印刷された．

山本氏は2007年に学位取得後，2010年度までは東京工業大学において，また2011年度は東京大学において，大陸成長に関する研究を行ってきた．従来，大陸を成長させる主要なメカニズムは海洋性島弧地殻の衝突・付加であると一般に考えられてきた．これに対して山本氏は，実際の海洋性島弧地殻のほとんどはそのままマントルへと沈み込むという観測事実や，既存の付加体や島弧地殻が強制的に削られる構造浸食作用に注目し，造山帯の理解において大陸地殻の総量を減らすプロセスこそが決定的に重要であること，従って従来提案された様々な大陸成長曲線は大幅に見直す必要性があることを指摘した．この研究もいくつかの論文として国際学術誌に印刷され，本学会年会を含む国内・国外の多くの学会で発表されていて，海外でも高く評価されている．彼はInternational Association of Gondwana Research学会から2009年のBest Paper Awardを授与され，2010年夏には中国天津での同学会年会に記念講演者として招待された．

山本氏はこれまで中国，オーストラリア，カナダ，英国などの造山帯研究調査に参加してきており，室内分析のみならず野外地質調査についても精通している．これまでの地質学に関する豊富な経験と幅広い研究視野，そして優れた研究業績から，地質学会の将来を担う若手研究者として活躍が期待され，小澤儀明賞の候補者としてふさわしいと判断されるので，ここに推薦する．

日本地質学会Island Arc賞

受賞論文：Barber, A. J. and Crow, M. J., 2009.Structure of Sumatra and its implications for the tectonic assembly of Southeast Asia and the destruction of Paleotethys.Island Arc, 18, 3-20.

Barber and Crow use their extensive knowledge of a wide range of geological information to address the complex paleogeography of the SE Asian region with special focus on Sumatra and its three constituent continental blocks: the East Malay, Sibumasu and West Sumatra blocks. In this paper the authors argue for a Mid Permian to Upper Triassic collision between the Sibumasu and East Malay blocks in Sumatra and discuss the possibility of later amalgamation further to the north. They also revise previous estimates for the age of the main transcurrent movements between the Sibumasu and West Sumatra blocks suggesting these were largely complete by Mid Triassic. These workers also suggest the West Sumatra Block may be correlated with the West Burma block to the north and present an interpretation of the Woyla block as an intraoceanic arc.These ideas are presented using a series of clear diagrams. The ideas presented in this paper are likely to stimulate further discussion and lead to a better understanding of the paleogeography of this region. The first author has been active in the research of eastern Asia including Japan, for more than 30 years. This paper adds his many contributions and is a worthy recipient for the 2012 Island Arc award.

日本地質学会論文賞（２件）

受賞論文：Yoshimoto, M., Fujii, T., Kaneko, T., Yasuda, A., Nakada, S. and Matsumoto, A., 2010.Evolution of Mount Fuji, Japan: Inference from drilling into the subaerial oldestvolcano, pre-Komitake. Island Arc, 19, 470-488.

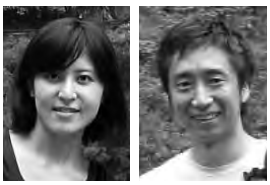
本論文は富士火山の北東山麓，小御岳付近で行われた５本の学術ボーリング（最大深度650 m）の掘削試料に関する火山地質学的，岩石学的・地球化学的・放射年代学的研究成果をまとめたものである．本論文は，斑晶質玄武岩からなる小御岳火山噴出物の下に角閃石安山岩～デイサイト質の先小御岳火山が存在すること，その結晶分化作用が富士火山とは全く異なる伊豆弧北部に特徴的なカルクアルカリ系列の傾向をとることを明らかにした．そして，15万年前頃に発生したこの顕著なマグマ組成の変化が，伊豆・箱根など周辺火山の活動パターンの変化と同期していることについて，この時期の構造発達史及び広域応力場の変化と関連づけて議論した．火山災害防止の観点から近年注目されている富士火山で初めて行われた深部学術掘削の試料について，完備したデータセットを提供し充実した議論を行った，優れた論文である．よって本論文は日本地質学会論文賞に値すると判断される．

受賞論文：Uchino, T. and Kawamura, M., 2010. Tectonics of an Early Carboniferous forearc inferred from a high-P/T schist-bearing conglomerate in the Nedamo Terrane, Northeast Japan. Island Arc, 19, 177-191.

本論文は，北上山地の根田茂帯に関する著者らの従来の研究を発展させ，この付加体中の礫岩の礫種構成や円磨度について詳細に解析したものである．砕屑岩・火山岩礫に加えて高圧型変成岩・超塩基性岩礫が多数含まれることを明らかにし，変成岩は放射年代から蓮華変成岩に，超塩基性岩はクロムスピネルの化学組成から南部北上帯の岩体群に対比された．また，変成岩・超塩基性岩礫の円磨度が他の岩種に比して著しく低いことから，その供給源を前弧域に求めた．そして，前期石炭紀の南部北上帯前縁で，付加体の一部が沈み込んで高圧型変成作用を受け，その後3000万年以内に超塩基性岩類とともに前弧域に上昇，削剥され，これらの礫が島弧の火山岩礫とともに海溝域に供給されたというテクトニックモデルが提唱された．本論文は，断片的な情報しかなかった前期石炭紀の古日本島弧－海溝系のテクトニクスの理解を大きく前進させる優れた論文であり，日本地質学会論文賞に値すると判断される．

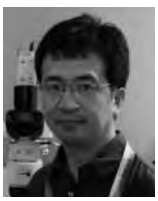
日本地質学小藤賞（１件）

受賞論文：佐藤峰南・尾上哲治, 2010. 中部日本，美濃帯の上部トリアス系チャートから発見したNiに富むスピネル粒子．地質学雑誌,116, 575-578.



国内の付加体に広く分布する深海性チャートは堆積速度が小さく，巨大隕石の衝突のような希なイベントを記録するポテンシャルが高い．著者は，後期トリアス紀に多く認められるクレーターの存在を念頭に，隕石衝突の痕跡が同時代のチャートに残されているという予想のもと，美濃帯犬山セクションを適切かつ丹念な方法で探査し，珪質粘土岩中からニッケルに富む多数のスピネル粒子を発見するに至った．本短報で提示された組成分析・形態観察の結果は，これらのスピネルが火成岩起源ではなく，白亜紀－古第三紀境界から報告された粒子と類似し，隕石起源であることを十分に論証している．これは，付加体中の深海性堆積物からの，世界初のイジェクタ粒子の発見である．本短報は着想から結果に至る過程も秀逸であり，今後，同様の研究が行われるならば，その模範を示したという意義も大きい．日本地質学会小藤賞の掉尾を飾るものとして，本短報の受賞を推薦する．

日本地質学会小藤文次郎賞（１件）



受賞者：坂口有人（海洋研究開発機構）

受賞論文：Sakaguchi, A., Chester, F., Curewitz, D., Fabbri, O., Goldsby, D., Kimura, G., Li, C.-F., Masaki, Y., Screaton, E. J., Tsutsumi, A., Ujiie, K. and Yamaguchi, A., 2011. Seismic slip propagation to the updip end of plate boundary subduction interface faults: Vitrinite reflectance geothermometry on Integrated Ocean Drilling Program NanTroSEIZE cores.Geology published online 8 March 2011; doi: 10.1130/G31642.1

IODP NanTroSEIZE Exp. 316では，現在，紀伊半島沖で形成されつつある鮮新～更新統付加体浅部が掘削されたが，著者らは地表付近まで達しているプレート境界断層および前者から分岐するメガ・スプレー断層から得られたコア（それぞれ海底下438m，271mで掘削された）について，堆積物に含まれるビトリナイト（輝炭）の反射率（Ro）を詳細に分析した．その結果，僅か20mmにも満たない暗色層とその近傍に，周囲の輝炭反射率（Ro=c. 0.2%）よりも有意に高い輝炭反射率（Ro=c. 0.6%）であることを明らかにした．著者らは，これらの輝炭反射率異常は反応速度論モデルに基づいて，地震性すべりに伴う瞬間的な剪断加熱によって引き起こされたと説明出来ることを示した．これらの断層では，1944年の東南海地震（Mw=8.1）をはじめ巨大地震が繰り返し生じているが，地表に近い断層先端部は従来非地震性である考えられて来た．しかし，今回の発見は，先の東日本大地震で発生した大津波は地表まで至った断層変位に起因するという予想とも符合し，極めて先見性のある研究となった．よって，上記坂口ほか論文が革新的な事実の発見をもたらした論文に授与されるとする小藤文次郎賞の受賞対象論文の趣旨に良く合致することから，同論文を受賞対象論文として推薦する．

日本地質学会研究奨励賞（３件）

受賞者：増渕佳子（富山市科学博物館）

受賞論文：増渕佳子・石崎泰男，2011. 噴出物の構成物組成と本質物質の全岩および鉱物組成から見た沼沢火山のBC3400カルデラ形成噴火（沼沢湖噴火）のマグマ供給系．地質学雑誌，117，357-376.

本論文は，東北日本南部に位置する沼沢火山の約5.4kaに生じたカルデラ形成噴火を対象に，噴火推移に伴うマグマ供給系の進化を，地質学・岩石学的に解明したものである．本研究では，その推移（火砕流→プリニー式→マグマ水蒸気爆発→プリニー式）に従った系統的試料採取に基づいて，本質物質は噴火の前半では白色軽石主体で・黒色スコリアが付随し，後半では灰色スコリアが主体になることを明らかにした．白色軽石と黒色スコリアの組成は一連の混合トレンドに乗る．これに加え鉱物組成・組織を総合的に検討し，両者は共通の珪長質，苦鉄質端成分を持つことが推定された．灰色スコリアの組成も混合トレンドを示すが，その苦鉄質端成分は上記とは異なり，噴火後半には別の苦鉄質マグマが混合に加わったことも解明された．以上のように噴火の推移に従う本質物質の種類・岩石学的特徴の推移を克明に明らかにし，それをもたらしたマグマ供給系の変遷を高い解像度で推定した研究成果は，日本地質学会研究奨励賞に値すると判断される．

受賞者：針金由美子（産業技術総合研究所）
受賞論文：Harigane, Y., Michibayashi, K. and Ohara Y., 2010. Amphibolitization within the lower crust in the termination area of the Godzilla Megamullion, an oceanic core omplex in the Parece Vela Basin. Island Arc, 19, 718-730.

上記の論文はフィリピン海パレスベラ海盆の古拡大軸にあるゴジラ・メガムリオン（海洋底コア・コンプレックス）に露出する海洋地殻下部起源の変斑れい岩類について，岩石組織や鉱物化学組成の面から検討し，コア・コンプレックスの上昇過程における温度変化や熱水変質作用，角閃岩化作用について論じたものである．この論文は縁海における海洋底変成・変形作用について，世界に先駆けて比較的完備したデータと興味深い議論を提供し，海洋底コア・コンプレックス一般の成因についても重要な制約条件を与えた．また，この著者らは2011年にも同誌にゴジラ・メガムリオンにおける蛇紋岩とその原岩のマントルかんらん岩の変形作用に関する論文を出版しており，最近の活発な研究活動が顕著である．以上の所見から，本論文は研究奨励賞の受賞対象論文にふさわしいと判断される．

－備考－

Harigane, Y., Michibayashi, K. and Ohara, Y., 2011, Relicts of deformed lithospheric mantle within serpentinites and weathered peridotites from the Godzilla Megamullion, Parece Vela Back-arc Basin, Philippine Sea, Island Arc, 20 (2), 174-187.

受賞者：森　宏（名古屋大学大学院環境学研究科）
受賞論文：Mori, H. and Wallis, S. R., 2010. Large-scale folding in the Asemi-gawa region of the Sanbagawa Belt, southwest Japan. Island Arc, 19, 357-370.

本論文では，四国三波川変成帯の高変成度部の構造がどのようにして形成されたかという古くからの重要な問題を解明するため，四国中央部の三波川帯の代表的ルートである汗見川周辺地域において野外および顕微鏡下での詳細な構造観察を行った．その結果，同地域の三波川帯の最高変成度周辺における鉱物帯の繰り返しが大規模な褶曲構造で説明できることを示した．さらに，同論文では，他の地域の地質構造に関する情報をまとめ，各地域での褶曲構造が巨視的な繋がりを立体的なモデルを作成して示し，鉱物帯の分布との関係について議論している．この三波川変成帯の地質構造および沈み込み帯深部におけるプロセスを統一的に解明した研究成果は，日本地質学会研究奨励賞に値すると判断される．

日本地質学会表彰（２件）
北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）
表彰業績：自然・環境保全活動および地質学の教育・普及への貢献

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は，後期白亜紀の淡水魚類化石の発見・発掘を契機に，1978年に自然史博物館開設準備室として開設した．以来，今日まで30年余りの活動を通じて，西日本地域最大の自然史博物館として発展してきた．また，本博物館は展示面積約6,100m^{2}の約60%において地質学関連の資料が展示されており，日本を代表する地質博物館でもある．2002年からの累計来館者は300万人を超え，そのうち学校団体の利用は約１万6000件，約100万人に及ぶ．

北九州市周辺は，かつての炭鉱地域としての地質学的地勢と東アジアに隣接する地理的条件を生かし製鉄の町として発展，四大工業地帯の１つとして日本の経済的発展を支えてきた．しかし，一方で大気汚染等の公害問題が発生し，地域環境が危機的状況に追い込まれた経験を持つ．北九州市はそれを克服するための環境保全を実践する中で，地球環境についての市民への啓蒙活動の重要性を認知し，活動のための中核機関として博物館を位置づけた．このような背景の中，地域地質資料や所蔵資料を活用した博物館が行ってきた取り組みは，博物館自然史友の会を通じた出版活動，野外地質観察会，地質学・古生物学に関する普及講座，平尾台などの天然記念物の保全活動など，環境保全活動，自然保護活動，地学教育などの多岐におよび，「いのちのたび」という館名に込められた期待を超えたものと評価される．

北九州市立自然史・歴史博物館は地質学の普及と広報にも直接的に関与してきた．第1回地質の日には特別展示【地球と生命】を開催し，合わせて記念事業を企画している．また，西日本支部例会や西日本・近畿・四国，三支部同例会を開催したほか，古生物学会や洞窟学会など地質学に関連する学会，国際シンポジウムも多数開催してきた．

以上のように，北九州市立自然史・歴史博物館は，開かれた博物館として地域に根ざし，自然・環境保全活動に加えて地質学の教育・普及に大きく貢献してきた点で大きく評価できる．本博物館のこれまでの活動内容は，日本地質学会表彰に値するものと考え，ここに推薦する．

狩野謙一会員（静岡大学理学部）・村田明広会員（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
表彰業績：教科書発行と構造地質学普及への貢献

狩野会員と村田会員は，過去40年近くにわたり様々なスケールの地質構造を研究してこられた野外地質学者である．両会員とも研究者生活の前半には，メランジュやデュープレックスといった付加体の重要な構成要素の存在を野外調査から実証された経験がある．1998年２月，両会員は協力して，学部学生および大学院生向けの教科書「構造地質学（朝倉書店，Ｂ５判，298p.）」を出版された．この教科書は好評を博し，2011年５月までに９刷，5750部が刊行された．朝倉書店によると，ここ20年間に同社の「天文学・地学」分野で刊行した書籍のうち，刊行数が5000部を超えているのはわずか３冊であり，学部学生～大学院生を対象とした専門性の高い書籍としては本書がトップの売れ行きであるという．また，2000年５月には本書の付録ともいうべき「構造地質学CD-ROMカラー写真集」が出版され，好評を博した．さらに本書は韓国でも注目されるところとなり，2005年10月，韓国人研究者３名による共訳の韓国語版がソウルの出版社シグマプレスから刊行された．こちらは1500部刊行され，現在「品切中」である．「構造地質学」の特色は，例えば以下の様に要約される．①当時の欧米の類書に書かれている内容が網羅されており，特に地質構造と広域テクトニクス場との関連が詳しく記されている．②島弧の構造地質学的特徴が両会員自身の研究成果を交えて詳しく記されている．③両会員が実際に撮影された豊富な写真が解説に用いられている．構造地質学関連の書籍は和洋を問わず多く出版されているが，１冊の教科書に①～③をバランス良く取り入れている点が，本書の最大の特長である．日本の読者は②・③の内容から，自分に親しみのある地域の地質と関連づけて本書を読むことができた．本書が多くの読者を集めた理由は，ここにあると考えられる．

このように，本書は世界的に見ても優れた構造地質学の教科書の一つであり，日本及び韓国における構造地質学の普及に大いに役立ったことは疑いようがない．本書の刊行後，地質関連教科書の刊行が続いているが，本書の大量普及に力を得た著者もおられるかと思う．このように，狩野・村田両会員が教科書発行と構造地質学普及に向けられた努力は大いに顕彰されるべきであり，日本地質学会表彰候補としてここに推薦する．

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

第21回市民セミナー

「大震災後の水環境ー何が起こったのか，どう備えるか」

主催：（公社）日本水環境学会
会期：2012年８月３日（金）10：00～16：30
会場：東京会場：地球環境カレッジホール（いであ㈱内）（東京都世田谷区駒沢）
大阪会場：いであ㈱大阪支社　ホール（大阪市住之江区南港北）
参加費：無料
定　員：250名（東京会場150名，大阪会場100名）
申込方法：FAX，E-mailまたはハガキに，①参加者氏名（フリガナ），②会員・非会員の別，③会員の場合は会員番号，④希望受講会場，⑤連絡先（所属団体名，住所および電話･FAX番号）をご記入の上，下記宛お申し込み下さい．
参加証（ハガキ）をお送りいたします．

申し込み・問い合わせ先：
（公社）日本水環境学会 セミナー係　山本
〒135-0006　東京都江東区常盤２-９-７
グリーンプラザ深川常盤201号
Tel．03-3632-5351　　Fax．03-3632-5352
E-mail：yamamoto@jswe.or.jp

第15回 日本水環境学会シンポジウム

期日：2012年９月10日（月）～11日（火）
会場：佐賀大学本庄キャンパス
内容：本部企画（特別講演会，環境省セッション），支部企画，各研究委員会等の主催によるシンポジウム，若手研究紹介（オルガノ）セッション，メタウォーター賞受賞者講演，企業展示・ランチョンセミナー．
見学会　９月12日（水）８:00～16:30（予定）
（申込締切：8月17日（金））
予約参加申込申込期限：８月10日（金）24:00（それ以降は当日申込扱いとなります）

連絡・問合せ先
・公益社団法人 日本水環境学会　シンポジウム係
東京都江東区常盤２-９-７
グリーンプラザ深川常盤201号
TEL　03-3632-5351
E-mail　nenkai@jswe.or.jp
ホームページ　http://www.jswe.or.jp

・第15回日本水環境学会シンポジウム実行委員会
山西博幸・佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
〒840-8502　佐賀市本庄町１
TEL（0952）28-8582
FAX（0952）28-8189
E-mail：yamanisi@ilt.saga-u.ac.jp

第６回 地殻応力国際シンポジウム

（The 6th International Symposium on In situ Rock Stress）

主催：岩の力学連合会
共催：ISRM（国際岩の力学会）
日本地質学会後援

第６回地殻応力国際シンポジウムでは，数十～数百メートル，数キロさらには十キロメートル以深の各深度において地殻応力が関わる様々な問題への取り組みについて議論する場とすることを目指します．各深度範囲における取り組みは，目的の違いからほぼ独立して従来実施されてきたものですが，それぞれに培われた知識の交流を今回の会議で促進することにより，新たな展望へとつながることが期待されます．同時に日本が有する高いポテンシャルを世界に向けて発信する機会とすることを目的とします．また，東日本大震災を背景として地震予知や減災，国産エネルギー資源の確保への関心が大きく高まっている現状で，日本の，特に仙台で本国際会議を開催することは，研究上の意義はもちろんのこと，東北の復興状況を世界に示す上でも大きな意義があると考えます．どうか多数の皆様の講演応募とご参加をお願いいたします．

日時：：2013年８月20日（火）～22日（木）
会場：仙台国際センター（宮城県仙台市）
講演募集：数十～数百メートル，数キロさらには十キロメートル以深の各深度において地殻応力が関わる様々な問題を網羅して扱い，それに対する特色ある研究，提案，技術開発，事例報告等に関して幅広く受け付けます．
講演募集の詳細はホームページ（http://www2.kankyo.tohoku.ac.jp/rs2013/）において公表する予定ですのでご覧下さい．

講演概要申込期限：2012年11月30日（金）
講演原稿提出期限：2013年５月31日（金）

会議に関する問い合わせ先：
〒980-8579　宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉６-６-20
東北大学大学院環境科学研究科　坂口清敏
Email：info-rs2013@mail.kankyo.tohoku.ac.jp
TEL&FAX：022-795-7381

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

鳴門教育大学教員公募

１．教育部名（コース名）：自然･生活系教育部　自然系コース（理科）
２．職名及び人員：准教授または講師　１名
３．専門分野：地学
４．資格：（１）博士またはPh.D.等の学位を有すること．博士またはPh.D.取得見込みも可．（２）兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程，合）担当できることが望ましい．（３）地学分野での専門研究を行い，その成果を大学・大学院教育に還元できること．（４）当該コースの教員と協調して教育研究を担える能力と熱意のあること．（５）初等中等学校における理科教育に深い関心を持ち，これらの分野を担当できること．（６）外国籍の方は，日本語での講義や日常業務が可能なこと．
５．担当予定授業科目
大学院：地球科学特論Ⅰ，Ⅱ，地質学・古生物学特論，地学実験法特論，教育実践フィールド研究，課題研究Ⅰ，Ⅱ等．
学部：地学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，地学実験Ⅰ，Ⅱ，地学の基礎，初等中等教育実践基礎演習，初等中等教科教育実践Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，中等理科（地学分野），卒業研究等．
６．採用予定日：平成25年４月１日
７．任期：任期５年（再任可：上限は定年まで（65歳年度末））
８．公募締切日：**平成24年８月６日（月）必着**
９．提出書類：（１）履歴書（本学所定の様式，写真添付）．（２）業績目録（本学所定の様式）．雑誌にインパクトファクターが付されている場合は，査読の有無の欄に「有4.279」のように記入すること．インパクトファクターは印刷時のものでなく，最新のもので良い．（３）主要論文別刷５編（コピー可，各論文にそれぞれ400字程度の日本語要旨を添付）．（４）今までの教育研究成果の概要と本学着任後の抱負（2,000字程度，本学が教員養成系大学であることを考慮して書くこと）．（５）科学研究費等の研究助成金（外部資金）の獲得状況（代表者，分担者の区別をすること）．（６）学会活動，国際連携，社会的活動（産官学連携を含む）状況をまとめた文書（A４用紙２枚程度）．＊本学所定の様式（履歴書，業績目録）本学のウェーブサイトからダウンロードして下さい．http://www.naruto-u.ac.jp/staff.html

10．書類提出先：〒772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島748番地
国立大学法人鳴門教育大学長　田中雄三　宛
11．問い合わせ先：
〒772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島748番地
国立大学法人鳴門教育大学
自然系（理科）コース　教授　村田　守
電話：088-687-6419（直通）
FAX：088-687-6450
E-mail：atarumm@naruto-u.ac.jp

滋賀理科教育講座（地質鉱物学）教員公募

採用予定職名：准教授または講師
所属：理科教育講座
専門分野：地質鉱物学
主な担当予定科目：
（学部）初等理科内容学、基礎地学１・２、地学実験１・２、地質・鉱物科学、地質野外観察法１・２、全学共通教養科目　等
（大学院）地質学鉱物学特論、造岩鉱物学演習　等
応募条件：
(1) 博士の学位を有する方またはそれと同等以上の研究業績を有する方
(2) 大学院の講義及び演習が担当できる方または数年内に担当できる方
(3) 滋賀県の地域を活用した実験・実習を担当できる方
(4) 理科教育講座で推進するプロジェクトおよび教員養成学部としての教育と業務を積極的に遂行できる方
採用予定年月日：平成25年４月１日
任期：なし（本学の定年は65歳です）
応募書類：（1）履歴書（本学部所定様式）（2）研究業績一覧（本学部所定様式）（3）（2）にあげた研究業績のうち主要論文（５編以内）の別刷り（コピー可）。（4）これまで行った研究の概要（A4用紙１枚程度）（5）これからの研究及び教育への抱負（A4用紙１枚程度）（6）応募者について照会できる方２名の氏名、所属、連絡先（7）写真（４×３cm）１枚（裏面に氏名を記載のこと）
応募締切日：**平成24年８月31日（金）必着**

問い合わせ先：
滋賀大学教育学部総務係
電話：077-537-7704
滋賀大学教育学部理科教育講座　大山　真満
電話：077-537-7780（研究室）
E-mail: jinji-rika2012@edu.shiga-u.ac.jp
http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は，執行理事会までお申し込み下さい．

2012年度「朝日賞」候補者推薦

朝日新聞文化財団より，2012年度「朝日賞」候補者推薦の依頼がありました．朝日新聞文化財団は，朝日新聞社が文化活動支援を公益的な立場から行うため，1992年に設立され，朝日賞の受賞事業を継承しております．この賞は，1929年（昭和４年）に朝日新聞社が，創立50周年を記念して創設したもので，人文や自然科学など，我が国のさまざまな分野において，傑出した業績をあげ，文化・社会の発展，向上に多大な貢献をされた個人または団体に贈られています．

推薦書は８月31日（金）までに，所定様式送付となりますので，**推薦を希望される方は８月10日（金）までに，執行理事会宛にご連絡下さい．**

推薦票は下記URLからダウンロードできますが，パスワードが必要です．希望される方は学会事務局までお問い合わせ下さい．
http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/suisen

問い合わせ先：
朝日新聞社CSR推進部「朝日賞」事務局
〒104-8001　東京都中央区築地５-３-２
TEL（直通）03-5540-7453
FAX　03-3541-8999
http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/

平成24年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

１．東レ科学技術賞
(1) 対象：学会に関する分野で，学術上の業績が顕著な方，学術上重要な発見をした方，効果が大きい重要な発明をした方，あるいは技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献した方．２件．
(2) １件につき金メダルおよび副賞賞金500万円
(3) **締切：平成24年10月10日（水）必着（学会締切：８月31日）**
２．東レ科学技術研究助成
(1) 対象：学会に関する分野で自らのアイディアで萌芽的研究に従事しており　かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）．本助成が重要な研究費と位置づけられ，これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件．
(2) 助成金額：総額１億３千万円．１件最高３千万円程度まで，計10件程度
(3) **締切：平成24年10月10日（水）必着（学会締切：８月31日）**

＊各推薦書要旨は，ホームページからもダウンロードできます．
http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

問い合わせ先
公益財団法人東レ科学振興会
〒279-8555　千葉県浦安市美浜１-８-１
Tel：047-350-6103　Fax：047-350-6082

第2回「海のフロンティアを開く岡村健二賞」候補者公募

海洋に関する国際的総合的コンベンションであるテクノオーシャンネットワーク（TON，1986年創設）は，2010年のTechno-Ocean開催を機に，岡村健二氏の社会的功労を偲び，学術的功績を讃え，「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」を創設し，同氏の遺志を継ぐ我が国の若い研究者・技術者に対して，これを贈呈します．

選考基準
(1) 日本の海洋開発について，先行的・共通的技術開発の必要性，重要性を認識し，機器開発や深海技術の研究開発に取り組み，顕著な成果をあげた若手研究者に対し「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」を授与します．
(2) 過去２年間の間に「Techno-Ocean」を含め，海洋関連の内外の学会等において一編以上の査読付論文の発表を行った者で，論文発表時の年齢が35歳以下の者を対象にします．候補者の性別，現住所の国内外は問いません．
(3) 論文発表期間は，Techno-Ocean開催の２年前の４月から，開催前の３月末までに公表された論文を対象とします．したがって，今回は，2010年４月１日～2012年３月31日までの期間に，内外の学会等で論文発表の実績がある者が候補対象となります．
(4) 公募手続きは，自薦もしくは大学，研究機関等から選考委員会への推薦によるものとします．
(5) TONが設置する「海のフロンティアを拓く岡村健二賞」選考委員会で選考，推薦をおこない，これに基づいて理事会が表象対象者を選定し，会長が決定します．
(6) 受賞者は、二年に一度開催されるTechno-Oceanにおいて表彰されます．
(7) 受賞者には、賞状と副賞（30万円）が贈呈されます．

締切：2012年８月31日（金）
＊学会推薦を希望される方は，締切：８月10日（金）までに学会事務局まで必要書類をそろえてご連絡下さい．

詳細・推薦書書式は以下からダウンロード下さい．
http://www.techno-ocean.com/public_html/to/10/okamura-prize.html

お問い合わせ・提出先
〒650-0046
神戸市中央区港島中町６丁目11-１
テクノオーシャン・ネットワーク
TEL（078）303-0029
FAX（078）302-1870
E-mail：techno-ocean@kcva.or.jp

第34回（平成24年）沖縄研究奨励賞推薦応募

沖縄研究奨励賞は，沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し，育成することを目的として，昭和54年に創設されました．本奨励賞は，沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学，人文科学，社会科学）を行っている新進研究者（又はグループ）の中から，受賞者３名以内を選考し，奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです．

応募資格：**学協会・研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下の者で，**平成24年７月25日で65歳以下の者

応募方法
(1)「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」
(2) 研究成果物（論文３点以内，著書がある場合は１冊），
(3) 研究成果物の要旨（A4判横書き各1,000字以内），
(4) 研究業績リスト（著書，論文等30点以内．A4横書き）

応募書類の提出先
〒112-0004　東京都文京区後楽１-２-９
エー・ゼットキュウブビル５Ｆ
公益財団法人沖縄協会　沖縄研究奨励賞係

応募締切：平成24年９月30日（学会締切：８月31日）

推薦応募用紙は，
WEB<http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/index.htm>からダウンロードして下さい．

お問い合わせ
財団法人沖縄協会
〒112-0004東京都文京区後楽１-２-９
エー・ゼットキュウブビル５Ｆ
「沖縄研究奨励賞」担当・山岸
e-mail:okinawakyoukai@nifty.com
TEL：03-5803-2341　FAX：03-5803-2581

2013年度「猿橋賞」受賞候補者募集

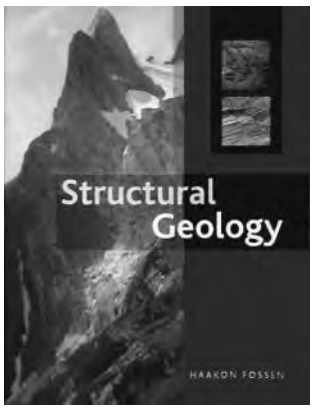
女性科学者に明るい未来をの会は，「女性科学者のおかれている状況の暗さの中に，一条の光を投じ，いくらかでも彼女らを励まし，自然科学の発展に貢献できるように支援する」という願いをこめ，1980年に創立されました．この創立の趣旨を継承し，当会は，これまで自然科学の分野で，優れた研究業績を収めている女性科学者に，毎年，賞（猿橋賞）を贈呈してまいりました．第33回猿橋賞の募集を開始いたしました．

1）対　象　：推薦締切日に50才未満で，自然科学の分野で，「創立の主旨に沿った」優れた研究業績を収めている女性科学者
2）表彰内容：賞状，副賞として賞金30万円，１件（１名）
3）応募方法：当会のホームページ<http://www.saruhashi.net/>から推薦書類をダウンロードし，A4用紙に印刷して，①推薦者（個人・団体，自薦も可）・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目②推薦理由（800字程度），及び③研究 題目に関連する主な業績リスト（指定は１頁です．やむを得ない場合でも追加は１頁までです）を記入して，主な論文別刷５編程度（２部ずつ，コピーも可）を添え，５）の推薦書類送付先までお送り下さい．
4）**締切日：2012年11月30日（必着）（学会推薦希望の場合：10月31日締切）**
5）推薦書類送付先：
〒270-1147　千葉県我孫子市若松165-５
女性科学者に明るい未来をの会（当会の本宛先は推薦書受付専用です．書類は，猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます．書類は返却いたしませんのでご了承下さい）

問い合わせ先：
saruhashi2013@saruhashi.net

紹　介

Structural Geology
Haakon Fossen著



Cambridge University Press, 2010, 463p, ISBN 978-0-521-51664-8, $70

この本には驚かされた．というのは，第一に，厚さ３cmの本が全ページカラーであるにもかかわらず，価格が６～７千円に抑えられていること．二番目は，この本の購入とは無関係に，すべての図が画像ファイルとして無料でダウンロードでき，関連するアニメーションが同じく無料で閲覧できること．三番目が，製本のまずさである．買って半年もしないうちに，ページがバラバラになってしまった．製本代を節約した分，安価になっているのだろうか．しかし，この価格で全ページカラーというのは，日本語の専門書であったなら価格破壊だ．英語の教科書の市場が大きいことがこの値段の根拠なのかと思いきや，この本のノルウェー語版も７千円程度らしい．日本の出版社にも，がんばってもらいたい．せめて日本語の教科書に載った図が，無料でダウンロードできるようになればいいと思う．

この本は，構造地質学の学部レベルの総合的教科書である．構造地質学を定量科学にしようという，著者の意欲を感じた．類書とくらべて，地質構造のバランス条件について１章をあてていることが目新しい．扱う範囲が広いにもかかわらず単著であるから，著者が熟知したテーマとそうでないテーマとで，章

ごとにあるいは節ごとに出来の善し悪しがあるのは仕方がない．2000年以降の話題も，時代遅れの話題もある．全体を読破したわけではないが，学部生向けの本とはいえ，読んだ章はどれも少し物足りない気がした．私が専門とする，応力インバージョン（小断層解析）の章は特に内容が古く不十分である．全体的に，記述は体系だっていない．例えば，節理について博物学的な記述と理論的な説明が混在し，形成機構を説明するために天下り的に弾性体の式が出てきたりする．どうしてその式のようになるのか，すでに知識のある読者しかついて行けないだろう．記述が体系的でないために，この本に沿って授業をすることは，私にとっては難しいと感じた．

しかし，私はこの本を，地質学の教育に携わる人々に薦める．授業で使える図が満載されているからである．比較的新しく，カバーするテーマが多岐にわたる教科書なので，研究者にとって新たな研究テーマを探す手がかりにもなりそうである．この本について，目次その他，著者や出版社のホームページに豊富な説明がある．検索すれば，それらのサイトは直ぐ見つかるだろう．

（山路　敦）

四国中央部
三波川変成帯の地質

遅沢壮一　著

（愛媛県総合科学博物館，2012年３月31日発行，「四国中央部三波川変成帯の地質」地質図＋解説文（A4版）６ページ，500円）

紹介するのは，遅沢さんが作成した四国中央部の三波川変成帯の地質図と解説文である．地質図の縮尺は，約７万５千分の１で，カラー印刷である．

三波川帯の地質調査と地質図作成は，第二次世界大戦後，広島大学の小島丈児先生や秀敬先生，原　郁夫先生とその門下生（小島学派）が精力的におこなってきた．その野外調査のすさまじさは，愛媛で生まれ育った紹介者は，様々な場所で伝説的な話として聞いてきたし，室内外において露頭の観察方法を指導していただいたりした．三波川帯の調査・研究に関しては，原　郁夫先生の著書（2008）「地域地質学の方法論　小島学派，一つの回想」（丸源書店）を読んでいただくこととし，「四国中央部三波川変成帯の地質」の紹介にもどる．

遅沢さんは，様々な意味で調査が大変であることを自覚したうえで，四国中央部の急峻な山岳地域を調査し，下位から大歩危スラスト，蛇野アウトオブシークエンススラスト，これに切られるエクスツルージョナルウェッジ，汗見川デタッチメント断層等を見出し，地質図とその断面図を作成した．解説文に「本地質図には，大歩危ユニットを含む各変成鉱物帯の構造的累重関係を，それらの分布とともに，忠実に表現している．本地質図が三波川帯研究の基礎資料となることを願っている．縮小した指標図ファイルは，筆者に請求頂ければ提供するので，引用のうえで使用頂ければと思う．」と述べている．　東北大学の，敢えて旧称を用いるが，地質学古生物学教室の伝統は，とてつもなく広範囲を，行けるところは全部行って，かつ精度良く調査することであった．本地質図を作成した遅沢さんに敬意を表するとともに，本地質図を地質学会会員の皆様にご紹介し，一人でも多くの人にじっくり検討していただければと思う次第である．

目次

はじめに
地形
岩相
D1とプレD1の露頭・薄片規模の変形
エクスツルージョナルウェッジと汗見川デタッチメント断層
蛇野アウトオブシークエンススラスト（OST）
富郷デュープレックス
大歩危背斜
エクロジャイトの起源
応用地質
文献
Abstract

本書は，愛媛県総合科学博物館・ミュージアムショップで500円で購入できる．発送は郵送とし，郵送を希望される方は，ファックスまたは電子メールでお申込みください．その際，「氏名，送付先（郵便番号も記入），連絡先（電話番号），希望部数」をお知らせください．折り返し，送料や振込先の連絡がいきます．１部ですと140円の送料になります．なお，振込みは銀行で，振込手数料は購入者負担となります．申込先は，〒792-0060　愛媛県新居浜市大生院2133-２（TEL：0897-40-4100　Fax：0897-40-4101　E-mail: top@i-kahaku.jp）

（高橋治郎）

要説地質年代
The Concise Geologic Time Scale

**Ogg,H.G., Ogg,G. &
Gradstein,F.M.著
鈴木寿志　訳**

（京都大学学術出版会，2012年４月10日発行，A4版，184頁，ハードカバー，3400円（税別）．ISBN-10-4876985995）

2004年イタリアのフィレンツェで開催された万国地質学会議に合わせてCambridge University PressからA Geologic Time Scale 2004（以後GTS2004と略）が出版された．本書は，研究者，学生，石油・鉱山技術者など，すべての地質科学者にとって座右の書となることを目指し，大部なGTS2004の内容をすべて通読してもさほど苦にならないように簡潔にまとめたものである．本書には，カラー印刷の古地理図や年代表とともに地質年代境界模式地のカラー写真が豊富に揃えられ，ラミネート加工された地質時代カードも添えられて，その目的を十分果たしている．詳細な地質年代の解析法，問題点，現状が各地質年代毎に簡潔に記されており，地質年代についての入門書としては好適である．各章末には参考文献とともに推奨ウェブサイトも掲載されており，教科書として使用する場合の宿題として掲載ウェブサイト閲覧のレポートを課するためにも使用できる．

GTS2004は，地質年代に関して極めて革新的な提案を満載し，国際的な物議を醸した．その中で最も大きな問題は第四紀の取り扱いである．1948年のロンドン万国地質学会議の議決に基づきイタリアに模式地のある第四系基底を，地球の裏側にある日本列島の地層に対比する調査研究を進めてきた我々にとっても，この提案は大きな衝撃であった．評者らは1969年以来，紆余曲折を繰り返してきたイタリアの第四系基底模式地の地質体について，ルートマップと詳細な柱状図を作成して

試料を採取し，地磁気極性層序と浮遊性微化石層序を検討，最終的に何処に決定されても十分対処できるように調査研究を進めてきた．しかし，これらの模式地の地質体は，連続性に乏しく，地磁気極性層序を確立するためにも困難な地域が多かった．GTS2004は，地球の自転に基づく「年」を基準とする年代に加え，地球公転軌道要素の変化に基づく「ミランコビッチ周期」を地質体に適用する方法を中心に据えるとともに，地質史に意味のある全球的寒冷化に対応する第四紀の定義を提案した．

第四紀の開始を従来の新第三紀鮮新世中に移し，新生代を古第三紀，新第三紀，第四紀に3分するという提案は，日本国内では学術会議のシンポジウムでも取り上げられ，従来のカラブリア階の基底よりも新提案の基底がふさわしいことが，日本列島の浮遊性微化石の古海洋学的解析によっても支持された．

次に問題になったのは消滅してしまった「第三紀Tertiary」を含む訳語「古第三紀Paleogene」と「新第三紀Neogene」の取り扱いである．この混乱に乗じて「古獣紀」と「新獣紀」の提案もなされたが，訳者等によって原語に忠実な「旧成紀」と「新成紀」の訳語が既に存在していることが指摘され，この訳語が本書に使用されている．次に話題になったのは白亜紀の階名である．従来，「コニアシアン」や「キャンパニアン」と用いられてきた用語を現地読みにすると「コニャック階」や「シャンパン階」のように酒屋の売り場案内になってしまうという指摘であった．

アルファベット表記しか持たない欧米語や漢字しか持たない中国語と異なり，カタカナ，ひらがな，漢字，さらにアルファベット表記を持つ日本語は日本人が外国から新たな知識を輸入するために最適である．本書における訳語の取り扱いについては，「訳者あとがき」に記されており，意味から翻訳できる場合はふさわしい漢字を当て，地名などの固有名詞に由来する場合はできる限り元の言語の発音に近いカタカナ表記を用いている．その一部は心配されていた酒屋売り場案内的になっている．

本書のような訳本は，最新の国際的な学問の進歩を自国語で読者に紹介するために出版される．このような書籍で勉学を積み重ねた読者は，将来，学問の進歩を担って国際舞台で活躍する研究者になるであろう．その際に愛読した書籍の訳語が役立つか，邪魔になるかが訳語に対する真の評価になる．表意語の綴りは一般に難しくないので先取権を尊重しながら漢字表記をしても原語の綴りを思い出せるので問題がない．そのような用例としては未だに訳語が定着していないSequence Stratigraphyに対して「束層層序」を使用していることを上げることができる．

問題は現地語読みの固有名詞のカタカナ表記である．出版時点で現地語読みに近いと判断して与えられたカタカナ語であっても，現地を訪れた読者が発音した場合に通じるかどうかが，最も重要な判断基準になるであろう．地質年代のカタカナ語表記に統一された書籍で勉強すると，地質時代を国際表記のアルファベットを使用している論文を読む際に負担を強いることになるのではないかと心配になる．固有名詞には特殊な綴のものが多く，一つのスペル違いでも異なったものになることに注意が必要である．最近の計算機製版技術の向上によってルビ振りが簡単にできるようになった．戦前・戦中派がある程度難しい漢字を読めるのも，子供の頃に読んだルビ振りの書籍のお陰である．そこで国際公用語の綴はアルファベット標記を堅持しつつ，現地語の発音に沿ったカタカナルビを振って「Coniacian（コニャック）階」などのようにすれば本来の目的を果たせると考える．再版の際に検討してほしい．

細かい個別の指摘は割愛するが，最後に地磁気極性層序研究者として一つだけ指摘しておきたい．本書148頁の第四紀磁極期に「松山（Matsuyama）磁極期」としているのは見逃すことができない．この用法はAllan Coxが導入したものであるが，京都大学初代物理地質学教授松山基範が自ら用いた日本式（訓令式）ローマ字表記Matuyamaが国際的に定着しているからだ．

（新妻信明）

博物館だより

福井県立恐竜博物館

平成24年度特別展　翼竜の謎ー恐竜が見あげた「竜」

ダーウィノプテルス（メス）の復元イラスト　©山本 匠

翼竜は，初めて空を飛んだ脊椎動物で，史上最大の空を飛ぶ動物を生み出しました．近年の相次ぐ新発見により，翼竜の進化や生態についてさまざまなことが明らかになってきました．多数の世界初公開となる翼竜の実物化石を中心に，翼竜のくらした環境を復元したジオラマや，巨大翼竜の生体復元模型（翼開長10m）などの展示を通じて，翼竜の謎にせまります．

会期：**7月6日（金）～10月8日（月・祝）**
ただし，7月11日（水），9月12日（水），26日（水）は休館
時間：午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）
場所：福井県立恐竜博物館3階　特別展示室
観覧料：一般 1,000円，高校・大学生 800円，小・中学生 600円，70歳以上の方 500円（上記料金で常設展もご覧いただけます）　団体料金（30名以上）　一般 800円，大学・高校生 600円，小・中学生 400円

関連イベント
特別展講演会「なぜアジアの翼竜足跡化石は翼竜の進化を知るために重要なのか？」
講師：イ・ユンナム　韓国地質資源研究院地質博物館館長
日時：9月23日（日）14：00～15：30
場所：福井県立恐竜博物館3階　講堂
福井産翼竜足跡化石プテライクヌス・ニッポネンシスをはじめ，アジアの翼竜足跡化石について紹介し，翼竜の進化を理解する上での足跡化石の重要性についてお話します．

問い合わせ先：
福井県立恐竜博物館　〒911-8601　福井県勝山市村岡町寺尾51-11
Tel: 0779-88-0001（代表）
http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/

おなかに卵をもつメスの翼竜化石（ダーウィノプテルス）

2012年度地質調査研修参加者募集のご案内

地質調査研修とは？

日本地質学会では，社会貢献事業の一端として，支部や他学会・機関と連携した研修事業等を企画，実施することとしています．その背景には，国内の地質調査業や関連事業団体からの地質調査技術の研修要請に対する定常的な仕組みがほとんど存在していないことが挙げられます．日本地質学会では，地方支部のネットワーク等を有効に利用して，これらの社会要請に幅広く対応できる体制を構築していくべきと判断し，2012年度よりモデル事業を立ち上げることとしました．充実した地質調査研修プログラムをご用意いたしますので，是非ご参加ください．

2012年７月
日本地質学会社会貢献部会

主催：一般社団法人日本地質学会
後援：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
協力：一般社団法人日本地質学会関東支部

実施経緯：本研修は，2011年度まで５年（５回）にわたり地学情報サービス株式会社が実施してきた地質の調査研修を，地質調査技術の継承と普及を目的とした事業として地質学会が引き継ぐものです．実施内容は，基本的に従来の形をほぼそのまま継承しています．

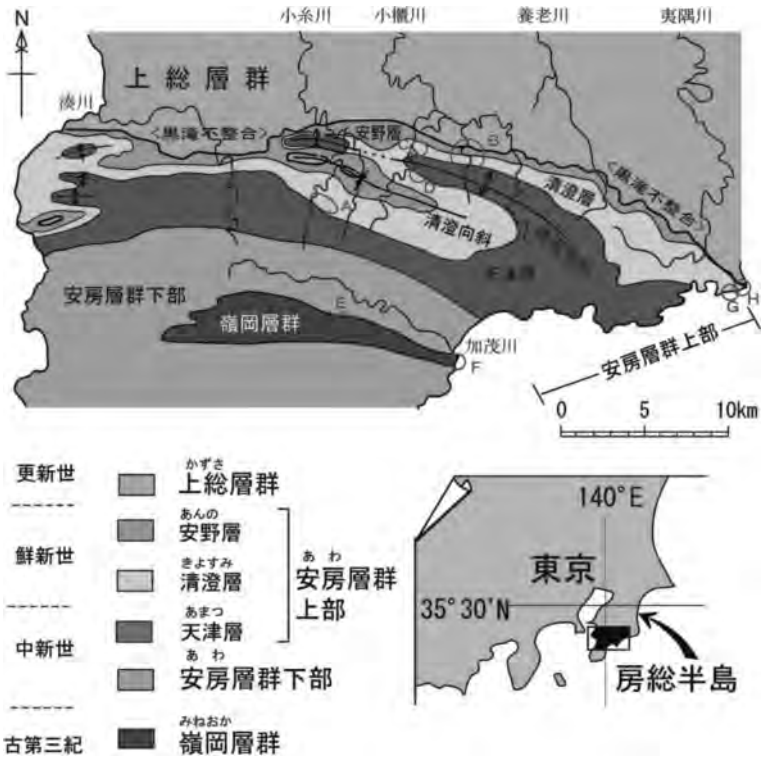
日程：2012年10月29日（月）～11月２日（金）４泊５日
場所：千葉県君津市及びその周辺地域（房総半島中部域）
講師：徳橋秀一氏　産総研地圏資源環境研究部門客員研究員
　　中島　礼氏　産総研地質情報研究部門研究員
募集対象：主に地質関連会社の若手技術者（日本地質学会の会員・非会員を問いません）
募集人数：６名．希望者が少ない場合や定員を超過した場合は，次回に調整させていただくこともあります．

募集締切：2012年９月21日（金）
参加費：12万円（ただし、宿泊費および集合地までや解散地からの交通費は含みません）

CPD単位及び修了証書：当学会認定の土質・地質技術者のための継続教育（CPD）40単位と修了証書が授与されます．
研修内容：ひとつの地質体（褶曲構造を示す新第三系安房層群上部の地層）を対象に野外地質調査技術の基礎を実地で学ぶことによって，地質調査法の基本技術の修得をめざすとともに，それをベースに得られた過去の調査や研究の成果についても学びます．地質調査の経験のない方でも，地質調査法の基本を体で習得することを目指します．なお，本研修についての具体的な内容，過去の実施状況については，参考文献の「ご地層の話」（徳橋，2011）に詳しく紹介されています．

申込方法：**ジオ・スクーリングネット（https://www.geo-schooling.jp/）によりお申し込みください．**ジオ・スクーリングネットに利用者登録をしたうえで，「研修検索と申込」をクリックし，日本地質学会の「地質の調査研修」を選択してお申し込みください．お申し込み後，担当者より詳細の連絡をいたします．なおジオ・スクーリングネット上でCPDの登録及び登録内容証明書の発行が可能です．

お問い合わせ先：日本地質学会事務局
　電話：03-5823-1150
　e-mail：main@geosociety.jp



研修実施の具体的な位置

【研修中の基本スケジュール】

（天候等によって変更される場合があります）

第１日目（月）：昼前に内房線JR君津駅に集合，昼食．午後は，清澄向斜南翼に位置する小糸川上流の清和県民の森内の蛇行形態を示す林道上（付図の地域A）で，ルートマップの作成（クリノメーターを使った進行方向の測定と歩測による移動距離の測定によって野帳にルート図を作成するとともに，鍵層の分布状況および地層の層理面や断層面の走向・傾斜をクリノメーターを使って測定し，ルート図へ記入）の基本実習を行う．夜は，昼のデータの清書（墨入れ）や配布資料に基づいた研修地域の地質や地層についての講習．

第２日目（火）：黒滝不整合とその南側の清澄背斜北翼に位置する安房層群上部（上位より，安野層・清澄層・天津層）が分布する小櫃川支流の猪の川本流（別名，黒滝沢：黒滝不整合発祥の沢で，東京大学千葉演習林内にある．ほぼ100%地層が連続的に露出．）沿いで，川歩きに慣れながら，地層（タービダイト砂岩・泥岩・凝灰岩・スランプなど）の観察法やルートマップ作成上重要な各種地質情報（主な凝灰岩鍵層名や累層境界，断層情報など）を確認する（付図の地域B）．夜は，当日の復習や前夜の講習のつづきを行う．

第３日目（水）：猪の川本流（黒滝沢）沿いの主に安野層分布域でのルートマップの作成．蛇行する河川沿いに同じ凝灰岩鍵層，岩相（堆積相），スランプが繰り返し出現することやそれが断層によってずれていることをルートマップ図上に表現する．夜は，昼のデータの清書（墨入れ）等の作業を行う．

第４日目（木）：前日につづき，猪の川本流（黒滝沢）沿いで，安野層下位の清澄層や天津層分布域のルートマップを作成する．また，初日に作成したルートマップ上での凝灰岩鍵層の分布との比較により，清澄層下部の層準の岩相・層厚が，猪の川沿い（清澄背斜北翼部）と清和県民の森の林道沿い（清澄向斜南翼部）とで顕著に異なることを確認する．その後，近隣の林道沿いで，清澄背斜北翼（付図の地域C）や南翼（付図の地域D）などのより広域的な範囲での代表的な鍵層の連続性や天津層と清澄層の境界部の特徴を観察する．夜は，昼のデータの清書（墨入れ）等の作業とこれまでこの地域で行われた調査・研究結果の成果等について学ぶ．

第５日目（金）：安房層群上部の地層が形成された清澄前弧海盆の外縁隆起帯を形成していたと考えられる加茂川低地帯南側の嶺岡構造帯（嶺岡山地周辺）の特徴的な岩石を観察（付図の地域EとF）したのち，東海岸を北上して勝浦海中公園付近（付図の地域G）に移動．猪の川本流（黒滝沢）沿いの清澄層中部で観察した凝灰岩鍵層Ky21（Hkタフ）と前後の地層を観察し，猪の川沿いとの岩相や層厚の変化（同時異相の関係）を観察する．その隣の吉尾漁港東方のボラの鼻（付図の地域H）では，清澄層上部の厚層理・薄層理タービダイト砂岩等の特徴を観察するとともに，黒滝不整合が安野層全体を侵食して，清澄層上部を直接覆うことを観察し，下位層を侵食するという不整合の特性を理解する．午後，外房線のJR外房線の勝浦駅や茂原駅などで解散．

＊2011年度春季地質の調査研修（地学情報サービス株式会社実施）の様子を学会ホームページ「地質調査研修」ページに掲載しています．あわせてご覧下さい．
<http://www.geosociety.jp/engineer/content0022.html>

参考文献

徳橋秀一編著（2002）「タービダイトの話（「地質ニュース」復刻版）」実業公報社，252p.
徳橋秀一・石原与四郎（2008）「千葉県清和県民の森周辺の地質図（１万５千分の１）と同説明書」，産総研地質調査総合センター，特殊地質図 No.39，95p.
徳橋秀一編著（2011）地質ニュース復刻版第２弾「ご地層の話－地層観察・地質調査・露頭保存の重要性を唱えつつ－」実業公報社，203p.

学会オリジナルフィールドノート 好評発売中です！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　カバー：ハードカバー，ビニールコーティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

5月10日は 地質の日

2010年の「地質の日（5/10）」に関連して開催された学会の催しをご紹介します．

★本部イベント

街中ジオ散歩in Tokyo「身近な地層や岩石を知ろう」

一般社団法人日本地質学会・一般社団法人日本応用地質学会　共催
日時：2012年５月13日（土）
参加者数：32名（うち小学生２名）

コース：10:00東京駅集合→旧丸ビル基礎の松杭→三菱１号館歴史資料室→丸の内の地盤沈下跡→稲田花崗岩のビル→伊豆の安山岩の石垣→日比谷図書文化館（千代田区の自然人文地理）（公園内で昼食）→三宅坂の水準原点→黒髪島石と尾立石の国会議事堂→玉川上水とお濠の地形水文→一番町の地中熱利用実例ビル見学→東京メトロ半蔵門駅解散16:00過ぎ

講師：中山俊雄氏（日本地質学会）・奥村興平氏（日本応用地質学会）
幹事：斎藤　眞
（応用地質学会；飛田健二・長谷川貴志・緒方信一）

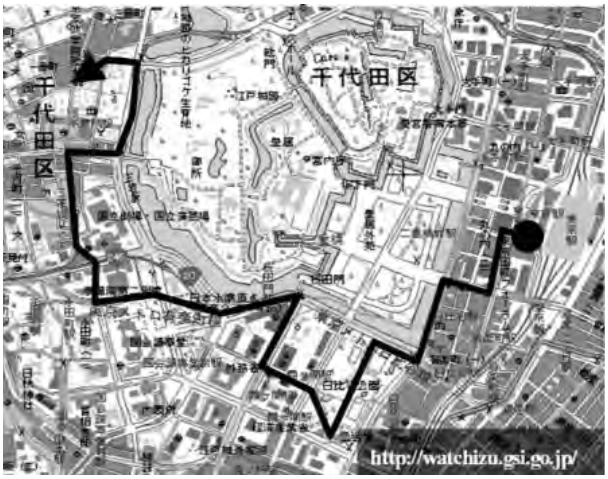
街中ジオ散歩の状況

当日は晴天に恵まれ，参加者一同，定時よりも前に集合が完了し，楽しく出発しました．明治の先人たちの先見性と行動力驚き，期待の地中熱利用の実証サイトに感心し，足の疲れも忘れる，気持ちはリラックス，行程は盛り沢山の会でした．

このような「ゆるい?」徒歩見学会は，参加者の方々にどのように映ったでしょうか．聞いて見ました．

私は人文地理学が専門で地質学系のフィールドワークに参加したことは初めてでしたがとても興味深く新鮮な巡検でした．見学するものが同じでも切り口を変えると見えていたものがまったく違うものになる感じが心地よいものでした．自然環境と人間の関わりが見える巡検で，特に江戸城の堀の作り方が興味深いものでした．歴史的なものが絡むと奥深い面白さが感じられました．巡検のスタッフも非常に親切丁寧で解説も解りやすく楽しい一日でした．
ぜひ今後もこのようなフィールドワークを企画して頂けたら嬉しい限りです．（竹林和彦さん，高校の先生）

五月晴れの日曜日，わくわくしながら散歩が始まり，旧丸ビルの松杭見学，明治時代に5443本！を打ち込んだ事実に脱帽．道すがら江戸時代の大名屋敷から今に続く丸の内の歴史を教わり，まさにその地に立つことに感激．今までは素敵なビルに目を惹かれ上ばかり見ていた日比谷付近も，歩道の地盤沈下を知り，今後は足元の亀裂を探してしまいそう．旧丸ビルの杭の多さに驚いたが，ここまで来ると本当に軟弱な地盤なのだと合点．旧第一生命館では戦後の歴史に触れ，一方，御影石の線量って高いんだ！と驚き．日比谷公園の標高記号が刻まれた踏み石，三宅坂では水準原点の下を地下鉄が通っていること，東日本大震災で24mm沈み原点数値が改定されたこと，これから標高24.3900mの標識を見る度，きっと今日のことを思い出すだろう．皇居のお堀の水位には不思議を感じつつみんなの知恵と技術で水質がきれいになることを期待しながら通過．一番町笹田



街中ジオ散歩　徒歩ルート

ビルの地中熱利用に驚き，地面の下の不思議を満喫できた一日となりました．

中山先生，奥村先生には６時間にわたり丁寧なご説明を頂きありがとうございました．国会議事堂の後，１箇所行こうとされて引き返した場所が気になっています．又，機会がありましたらよろしくお願いいたします．来年もこの会が開催されることを期待します．（山野辺久美子さん，会社員）

今回初参加でしたが，雰囲気も良く，専門の方が案内者（講師）のお二人以外にも，いらっしゃったので質問しやすいのが良かったです．そのため話の内容が偏らず，幅広い話を聞くことができました．ただ，何を専門にされてる方かまでは詳しく分からなかったのは残念でした．最初の集合時に簡単な自己紹介をして頂けると，ありがたかったです．またこのような身近な地質や地形の見学会があれば参加したいと思いました．（実物を見ないと分からないことが多いので）このような勉強する機会を設けて頂きありがとうございました．（那木暢子さん，会社員）

地質だけでなく，東京の歴史も学べ，非常に勉強になりました．また普段気にしていないところに存在する街中の地質現象を把握し，今後は意識していこうと思います．個

千代田区立日比谷図書文化館での見学後，記念写真！

人的には，企画として時間・距離ともに適切であったと感じました．また新エネルギー（地中熱利用）の見学までできて非常に満足いくものでした．今後，同様の企画がありましたら，また参加させていただきたいと思います．（杉山直也さん，会社員）

あとがき

以上盛り沢山の見学会でしたが，この研修会の開催にあたって，中山俊雄氏，奥村興平氏，独立行政法人産業技術総合研究所，一般社団法人東京都地質調査業協会，NPO法人地中熱利用促進協会の方々，見学を許していただいたビルや展示館の方々には大変お世話になりました．最後になりましたが改めて心から感謝申し上げます．

（文責：**斎藤　眞・緒方信一・飛田健二・長谷川貴史**）

★中部支部「地質の日」イベント報告

サイエンスフェスティバルat新潟大学

6月3日に．体験型イベント「サイエンスフェスティバルat新潟大学（第5回）」を開催した．日本地質学会中部支部．新潟県立自然科学館．新潟大学理学部．同大教育学部．同大災害・復興科学研究所．そしてNPO法人ジオプロジェクト新潟による共催事業で．スタッフの総勢は46名以上に達した．参加者は．大学が所在する新潟市西区の区報．および西区の小学校19校にチラシ（総計8,900枚）を配布した結果．451名の参加者があった．晴天に恵まれ．昨年の参加者数（335名）を大きく超えた．

体験コーナーは．理学部地質科学科の自主ゼミ（2年生～院生）が中心となって開設し．自然科学館の協力も得て．レプリカ作成．化石模型展示．パンニング．砂絵．宝探し．塗り絵．化石折り紙．大陸パズル．ビスマス人工結晶作成実演．岩石標本作製．立体地形図の展示．液状化実験などの多様なコーナーが設けられた．工夫を凝らした手作り模型や．日頃できない体験内容に．会場は目を輝かせた小学生らでにぎわった．主催者にとっても．やりがいのある一日となったといえる．

また．GIS研究グループによる大学周辺の地震津波被害予想図．同地域の歴史地震津波被害研究の成果についてのポスターも展示された．新潟市・新潟大学周辺地域についての研究成果に関心をもつ参加者も多く．地質学による社会貢献の重要性を感じた一日でもあった．

文：中部支部　**野原・今中・里華子**，
写真：中部支部　**小河原孝彦**

★北海道支部2012年「地質の日」記念展示

「私たちの生活を支える金属鉱床－札幌周辺の鉱山を例に－」

標記展示を北海道大学総合博物館・日本地質学会北海道支部・（地独）北海道立総合研究機構地質研究所・（独）産総研地質調査総合センター・札幌市博物館活動センター・北海道地質調査業協会との共催，豊羽鉱山株式会社・地図と鉱石の山の手博物館・札幌市立手稲西小学校などの協力により，北海道大学総合博物館企画展示として4月24日（火）から5月27日（日）まで開催しました．

これまでの同館で行われた「地質の日」記念展示は以下のようで，今年で第5回目となりました．

・ライマンと北海道の地質（2008年）
・支笏火山と私たちのくらし（2009年）
・わが街の文化遺産「札幌軟石」－歩いた！探した！見つけた！（2010年）
・豊平川と私たち－その生いたちと自然（2011年）

この一連の企画では，地質学が私たちの身の回りの自然や暮らしにいかに関わっているかを，北海道のフィールドを通じて紹介しています．今回のテーマは『私たちの生活を支える金属鉱床－札幌周辺の鉱山を例に－』です．札幌西部山地は，日本有数の金鉱山であった手稲鉱山や日本を代表する鉛・亜鉛・銀の鉱山であった豊羽鉱山があったように，マグマ活動に由来するいろいろな金属鉱床に恵まれています．展示ではこれらの鉱山を例にその生い立ちや人との関わり・開発の経緯など歴史的な変遷を知っていただきながら，現代社会を支えている金属資源の一端を紹介し，我々の生活に不可欠な資源問題に付いて考えていただくことを目的としました．

展示内容は以下の6つの柱で構成し，説明パネルおよび

写真２　豊羽鉱山薩摩ヒ．今や国内では地下で鉱脈を見ることは，ほとんどできなくなりました．ここでは，方鉛鉱，閃亜鉛鉱，黄銅鉱が主な鉱物です．鉱石マニアにとっては堪えられない場所です．

写真１　かつて手稲鉱山で使用されていた採掘道具などの展示風景．

写真および実物展示などで紹介しました．

＊北海道における地質・鉱産物調査のはじまり
＊札幌西部山地の金属鉱床
＊日本一の鉛・亜鉛鉱山－豊羽鉱山
＊鉱山の探鉱から採鉱・製錬まで
＊鉱山開発と環境－酸性坑廃水の流出とその処理
＊レアアースを確保せよ！

展示の目玉の一つは，札幌市立手稲西小学校の展示室「鉱山の部屋」に保管・展示されているかつての手稲鉱山で使用されていた採掘道具や鉱石の簡易分析機器などで，とくに西村高史氏の描いた「鉱山にもぐる」と題された鉱山断面の絵具画は素朴な力強さがあり，目を引きました（写真１）．また，豊羽鉱山で発見された新鉱物「豊羽鉱」を含む鉱石の展示もあり，顕微鏡写真に満足されない方もおられました．

また，４月30日（月・祝）には豊羽鉱山株式会社の協力を得て定山渓温泉や豊羽鉱山周辺の市民を対象とした地質巡検を行いました（写真２）．定員を上回る応募者があり，うれしい悲鳴の中で坑内見学者20名，坑外見学者25名，を抽選する選抜となりました．その結果69才から14才までの老若男女となり，約半数は中高年で，夫婦や学生の参加も目立ちました．当日は９時30分に北大総合博物館前を出発して，豊羽鉱山手前の小金湯ピリカコタンで，札幌市博物館活動センターの古沢 仁さんの案内により豊平川河床のクジラの化石発見場所を見学しました．このクジラ化石は，かなり大きなもので発掘に４年かかったそうです．世界的に見ても貴重な化石で，これからの研究での成果が期待できます．化石発掘の様子は

＜http://www.city.sapporo.jp/museum/curator/chisitsu11_koganeyu.html＞

で見ることができます．

豊羽鉱山では，まず，鉱山事務所の会議室で鉱山の概要・坑水処理の説明を受け，坑水処理状況のDVDを見ました．坑内見学者はキャップランプ付の保安帽と防塵マスクを身に着けて坑口に向かいました．標高560m付近の朋進坑の坑口からワンボックスカーなど３台に分乗して坑内に入りました．平均勾配７度の斜路をひたすら下っていくと－121mのポンプ座に着きます．ここから地表の坑水処理場まで坑内の地下水を汲み上げて処理しています．このポンプ座の近くで薩摩ヒ（ヒは金偏に通：鉱脈のことです）の一部が坑道の壁に出ています．方鉛鉱，閃亜鉛鉱，黄銅鉱のほか菱マンガン鉱を見ることができます．

一時は，レアメタルの一種であるインジウムの世界的な鉱山であった豊羽鉱山ですが，これからは自然を守るために廃坑地下水（坑水）や堆積場からの廃水を処理していくことになります．

さらに，関連の「土曜市民セミナー」が５月12日（土）に北海道大学総合博物館1 階「知の交流」コーナーで開催されました．講師としてお招きした産総研の渡辺 寧氏には，「私たちの生活を支える金属資源：マグマからの贈り物」というやわらかいタイトルでお話しいただき，展示内容を生の言葉で語っていただいたような熱い講演となりました．会場も立ち見が出る百人超えの聴講者で，質問も積極的に出されるなど熱いものとなりました．

（北海道支部　**石井正之・在田一則・中川　充**）

★三浦半島活断層調査会　地質の日記念観察会

「深海から生まれた城ヶ島」

一般社団法人日本地質学会　後援

首都圏から２時間弱，三浦半島の最先端に位置する「城ヶ島」は，もっとも新しい付加帯が誕生する場（図１）である．模式的な火炎構造を切る逆断層，大正関東地震で隆起した馬の背洞門，三崎層のデュープレックス，褶曲構造，生痕化石，スコリア・パミス，So凝灰岩鍵層，火山豆石など，地質学を学ぶ学徒や研究者が，必ずと言っていいほど訪れる重要なフィールドである．

城ヶ島たんけんマップ

地質リーフレットたんけんシリーズ（日本地質学会地学教育委員会［編集］，2010）は，地質学徒の実習に使用できるよう内容を精選して，2010年９月に出版され，2012年３月に再販された．三浦半島全域地質図の改訂作業と併行して編集作業を進めていたこともあり，最新の知見をも取りこむように工夫した．そのため，東部の安房崎地区の解釈や三崎層と初声層の地層境界など，従来の研究者や学徒の調査結果と異なる記述もある．三浦半島活断層調査会では，普及教育事業として，観察会をたびたび行ってきた．

これまで

3.11大震災後の2011年５月７日に横須賀市自然人文博物

図１　北西上空から見た城ヶ島の全景．島は，南北系の断層で左横ずれしている．島の主要部は，高角度の三崎層からなるが，東西方向のスラストで接する南側の三崎層は緩い傾斜で分布することなどを読み取れる．撮影・提供　PPG湘南平塚の会員がモーターパラグライダーで2010年５月13日に

館主催による城ヶ島見学会が開催され，それを含め，６回以上の見学会が開催された．一方で，日本地質学会による電子出版も進行中（蟹江ほか，2012，印刷中）である．そして，2011年11月19日に日本地質学会関東支部主催による教育普及巡検が企画され，会員と非会員の39名が参加された．個々の研究成果をもちよっての現場での討論が期待されたが，悪天候のため，ポイント７　馬の背洞門付近で，打ち切りとなった．

2012年5月12日

地質の日記念行事として，一般社団法人日本地質学会・三浦市・地学団体研究会神奈川支部・日本科学者会議東京支部のご後援をいただき，「深海から生まれた城ヶ島」の観察会を実施した．五月晴れの中，日本科学者会議東京支部個人会員など，神奈川県内外から総勢52名に加えて案内役の三浦半島活断層調査会員10名が白秋記念碑前バス停で10時に集合した．2011年11月の日本地質学会普及巡検で，観察できなかった東海岸のポイント８の安房崎から時計回りに島を一周した．複雑な地質構造の安房崎は，三崎層と初声層の関係が研究者により解釈の大きく異なる重要ポイントである．モーターパラグライダーで150mの低空から撮影された地質リーフレットの写真（PPG湘南平塚撮影）を参考にしていただきたい．安房崎の名の通り，東京湾をはさんで目の前は房総半島であった．

三崎面に載る神奈川県立城ヶ島公園で伊豆大島を遠望しながらの昼食．三崎面を下ると，やせ細った「馬の背」が目に入った．ポイント７の「馬の背洞門」は，1923年の大正関東地震により1.6mほど隆起した海食洞で，震災前の「絵はがき」と現在の「写真」を対比．風化が進む洞門周辺には，「崩落注意」の看板や「立ち入り禁止」の警告が目立つが，地質現象を解説する説明板が欲しい．神奈川県では，風化の進行を遅らせる策を施すというが，賛否もある．

ポイント６　では高角な断層と4.6Ｍａの年代が得られている鍵層So凝灰岩から三崎層上部を見学．ここでSo層を挟む海食洞脇を切る高角な正断層付近で2011年３月６日以降に発生した崩壊を確認した（図２）．この断層によって，三崎層と初声層の境界とする考えもある．

ポイント４では三崎層の火山灰層と揺れた海底を想像させる火炎構造を観察．城ヶ島灯台下の地質遺産としても名高い火炎構造の逆断層が，故意に削られている状況を発見した．地質学徒のモラルにかかわることである．

図２　断層面に沿って崩落〔ポイント６〕今回の訪問で，西傾斜の正断層面（図中の破線）に沿っての崖崩れを認めた．3月初旬以降に崩れたもので，東北地方太平洋沖地震による影響かもしれない．この断層は，今まで三崎層と東側に分布する初声層を分ける断層とされてきたが，So凝灰岩鍵層（図中の「So」）が挟まれるので，ここは三崎層の上部と見なした．写真 河上 茂

西海岸で関東地震の痕跡と曲げられた三崎層の堆積構造を観察．カンザシゴカイ類の棲管の痕跡から，大正関東地震で現海面より1.4m，元禄地震で現海面より2.2mの隆起量であった．島の西端にある最終地点のポイント１の灘ヶ崎では，凝灰岩と泥岩が風化・浸食に抗して残された洗濯板状の地形を観察して，全行程を終えた．

リーフレットに示したポイント１～９のルートは，基礎的な説明から始めたつもりである．一日で観察ポイントすべてを見学するのは，困難なこともある．詳しく調べたくなった方は，何度でも島を訪れることをお勧めする．逆回りにすることで，帰りのバスは，始発から着席乗車できるメリットもある．地質の日の５月は，日照時間も長く，潮の引きも大きく，気候も安定し．フィールドワークに最適である．ジオパークブームの昨今，首都圏から最寄り駅の三崎口まで電車で1時間強，城ヶ島まで路線バスで約40分という地の利がある．電車バスのフリー切符を工夫して，家族連れや中高年のグループで気軽に来訪できる．

（三浦半島活断層調査会　**鈴木 進・蟹江康光**）

World Conference on Paleontology and Stratigraphy 2011参加報告

半田直人
（鹿児島大学理工学研究科博士後期課程）

11月28日から12月２日にかけて，タイ東北部Nakhon Ratchasima県においてWorld Conference on Paleontology and Stratigraphy 2011が開催された．これはNakhon Ratchasima Rajabhat UniversityとDepartment of Mineral Fuels, Mineral of Energy，そしてNakhon Ratchasima Provinceが主催し，UNESCO IGCP596, Shenyang Normal University, Chinaそして日本の福井県立恐竜博物館が後援して行った古生物学および層序学に関する国際会議である．この会議ではVertebrate Paleontology，Invertebrate Paleontology，Paleobotany，Stratigraphy，Museum Management，Energyのセッションが設けられ，それぞれの会場に分かれて口頭発表が行われた．またポスター発表も行われ，発表スペースが設置されて学会期間中に参加者が自由に見学できるようになっていた．

口頭およびポスターによる発表が合計156件（うち24件がポスター発表）行われた．参加国はタイのほか，アルジェリア，オーストリア，アゼルバイジャン，デンマーク，フランス，ドイツ，スイス，ポーランド，イギリス，インド，カンボジア，スリランカ，ラオス，インドネシア，イラン，イスラエル，クウェート，パキスタン，カナダ，中国，韓国，日本，マダガスカル，モロッコ，ロシア，アメリカ，オーストラリアであり，世界各国の研究者が集まって議論を交わしていた．総勢200人以上の参加があり，このうち日本からは23人の研究者や大学院生が発表のために参加していた．講演はタイ国内の地質および古生物に関する話題はもちろん，東南アジアの古生物・地質に関する発表が多かったように思われる．筆者はモンゴル国ゴビ砂漠の上部白亜系から発見された恐竜（角竜類）のポスター発表を行った．

１日目の午前中は各セッションに分かれて一般公演が行われた．一般公演の終了後に，オープニングセレモニーがタイ国の王女来賓のもと行われた．さらにDavid Dilcher氏，三枝春生氏，東　洋一氏，Philip Currie氏による基調講演が行われた．セレモニーが終了した後，会議の会場であるSima Thani HotelからNavamintra 公園に場所を移し，歓迎パーティーが開かれた．これは地元の学生の方々が準備してくださったようで，豪華な料理のほかタイの音楽や舞踊が披露され，参加者は楽しいひと時を過ごせた．

写真１　Ban Saphan Hin Dinosaur excavation siteにて露頭を観察する巡検参加者（鹿児島大学，小澤祐介氏提供）．

２日目は昼過ぎまで行われた一般講演の後，Khorat化石博物館を見学した．Khorat化石博物館は，珪化木博物館，ゾウ化石博物館および恐竜化石博物館からなり，タイ国内で発見された巨大な珪化木や，多数の動植物化石が展示されていた．とくに大量の歯や骨格からなるゾウ化石の展示が充実していたことが印象的であった．筆者は古脊椎動物学の関係者とともに見学してまわることができ，展示された化石や復元について，専門家による解説や意見を聞くことができ，良い経験ができた．このほか特別展示として，福井県立恐竜博物館の協力によって，福井から発見された恐竜化石の復元骨格や同博物館の紹介などが展示されていた．

３日目は一般講演の後に観光が行われた．最初に約3000年前の考古遺跡であるBan Plasat Archeological Siteを見学した．ここでは，当時使われていた土器や石器および人骨が展示されていたが，もっとも目を引いたのは，数十体の人骨が密集した墓地遺跡を，発掘作業の状態で保存した展示であった．このあと10～12世紀のものとされるPhimai遺跡を見学した．ここは広い敷地内に砂岩でできた寺院の数々を見学することができた．ここは外国人観光客や地元の学生と思われる団体客など多くの観光客でにぎわっていた．見学後ホテルに戻るとFarewell partyが催された．

巡検

講演が終わり，12月１日から２日にかけて巡検が行われた．巡検のコースは２つあり，ルート１は恐竜および哺乳類化石サイトの見学，ルート２は植物および無脊椎動物化石の見学であった．筆者はルート１に参加した．

［巡検１日目］　最初に訪れた場所は，Nakhon Ratchasimaに位置するBan Saphan Hin Dinosaur excavation siteである（写真１）．ここでは，下部白亜系Khok Kruat層を見学した．ここは周囲がキャッサバ畑に覆われているため，畑の土壌を取り除いて露頭を掘り出して調査が行われている．調査はタイ王国珪化木鉱物資源東北研究所と日本の福井県立恐竜博物館との共同で行われている．露頭はいくつもの“島状”の岩塊として露出する．赤色～赤褐色の砂岩や礫岩からなる．この地層からは獣脚類や鳥脚類などの恐竜のほか，翼竜類やサメ類，カメ類などの脊椎動物化石が発見されているようである．実際に参加者らが露頭を観察すると，脊椎動物化石が散在して含まれているのが観察できた．最近この地層から，タイ・日本共同調査による発掘で見つかった新種の植物食恐竜が報告されており，発掘調査の今後の成果が期待される．

その後２つめの見学地であるChang sand pitを見学した（写真２）．Chang sand pitには中期中新世～更新世の地層が露出している．ここは民間企業が経営する採砂場であり，その作業によって化石が発見されている．おもに砂礫からなる地層であり，多数のゾウ類化石のほか，ウシ類，サイ類，カバ類，ウマ類，食肉類など非常に多くの哺乳類化石がこれまで産出しており，実際に見つかった化石のいくつかを現場で拝見した．哺乳類化石のほかにもカメ類やワニ類といった爬虫類や，軟体動物の化石も産出しているようである．

［巡検２日目］　Nakhon Ratchasima県からKalasin県に移動し，後期ジュラ紀～前期白亜紀の恐竜化石サイトのPhu Noi dinosaur excavation siteおよびSirindhorn博物館を見学した．

Phu Noi dinosaur excavation siteはKalasin県北部に位置している．山の中腹に露出している泥岩または砂岩からなる下部白亜系Phu Kradung層を観察した．現場ではボーンベッドを観察することができ，いくつもの恐竜骨格化石を発掘されている最中であった．参加者はその化石の産状を観察したり，発見された化石について解説者や発掘作業者と議論を交わしたりしていた．ここではこれまでに竜脚類などの恐竜化石が発掘されており，発見された化石はこの次の見学地であるSirindhorn博物館に保管されている．

Sirindhorn博物館は，展示および収蔵施設である本館と，恐竜のボーンベッドを見学できる発掘サイトからなる．本館では地球の誕生の様子を紹介した展示から始まり，タイで発見された恐竜をはじめとした化石を展示した生物の進化史の展示，そして人類の誕生から現在までの流れが紹介されており，地球史を理解できる展示となっている．発掘サイトは竜脚類*Phuwiangosaurus sirindhornae*が発見された場所でもあり，発掘現場であるボーンベッドをそのまま保存し，周囲に建物が建てられている．現場には骨格化石のあった位置に化石の産状レプリカが設置されており，見学者はその様子を観察することができるようになっていた．

その後筆者は数人の参加者とともにバンコク市内へと飛行機で移動し，日本の帰路についた．今回の国際会議では，アジアだけでなく世界各国から非常に多くの研究者が参加しており，活発な議論が展開されていた印象を受けた．筆者も，自身の研究分野に関連した研究者と話をできたことが収穫であった．また，講演後に博物館や観光地の見学がプログラムに組まれていたため，地質や古生物学以外にもタイの歴史に触れることができ，その魅力を堪能できたと実感している．最後になりましたが，今回の国際会議の運営に携わったすべての皆様に感謝いたします．

写真２　Chang sand pitの露頭風景．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

yhamada@eps.s.u-tokyo.ac.jp　濱田洋平（東京大）
gsc421511@s.okayama-.u.ac.jp　湯川弘一（岡山大）
12ND404L@mcs.ibaraki.ac.jp　細井　淳（茨城大）
3SC12024G@s.kyushu-u.ac.jp　佐藤峰南（九州大）

地質リーフレット４

日本列島と地質環境の長期安定性

好評発売中

地質環境の長期的利用の観点から、日本の地質環境を分かりやすくまとめたリーフレット。最新のデータに基づき、日本列島の断層運動、火山・マグマ活動等の特徴、そして将来予測の考え方を示しています。多くの方々に活用して頂けることを願っています。

定価600円
（会員頒価500円）
（20部以上の場合割引あり）

2011年1月発行　B2版　両面フルカラー
編集　一般社団法人日本地質学会　地質環境の長期安定性研究委員会
発行　一般社団法人日本地質学会

購入希望の方は、学会事務局まで。 e-mail: main@geosociety.jp　電話 03-5823-1150

地質リーフレットシリーズ1～3も
好評発売中！

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

一般社団法人日本地質学会
2011年度第４回理事会議事録

日　時：2012年４月７日（土）13:00～17:00
場　所：北とぴあ　901会議室　（東京都北区王子１-１）
出席役員　理事（36名）：宮下純夫会長　久田健一郎副会長　渡部芳夫副会長　天野一男　安藤寿男　石渡　明　井龍康文　上砂正一　永広昌之　小山内康人　北原哲郎　小嶋　智　斎藤　眞　坂口有人　榊原正幸　柴　正博　高木秀雄　高橋正樹　竹内　誠　田村嘉之　内藤一樹　中井　均　楡井　久　平田大二　福富幹男　藤林紀枝　藤本光一郎　星　博幸　保柳康一　松岡　篤　松田博貴　向山　栄　矢島道子　山口耕生　山田泰広　脇田浩二
欠席役員　理事（13名）：伊藤谷生　太田泰弘　奥平敬元　狩野彰宏　紺谷吉弘　佐々木和彦　芝川明義　竹下　徹　田近淳　西　弘嗣　松原典孝　村田明広　林愛明
監事（２名）：青野道夫　山本正司
その他出席者　オブザーバー：山本高司（関東支部幹事長）事務局：橋辺
＊成立要件：理事総数49名の過半数25名，本日の出席者36名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数19名
＊書記として，脇田浩二理事，北原哲郎理事を選出した．

報告事項

１．執行理事会報告
・藤本常務理事より第６～９回執行理事会に関する報告と説明があった．

２．個別の報告
１）地質調査研修事業（斎藤）
2012年度より本学会として行う，地質調査研修事業に関する状況説明があった．
２）年会関係（星）
2012年学術大会（大阪大会）の準備状況について報告があった．大会のキャッチコピーとしてLOCから提示された２案を統合した「このアジア的都市大阪と歩む地質学」とする提案があり，これをLOCで検討してもらうこととした．
３）Island Arc編集状況報告（井龍）
編集・投稿状況についての報告があった．昨年度は投稿が少なく，出版予定ページよりかなり少なかったが，本年度は特集号が３つ予定され，持ち直すことができそうである．
冊子体としての発行は今年限りとし，今後は電子媒体に移行することになったとの報告があった．なお，文科省の方針を受けて，地球惑星科学連合として新たに雑誌を刊行する方針であること，Island Arcは出版社発行の商業誌としての位置づけがあるので，それとは独立して刊行を継続する方針であることなどが紹介された．
４）ジオパーク支援委員会報告（高木）
ジオパークネットワークは会員20地域，準会員11地域，関心のある19地域である．現在，世界ジオパーク認定に隠岐が申請審査中であるほか，阿蘇が今年申請する予定である．
５）その他
①　50年顕彰会員候補19名（昭和37年入会者）の説明があった．現在，全会員数は3965名，前回理事会以降の逝去会員は６名であった．（向山）
②　今年度の震災復興事業６件（２件は標本レスキュー）の報告があり，うち３件の報告書が回覧された．永広会員ほかの標本レスキュー事業についてはすでにNews誌に報告が掲載されている．（高木）

３．理事からの報告事項
・震災復興事業（上砂）
放射線測定事業についての活動状況について報告があった．

４．その他
・地質学雑誌の編集長が山路敦（京大）会員，Island Arcの編集長が伊藤慎（千葉大）会員・海野進（金沢大）会員となることが報告された．

審議事項

１．各賞の選考について
榊原各賞選考委員長より，日本地質学会賞１件（応募２件），日本地質学会小澤儀明賞１件（応募１件），日本地質学会Island Arc賞１件（応募１件），日本地質学会論文賞２件（応募２件），日本地質学会小藤賞１件（応募２件），日本地質学会小藤文次郎賞１件（応募１件），日本地質学会研究奨励賞３件（応募５件），日本地質学会表彰２件（応募１件，うち１件は日本地質学会功労賞への応募）の候補が選考結果として提案され，審議の結果，すべて承認された．なお，日本地質学会功労賞への応募１件について，各賞選考委員会で議論の結果，日本地質学会表彰の方が推薦の趣旨として適当との判断から，応募先を学会表彰に変更することを認めたうえで，選考したことが報告された．

２．名誉会員候補者の選考について
久田理事より大八木規夫会員と蟹沢聰史会員を名誉会員とする案が提案され，承認された．

３．年会関係
１）学術大会の回り持ち申し合わせ修正案について
星理事（行事委員会）より，「年会の回り持ち順変更に関する申し合わせ（案）」の修正案が提案された．前回の理事会で議論のあった順番の変更については，「予定されている大会開催を延期したい場合」「予定されている大会開催が困難・不可能な状況になった場合」「回り持ち順に割って入るように大会開催を希望する場合」は，“支部長と開催校代表者が行事委員会に連絡すること”，それを受けて“行事委員会が各方面と調整し，順番変更の決定は理事会が行う”案が了承された．
２）見学旅行の名称変更について
星理事（行事委員会）より，「見学旅行」の名称を「巡検」と変更することが提案され，行事委員会での検討状況の報告をうけて，承認された．見学旅行という名称が物見遊山的な観光旅行と誤解されることを避けるため，地質学研究，調査のフィールドワークとして呼び習わされている「巡検」に変更するものである．

４．2011年度決算案・事業報告
向山理事より2011年度決算案，藤本常務理事より本年度総会に提案する事業報告の現時点で素案が紹介された．事業報告案については，今後，執行理事会等で加筆修正して作成することが承認された．

５．2012年度の事業計画基本方針について
宮下会長から，2012年度事業計画の説明があり，了承された．なお，小嶋理事より，文章中にある地球科学教育の「参照基準」とは「各大学がカリキュラム作成の際に参照する基準」である，との追加説明があった．

６．2012年度予算案
向山理事より，2012年度予算案の提案があり，審議の結果了承された．なお，計算書の表記方法の修正と「見学旅行」を「巡検」に修正する指摘があった．

７．定款の変更
藤本常務理事より，前回の理事会において変更承認された会長以下の理事会における選出規定に関する，定款第33条第２項についての再変更が提案された．顧問弁護士から指摘受けての再変更との説明があり，理事会として了承した．
また，日本地質学会が公益性の高い法人であることを示すために，財産管理運用に関する定款第54条に第２項（1）～（3）号を追加する件は，第１号と第２号の文案微修正の上で了承した．第３号は，「・・公益社団法人「等」が行う・・」の「等」を追加できるのであれば追加し，追加できないのであれば第３号を削除することで，執行理事会での再検討の上で行うことを，了承した．

８．規則類の変更
１）藤本理事より，各賞選考規則第８項１）の小藤文次郎賞の授賞対象について，「論

文」となっているのを「論文を発表した会員」と修正する提案がなされた．日本地質学会運営規則と各賞選考規則では賞の対象が異なっていたため，本年度の選考過程で授賞対象が論文なのか会員なのか混乱した．賞の趣旨に沿って各賞選考規則を提案どおり修正することを了承した．

2）日本地質学会運営規則第16条第３項の各賞の表彰に関して，優秀ポスター賞の表彰実態に合わせ，３項の文言の修正が提案され，下記のように（アンダーライン追加，規則上（8）は優秀ポスター賞の定めです）修正することが了承された．

3　前項の（1）～（7）および（9），（10）の表彰は，別途定める規則に従い，各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行い理事会が候補者を決定し，総会の承認を経て行う．前項の（8）の表彰は別途定める規則に従い，各賞選考委員会が選考し，会長の承認を経て行う．

3）審議事項の３－２）を受けて，日本地質学会運営規則及び地質学雑誌編集出版規則の数カ所にある「見学旅行」をすべて「巡検」に変更する提案が了承された．

4）内藤理事より，広報委員会のもとに設置されるジオルジュ編集委員会のジオルジュ編集委員会細則案が報告されたが，「６．編集業務」に関して地質学会事務局の役割に関する文面を修正する必要が指摘された．なお，「７．著作権」に関しては，著作権譲渡に関する一文を追加する予定であることが報告された．

9．その他

1）代議員・理事選挙について検討課題

藤本常務理事より，代議員選挙と地方支部選出理事の選出方法に関しての今後の検討課題について報告があり，理事会として議論した．支部からの理事選出に関しては，代議員としての最高得票者をその支部からの理事とする現行方式の問題点が指摘され，支部に対応を任せてはどうかなどの意見があった．支部長会議での意見も聴くなど，さらに検討することとした．

2）会員の減少対策について

向山理事より，会員の減少状況に関し，会員動向の詳細な図を用いての説明があった．今後の会員の増加やシニア会員減少の対策などを具体的に検討する必要性について，意見を交わし，学会としての広報活動を強化する必要が指摘された．

3）坂口理事より，日本地質学会物販オンライン化案について，今後，執行理事会での検討を深めるなどの詳細について報告があった．

10．総会議題

藤本常務理事より，すでに地質学会ニュースで予告案内された総会の議案予定について提案があり，原案どおり了承された．

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長および出席理事は次に記名，押印する．

2012年４月25日

一般社団法人日本地質学会 2012年度第１回理事会議事録

日　時：2012年５月19日（土）16:10～17:00
場　所：北とぴあ　第２研修室（東京都北区王子１-１）
出席役員　理事（36名）：天野一男　安藤寿男　市川八州夫　伊藤谷生　井龍康文　石渡　明　ウォリス サイモン　永広昌之　笠間友博　川端清司　川辺文久　清川昌一　斎藤　眞　坂口有人　佐々木和彦　柴　正博　高木秀雄　高橋正樹　竹内　誠　田村嘉之　内藤一樹　中澤　努　西　弘嗣　久田健一郎　平田大二　藤本光一郎　星　博幸　保柳康一　松田達生　宮下純夫　向山　栄　山口耕生　山路　敦　山本高司　脇田浩二　渡部芳夫
監事（２名）：青野道夫　山本正司
欠席役員　理事（14名）：伊藤　慎　太田泰弘　大津　直　小山内康人　狩野彰宏　小嶋　智　芝川明義　竹下　徹　藤林紀枝　宮田隆夫　松田博貴　村田明広　矢島道子　山田泰広
その他出席者　事務局：橋辺
＊成立要件：理事総数50名の過半数26名，本日の出席者36名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数19名
議事録の修正について
修正文は渡部副会長から（研修事業について）

審議事項

１．理事会議長・副議長各１名の選出

前期理事会議長，竹内誠理事の司会で，理事会議長と副議長を選出した．

議　長　　安藤寿男理事
副議長　　松田博貴理事

＜２項以下の議事は安藤議長により進行＞

２．会長および副会長の選出

会長および副会長への立候補意思表示および会員意向調査を尊重し，会長（代表理事）および副会長を下記の通り選出した．

会長＝代表理事　　石渡　明
副会長（２名）　　ウォリス　サイモン
　　渡部芳夫

３．執行理事15名の選出

石渡会長より執行理事への意思表示を基に執行理事15名の提案があり，下記の通り承認された．

なお，提案に際して，執行理事への意思表示のあった矢島道子理事には，地学史に造詣が深いので理事として125周年事業の担当をお願いしたいこと，地学教育担当の執行理事はおかないため，中井均地学教育委員長が必要に応じて，執行理事会にオブザーバーで出席する予定であることの２点の補足説明があった．

常務理事　斎藤　眞
副常務理事　坂口有人
運営財政部会
　西　弘嗣　部会長（会計担当），山本高司（会員担当）
広報部会
　内藤一樹　部会長，松田達生
学術研究部会
　井龍康文　部会長（国際担当），星博幸（行事担当）
出版部会
　山路　敦　部会長（地質学雑誌担当），伊藤　慎（Island Arc担当），山口耕生（企画出版担当）
社会貢献部会
　高木秀雄　部会長（ジオパーク担当），平田大二（生涯教育担当），中澤　努，保柳康一（連携事業担当）

４．各賞選考委員会委員の選出

専門分野を考慮し，次の10名を選出した．

星　博幸，清川昌一，向山　栄，竹下　徹，村田明広，西　弘嗣，川辺文久，永広昌之，川端清司，田村嘉之

＜役職指定委員：７名＞

前･現地質学雑誌編集長・副編集長：小嶋　智，岩森　光，山路　敦
前･現アイランドアーク編集長：井龍康文，前川寛和，伊藤　慎，海野　進

５．その他

伊藤理事より，次のことを検討課題とすることが提案され，今後執行理事会，理事会等で検討することが確認された．

1）地方区代表理事選出の問題点（２年後の選挙に間に合うよう検討を進める）
2）名誉会員の選出基準その他の検討，関連して会費のあり方等も含めてシニア会員制度の検討

以上，この議事録が正確であることを証するため議長および出席理事・監事は次に記名，押印する．

2012年５月19日

2011年度 第10回執行理事会議事録

期　日：2012年４月７日（土）10:00～12:00
場　所：北とぴあ　901会議室
出席者：宮下会長　久田副会長　渡部副会長　藤本常務理事　斎藤副常務理事　石渡　井龍　小嶋　坂口　高木　内藤　中井　西　平田　星　向山　山口　各執行理事　竹内，榊原　両理事（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：藤林
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者17名，委任状１名，合計18名の出席．

＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項

1．各種規則変更案の確認をし，一部文言の変更，修正をおこなった．

1）定款の変更（理事会審議事項）

54の２　剰余金配分の禁止事項については，二重否定にならないよう，文章を一部修正することとした．

2）運営規則（理事会審議事項）

16条３項　ポスター賞の決定手続きを現状に合わせて変更する．

また，本日の理事会において見学旅行の名称変更提案を行うが，変更が承認された場合には，「見学旅行案内書」を「巡検案内書」に変更するなど，関連規則（地質学雑誌編集出版規則など）にある「見学旅行」の名称は全て「巡検」に変更する．

3）ジオルジュ編集委員会細則（理事会では報告事項）

著作権の譲渡，掲載物の再利用について，「別途定めることにする」との条文を追加する．

2．地質学会の物販のオンライン化

仕組みとしては，“ネット地学部ちーとも”のサーバーにインストールする．

事務局の体制，販売品の種類や在庫管理の方法などとともに，これらの収支バランス等が課題．

若い世代には有効な手段であるので，他社製品（地質専門用具等）の販売窓口の代理など，活用方法も含めて事務局，会計などとも十分な検討が必要．本日の理事会には審議事項ということではなく，話題提供をする程度にとどめる．

3．125周年事業について

記念事業の実施について，実行組織も含めて検討を始める必要がある．事業費等については，使用目的のない引当金等の目的趣旨の変更なども考慮しつつ検討する．

本日の理事会に125周年記念事業を新年度から検討することの話題を提供する．

4．理事会審議事項の確認

審議内容の確認をするとともに，各説明の担当を決めた．

Ⅱ　報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1．第５回ジオパーク国際ユネスコ会議式典への参加登録について会長あて再度依頼あり．

5/12開会式，5/15閉会式は高木理事が代理出席

2．INHIGEO2011の報告とお礼に鈴木委員長と猪俣事務局長が来所した．報告記事は，４月号Newsに掲載予定．また，会計を含めた最終報告はProceedings 発行後，５月になる見込みとのこと．

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1．日本学術振興会賞（4/18－20応募期間，地質学会へは3/30日まで），日本学術振興会育志賞（6/13～15応募期間，地質学会へは5/末日まで）の推薦依頼→HP, Newsに掲載

2．朝永振一郎記念第７回「科学の芽」賞（筑波大学）後援依頼→例年通り承諾

3．三浦半島活断層調査会より，地質の日記念観察会「深海から生まれた城ヶ島」（たんけんマップ使用）後援依頼（５月12日，10時～15時）があり，承諾した．

4．川崎市「かわさき宙と緑の科学館」（旧川崎市青少年科学館を改築整備）より内覧会の案内状：４月25日（水）14時より

5．近畿地方環境事務所より，第５回地質の日フィールドワーク「熊野のジオサイト潮岬のジオ散歩」の後援依頼があった．例年通り承諾した．

6．藤原科学財団より，2013～2014開催の科学セミナーの募集：１件1200万円２件，７月31日〆切，学会〆切７/２，News，geo-flash, HPに掲載

＜その他＞

・役員交代挨拶状：ダイヤコンサルタント㈱，関東天然瓦斯開発㈱

＜会員＞

1．今月の入会者（16名）

正会員（５名）西城光洋，太田勝一，小川乃絵，松原義雄，佐々木辰雄

正〔院割〕会員（４名）森山功二郎，金井拓人，野崎　篤，南　薫都

正〔学部割〕会員（７名）藤井　悟，猪川千晶，日野原達哉，生野賢司，工藤直樹，鶴田　卓，松田周大

2．今月の退会者（７名：３月執行理事会後の届出分．３月末退会手続き済み）

正会員（６名）大鹿淳也，平井　彰，後藤清彦，山田伊久子，加藤兼秀，宇治原雅之

正〔院割〕会員（１名）宮田昌幸

※2011年度末退会者・除籍者一覧→回覧

3．今月の逝去者（正１名）

吉田　義（逝去日：2012年３月２日）

4．３月末日会員数

賛助：26　名誉：71　正会員：3686　正会員：3675　正（院割）会員：180　正（学部割）会員：13　　合計3965（昨年比－76）

5．50年顕彰会員：19名

＜会計＞

・合同大会の会計については，年度末に決裁が間に合わず，今年度の未払い扱いとする．

＜その他＞

・光記念館の展示後援について，内容としては問題がないことを確認したので，後援することとした．

(2) 広報部会：広報委員会（坂口，内藤）

・ジオルジュの進捗状況について

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

・2012年大阪大会関係報告

・情報展の科研費採択通知あり：130万円

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

(5) 学術研究部会：その他

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

・今月の編集状況

2012年度投稿論文　総数22編［総説２（和文２），論説17（和文15，英文２），ノート２（和文２），報告１（和文１）］口絵１（英文１）査読中51編　受理済み　27編（うち通常号11　特集号16）

・ISIへの地質学雑誌の登録は，投稿を会員に限定している点がマイナスポイントになっていると思われる．

(7) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

・編集状況報告

(8) 企画出版委員会（山口）

・フィールドジオロジーの火山と第四紀については８月刊行の予定との連絡があった．

・超歴史年表

(9) 社会貢献部会（藤林）

・地質の日行事「街中ジオ散歩　in Tokyo」（５月13日）に対し，産総研地質調査総合センターに後援依頼を申請中．

(10) ジオパーク支援委員会（高木）

・ジオパークの状況報告

(11) 震災復興事業プラン検討WG（高木・向山・藤本・斎藤）

・６件の採択事業の事業費について，今年度の会計支出が完了した．

このうち，調査，研究報告資料が提出されたのは３件，うち１件はニュース誌に掲載済み

2012年４月20日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）　宮下　純夫

署名人　執行理事　藤本光一郎

2011年度
第11回執行理事会議事録

期　日：2012年５月19日（土）10:00～12:00

場　所：北とぴあ　801会議室

出席者：宮下会長　渡部副会長　藤本常務理事　斎藤副常務理事　石渡　井龍　坂口　高木　内藤　中井　西　平田　星　藤林　向山　山口　各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：久田副会長　小嶋

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名，委任状　２名，合計18名の出席．

＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項

1．大学からの問い合わせ回答案について

顧問弁護士，法務委員長と相談の上，回答書案を作成した．本学会出版物に発生した問題ではないので，地質学会として判断する立場にない内容についてはその旨回答し，地質

学雑誌，の著作権管理の仕組みに関する資料（地質学雑誌編集出版規則，保証書，倫理綱領等）を回答書に添付する．また，回答書案の時候の挨拶等は削り，直接本題に入る文章とする，回答１）の文章からも相手側を推諮るような文言は削除するなどの修正を加えた．

今後のこととして，地質学会の出版物について引用の不正が起きた場合，どのような対応をすべきか検討する．

２．地質学雑誌補遺：巡検案内書CD-ROMを８月号に添付する件について

大阪大会の巡検案内書は冊子版の出版がなく，CD-ROM版の発行のみである．原稿は年会開催以前に完成する見込みなので，従来は雑誌12号に補遺として添付しているCD-ROM版を，８月号に添付したい旨，山路編集副委員長より提案があり，承諾した．ただし，CD-ROM版に出版日を記載して出版することとした．

また，大阪大会巡検案内書担当の竹村代議員より，運営規則第12条に，刊行物として巡検案内書はCD-ROM版と冊子版の記載があることが指摘されたが，この冊子版部分の修正については今後対応することとした．

３．アウトリーチセッションの新設について

星行事委員長より，レギュラーセッション，トピックセッションと並ぶ，アウトリーチセッション「名称：日本地質学会アウトリーチセッション（市民向けポスター展示会）」の新設が提案され，承認された．大阪大会の予告記事で募集開始する．

なお，アウトリーチセッションは追加発表負担金がないことから，目的から外れた発表が出ないよう注意する．

４．総会運営確認

議案説明分担，時間等の確認をおこなった．

１号議案中の各賞の紹介，４号議案の幹事辞任については若干の説明をすることを確認．

５．その他

１）物品のオンライン販売については試験的に開始する（メール審議の確認）

会員割引等については今後検討する．

２）巡検露頭がいつのまにか看板もなく保護区域になっていたりする例が少なからずあるので，今後は情報収集の必要がある．会員からの身近な情報提供を呼びかけ，情報収集につとめる．

Ⅱ　報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

１．日本科学技術財団より，青少年のための科学の祭典2012（５/12～３/31，東京はじめ全国109会場）の協賛依頼→例年通り承諾．

２．岡山理科大学地球惑星環境研究センター（担当応用物理学科　豊田　新）より，国際会議

3rd Asia Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance dating : including non-dating applications of Luminescence and ESR の協賛依頼→承諾

３．日本原子力学会より，「原子力総合シンポジウム2012」の共催依頼と運営委員の推薦要請あり→共催については例年通り承諾，運営委員は高橋正樹理事を推薦

４．国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会「IAVCEI2013 Scientific Assembly」（2013/07，鹿児島）について同組織委員会から後援依頼→承諾

５．尾瀬保護財団より「第16回尾瀬賞」の募集（４/１～８/31まで）→News誌，HPに掲載

６．山田科学財団より，国際学術集会開催助成：募集期間４/１～2013/２/28，会議規模150名以内，助成金額700万円以内→News誌，geo-flash,HPに掲載

７．学術審議会測地学分科会（分科会長　藤井敏嗣）より，「地震及び噴火予知のための観測研究計画」（計画期間：平成21年度～25年度）の見直し計画案についての意見要請があり，会長が意見を提出した．

＜その他＞

・技術者教育認定機構JABEEの総会開催５/21欠席

・大学評価・学位授与機構より，機関別認証評価に係わる専門委員（平成24年度実施分）の選考結果として，当学会からの推薦者は見送りとの連絡あり

・基礎地盤コンサルタンツ新社長：岩崎公俊氏

＜会員＞

１．今月の入会者（16名）

正会員（３名）Asri Jaya，佐藤悠介，上島昌晃

正〔院割〕会員（13名）宗田和希，野口周平，村井辰太朗，小林由季，関　琢磨，南　裕介，鈴木慶太，木村　元，半田玲奈，中村めぐみ，吉田開祐，大山美帆，Chemnad Razak Abdulla Nasheeth

２．今月の退会者（１名）

正会員（１名）：安原盛明

３．今月の逝去者（２名）

正会員：熊崎憲次（逝去日：５/２），福田登志郎（５/４）

４．４月末日会員数

賛助：26　名誉：71　正会員：3887　正会員：3783　正（院割）会員：100　正（学部割）会員：４　合計　3984（昨年比　－64）

＜会計＞

・合同大会の会計については，年度末に決裁が間に合わず，今年度の未払い扱いとする．

(2) 広報部会：広報委員会（坂口，内藤）

・ジオルジュ創刊号が発行（５/10）された会員には５月号雑誌とともに配布予定．

その他，博物館，地学部等のある高等学校，その他機関購読の可能性のあるところに宣伝のために配布する．

・地質学会物品販売のオンライ化について検討し，販売を開始

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

・大阪大会について

大阪大会キャッチコピー「都市から発信する地質学」，その他スケジュール等の説明

・復旧復興に関わる調査・研究事業の発表はポスター会場で開催．

・地学教育委員会として，新旧の地学教科書の比較展示・解説を考えている．

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

韓国地質学会会長Yu，Kang-Min延世大学教授を大阪大会に招待する準備を進めている．

(5) 学術研究部会：その他

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

１）編集状況報告（５月15日現在）．

・2012年度投稿論文　総数49編［総説４（和文４），論説27（和文24・英文３），報告２（和文２），ノート３（和文３）］口絵３（和文２　英文１）・巡検案内書10

・査読中31編

・受理済み　33編（うち通常号17　特集号16）

・118巻５月号：特集号「東北地方太平洋沖地震：統合的理解に向けて」（世話人：岩森　光ほか）（５/22校了予定）

２）委員長交代（小嶋→山路）・委員の退任

(7) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

・編集状況報告

(8) 企画出版委員会（山口)

・地方地質誌「東北」および「四国」は今夏から秋にかけ出版編集にかかるとのことが朝倉書店編集部から報告があったこの２巻で刊行終了となる

(9) 社会貢献部会（藤林）

・地質の日行事「街中ジオ散歩　in Tokyo」（５月13日）は無事終了，32名の参加者があった．

(10) ジオパーク支援委員会（高木）

第５回ジオパーク国際ユネスコ会議は５月11日～15日に島原市で開催され，31カ国593名（過去最多）が参会したジオパーク閉会式に「島原宣言」が発表され，ジオパークがユネスコの支援事業から直接事業になる可能性が記されている．詳細は日本ジオパークネットワークのホームページ参照．

(11) 地学オリンピック支援委員会（久田）

(12) 震災復興事業プラン検討WG（高木・向山・藤本・斎藤）

昨年度の復旧事業プラン紹介のため，地惑連合の地質学会ブースに宣伝ポスターを貼ることとした．

(13) 連携事業委員会（渡部）

(14) 支部長連絡会議（渡部）

（15）地質災害委員会（斎藤）
・学術会議の震災以降の対応をする28学会に入っていないので，情報収集する．
・紀伊半島の災害は応用地質学会と地盤工学会で継続して検討が行われているが，地質学会が外れている．

2012年６月９日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）　宮下　純夫
署名人　執行理事　藤本光一郎

表紙紹介：第３回惑星地球フォトコンテスト入選作品：「凍土の星」

写真：兼子昌根（千葉県）　撮影場所：ロシア上空の飛行機内

【撮影者より】ヨーロッパから日本へ向かう飛行機は北極圏上空を飛行する時があり，そういう場合はすばらしい風景が飛行機の窓から見ることが出来ます．高度一万メートルからの地球はすばらしいの一言です．これ以上の高度から地球を見るには宇宙船に乗るしかありませんが，いつかは宇宙船から地球を見てみたいものです．
【審査委員長講評】北極圏のシベリアには行くことは大変なことですが，ヨーロッパ～日本間の旅客機からはこの作品のように容易に眺めることができます．右上に下弦の月が写っていることから南西方向を撮影していることがわかります．低い山並みが続いていますが，シベリアのどのあたりを撮影したものでしょうか．

CALENDAR

2012.7～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2012年

7月　July

★北海道支部：日高変成岩類地質巡検
７月14（土）～16日（月・祝）
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html
問い合わせ：西塚　大（(株）ドーコン）
TEL：011-801-1570

○「青少年のための科学の祭典」2012全国大会
日本地質学会後援
７月28日（土）～29日（日）9:30～16:50
会場：科学技術館（東京都千代田区北の丸公園２-１）
http://www.kagakunosaiten.jp
＊全国各地でも開催されています．
2012年度の開催予定はこちらから
http://www.kagakunosaiten.jp/country/schedule.php

○International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2012（ZMPC2012）
（2012年ゼオライトおよびその類縁化合物に関する国際会議）
日本地質学会協賛
７月28日（土）～８月１日（水）
場所：広島市アステールプラザ（広島市中区加古町４-17）
http://www.zmpc.org/

8月　August

○科学教育研究協議会第59回全国研究大会（鳥取）
「自然科学をすべての国民のものに」
日本地質学会後援
８月３日（金）～５日（日）
場所：鳥取県米子市コンベンションセンターほか
問い合わせ先：
科学教育研究協議会（委員長　佐久間）
TEL/FAX：042-302-3862
e-mail：ped01345@nifty.com

○34th International Geological Congress:IGC
８月５日（日）～10日（金）
場所：Brisban Australia
http://www.34igc.org

○第11回中生代陸域生態系国際シンポジウムおよび韓国の恐竜サイト巡検
シンポジウム：８月15日（水）～18日（土）
巡検（韓国南部の恐竜化石産出地）：８月19日（日）～22日（水）
場所：韓国・光州
http://www.2012mte.org/

○第13回目「地震火山こどもサマースクール」（in 糸魚川ジオパーク）
日本地質学会・日本地震学会・日本火山学会共催
８月18日（土）～19日（日）
テーマ「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」．
参加対象：小学5年～高校生（40名）
http://www.kodomoss.jp/ss/itoigawa

○日本第四紀学会2012年大会
日本地質学会共催
８月20日（月）・21日（火）
場所：立正大学熊谷キャンパス・アカデミックキューブ（埼玉県熊谷市）
http://quaternary.jp/meeting/index.html

9月　September

○ 2012年度日本地球化学会年会
日本地質学会共催
９月11日（火）～13日（木）
場所：九州大学箱崎キャンパス文系地区
http://www.geochem.jp/index.html

★日本地質学会第119年学術大会（大阪大会）
９月15日（土）～17日（月・休）
場所：大阪府立大学ほか
Web参加申込：８月17日（金）締切

10月　October

★2012年地質調査研修
10月29日（月）～11月２日（金）
場所：千葉県君津市およびその周辺（房総半島中部地域）
募集締切：９月21日（金）
詳しくは，学会HPまで

11月　November

○3rd Asia-Pacific Conference on Luminescence and ESR dating
日本地質学会協賛
11月18日（日）～22日（木）
場所：岡山理科大学50周年記念館
http://www.rins.ous.ac.jp/eps/theme/symposium.html

○27th Himalaya-Karakoram-Tibet Workshop
11月28日（水）～30日（金）
プレ・ポスト巡検（１～３日の３コースを予定）
場所：ネパール，カトマンズ
問い合わせ先：組織委員会
hkt27kath@gmail.com
http://www.ngs.org.np

○第28回ゼオライト研究発表会
日本地質学会協賛
11月29日（木）～30日（金）
場所：タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀）
講演申込締切：８月８日（水）
http://www.jaz-online.org/

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

日本地質学会構造地質部会編集

編集委員長:高木秀雄　特別顧問　竹下徹，小川勇二郎，村田明広，白尾元理

日本の地質構造 100 選

（B5 判　180 頁　オールカラー）

定価 3,990 円(税込)を会員特別割引価格 3,700 円(税・送料込)

[2012 年 10 月末日まで]

地質構造を中心に国内の重要な露頭を集めたカラーアトラス
断層，活断層，断層岩，褶曲，小構造，メランジュなどの６つのカテゴリーに区分けし
解説．フォトコンテスト入賞作も紹介．

日本地質学会会員の皆様に『日本の地質構造 100 選』を特別割引価格で販売をいたします．お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会構造地質部会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店
［問い合せ先］　〒162-8707 東京都新宿区新小川町 6-29
株式会社 朝倉書店　編集部：千葉　Tel.03-3260-1967
［お申し込み］　本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］　書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

会　員　特　価　申　込　み　書

Fax No.03-3268-1376　朝倉書店編集部　千葉 行

日本の地質構造 100 選　　会員特価 3,700 円（定価 3,990 円）　　冊

お名前：

ご送付先：〒　　－

ご所属：

tel.　　fax.

備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会の新広報誌「ジオルジュ」を創刊しました（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

申込・問い合わせ：**一般社団法人 日本地質学会**
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

地質情報展2012

過去から学ぼう 大地のしくみ おおさか

2012年 9月

15(土) 16(日) 17(月・祝)

15日 13：00～17：00
16日 9：30～17：00
17日 9：30～16：00

入場無料

大阪市立自然史博物館・長居植物園へ入場される場合は、別途入場料が必要となります。

会場：大阪市東住吉区長居公園
大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

主催：一般社団法人日本地質学会・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター・大阪市立自然史博物館
後援：大阪市教育委員会・堺市教育委員会・大阪府・NHK大阪局・毎日新聞社・朝日新聞社・一般社団法人全国地質調査業協会連合会・日本ジオパークネットワーク
（後援予定）大阪市、堺市、読売新聞大阪本社、関西地質調査業協会

大阪および周辺地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果や地震・津波・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に“展示・解説”します。小学校入学前のお子様からお年寄りまで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな“体験学習コーナー”を用意しており、実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展2012おおさか」にご来場ください。

【問い合わせ】
独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報展開催事務局
E-mail: johoten2012jimu-ml@aist.go.jp / TEL: 029-861-3836
URL: http://www.gsj.jp/HomePageJP.html

「地質情報展 2012 おおさか 過去から学ぼう 大地のしくみ」は、平成24年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

©一般社団法人日本地質学会 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156 E-mail：main@geosociety.jp ホームページ http://www.geosociety.jp